

男女共同参画に関する市民意識調査

報 告 書

平成22年6月

日 田 市

目 次

<u>I. 調査の概要</u>	1 ~ 8
1. 調査の目的	
2. 調査項目	
3. 調査設計	
4. 報告書の見方	
5. 回収結果	
(1) 回収率	
(2) 回答者について	
<u>II. 調査結果のまとめ</u>	9 ~ 17
<u>III. 調査結果の分析</u>	18 ~ 82
1. 男女の意識について	18 ~ 28
(1) 性別役割分担意識	
(2) 男女平等の状況	
2. 家庭生活について	29 ~ 34
(1) 家庭生活の分担状況	
(2) 男性が参画に必要な取り組み	
3. 仕事について	35 ~ 48
(1) 就業状況	
(2) 職場における男女差別	
(3) 職場における男女格差	
(4) 仕事と家庭生活の両立	
(5) 今後の就業希望	
(6) 仕事と家庭生活の両立に必要なこと	
(7) 女性の就業に対する考え方	
(8) 女性への就業支援	
(9) 自営業者の経営方針への参画	
(10) 男性の育児・介護休暇取得	
(11) 育児・介護休暇が取りづらい理由	
4. 地域活動について	49 ~ 51
(1) 地域における女性の参画状況	

(2) 女性が活動しにくい状況の内容		
5. 健康について	5 2
(1) 健康診断の受診状況		
(2) 健康診断を受診しなかった状況		
6. 少子・高齢化について	5 3
(1) 出生率低下についての意識		
(2) 高齢者介護のあり方		
7. 女性の人権について	5 4～5 9
(1) 配偶者等からの暴力		
(2) 職場における性的嫌がらせ		
8. 政策決定の場への女性の参画について	6 0～6 1
(1) 女性の審議会等への登用状況		
(2) 女性委員が少ない理由		
9. 男女共同参画への要望について	6 2～8 2
(1) 男女共同参画社会実現に必要な取り組み		
(2) 男女共同参画社会実現に対する意見		
<u>IV. アンケート調査票</u>	8 3～9 6

I. 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、日田市男女共同参画基本計画の改訂にあたり、市民の家庭生活・職場・社会活動などの様々な場面における男女の意識や実態を把握し、基本計画改訂の基礎資料とするとともに、市民の男女共同参画に関する意識啓発を行うことを目的として調査を行う。

2. 調査項目

調 査 項 目		
	回答者について	問 1 ～問 9
(1)	男女の意識について	問 1 0 ・問 1 1
(2)	家庭生活について	問 1 2 ・問 1 3
(3)	仕事について	問 1 4 ～問 2 4
(4)	地域活動について	問 2 5 ・問 2 6
(5)	健康について	問 2 7 ・問 2 8
(6)	少子・高齢化について	問 2 9 ・問 3 0
(7)	女性の人権について	問 3 1 ～問 3 6
(8)	政策決定の場への女性の参画について	問 3 7 ・問 3 8
(9)	男女共同参画への要望について	問 3 9 ・問 4 0

3. 調査設計

- | | |
|-------------|-------------------------------------|
| (1) 調査対象 | 市内に居住する 20 歳以上の男女 |
| (2) 標本の抽出方法 | 住民基本台帳による無作為抽出 |
| (3) 標本数 | 3, 000 人 |
| (4) 調査方法 | 郵送配布－郵送回収 |
| (5) 調査期間 | 平成 21 年 11 月 30 日～平成 21 年 12 月 18 日 |

4. 報告書の見方

- (1) 図表中の回答者数は「件数」で表している。
- (2) 前回調査とは平成 17 年度に行った市民意識調査を表し、県調査とは平成 21 年度に県が行った意識調査を表す。
- (3) 回答は、回答者数を基数とした百分率 (%) で表し、小数第二位を四捨五入した。このため、百分率の合計が 100%にならないことがある。

5. 回収結果

(1) 回収率

45.6% (1,369人)

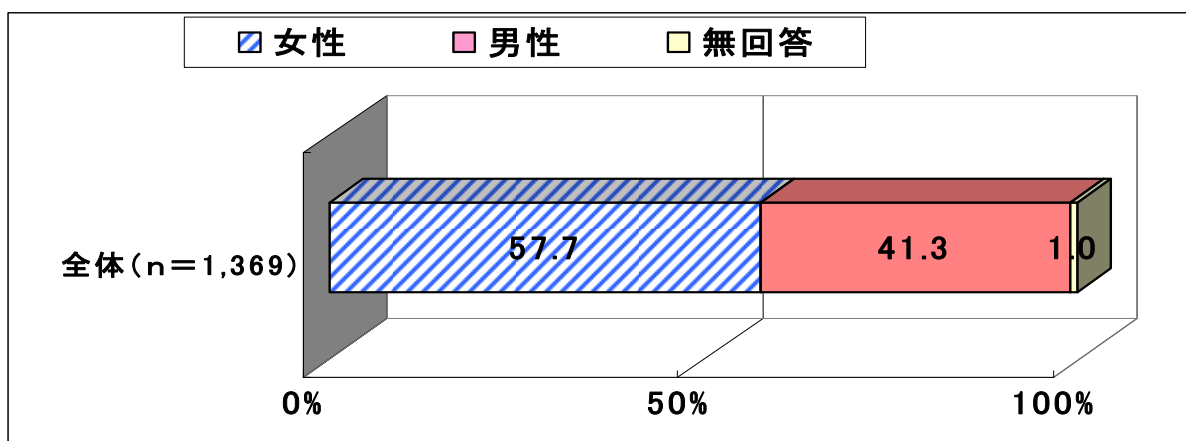
※前回調査 45.4%

(2) 回答者について

問1 性別

あなたの性別は。

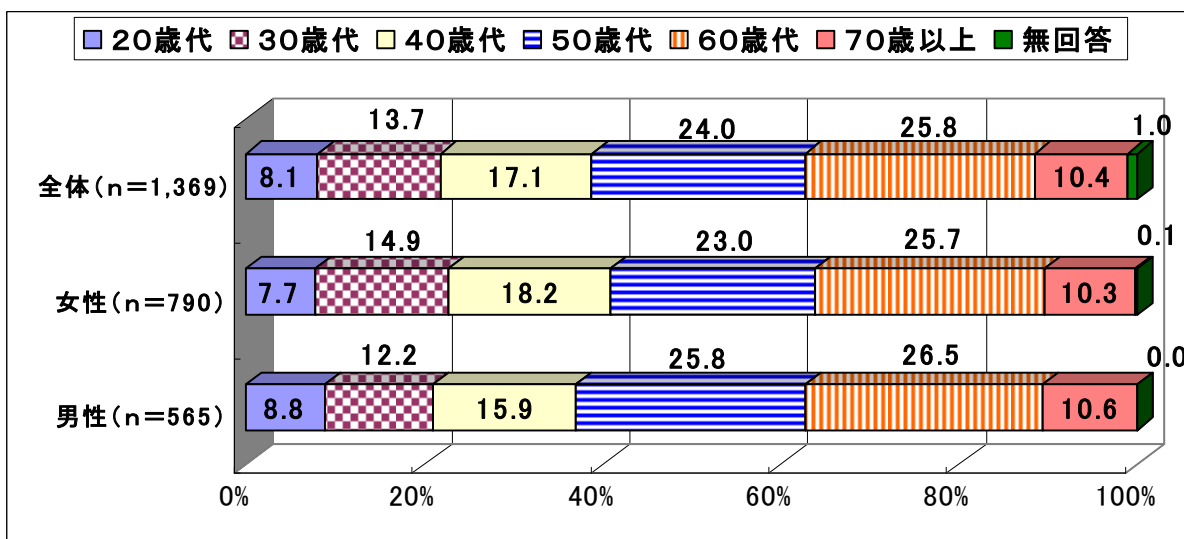
女性が790人(57.7%)、男性が565人(41.3%)、無回答14人(1.0%)となっている。



問2 年齢

あなたの年齢は。

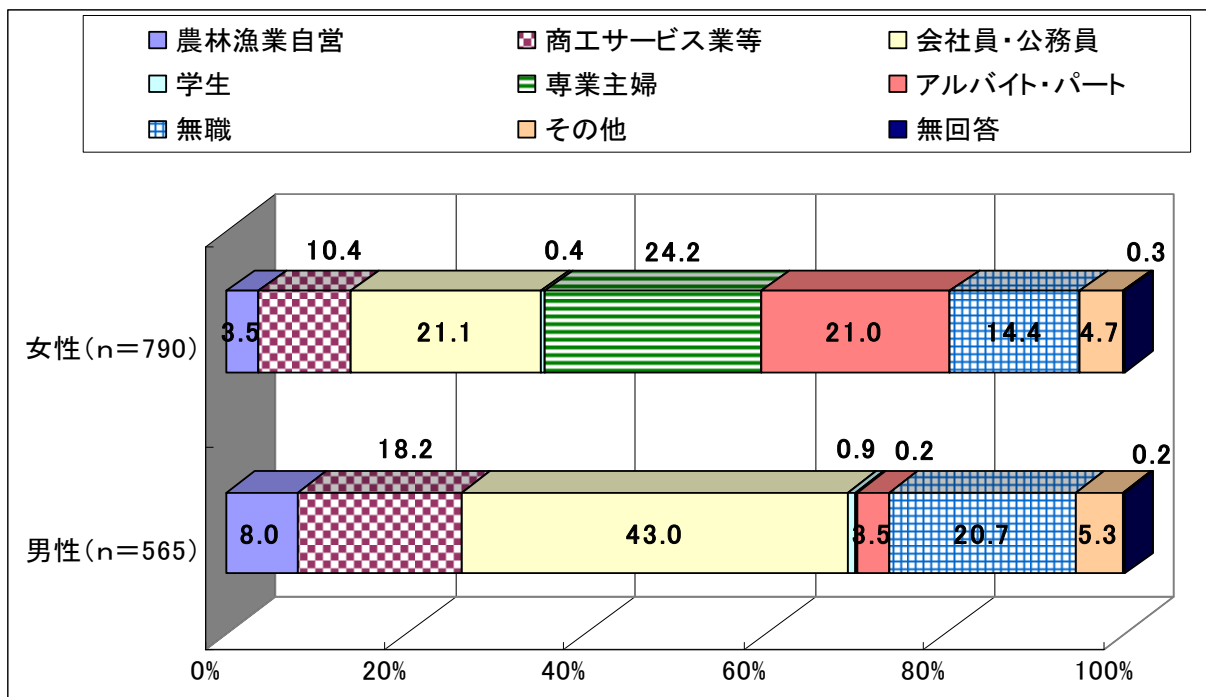
60歳代が25.8%と最も多く、次いで50歳代(24.0%)、40歳代(17.1%)、30歳代(13.7%)、70歳以上(10.4%)、20歳代(8.1%)となっている。



問3 職業

あなたの職業は。

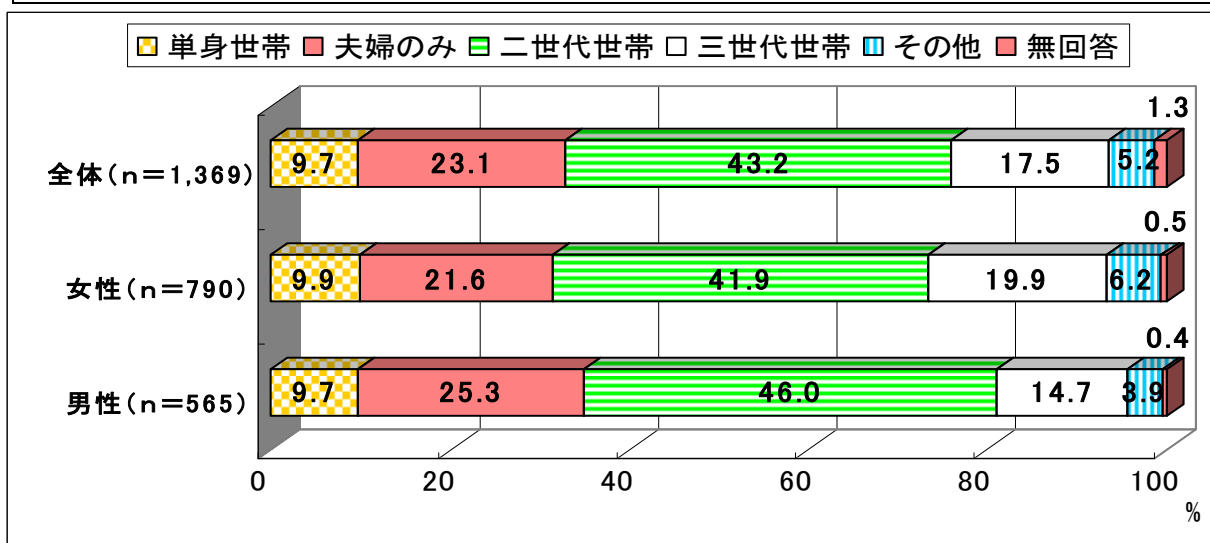
性別にみると、女性では「専業主婦」(24.2%)が最も多く、次いで「会社員・公務員」(21.1%)、「アルバイト・パート」(21.0%)が続いている。男性では「会社員・公務員」(43.0%)が最も多く、次いで「無職」(20.7%)、「商工サービス業等」(18.2%)が続いている。



問4 家族構成

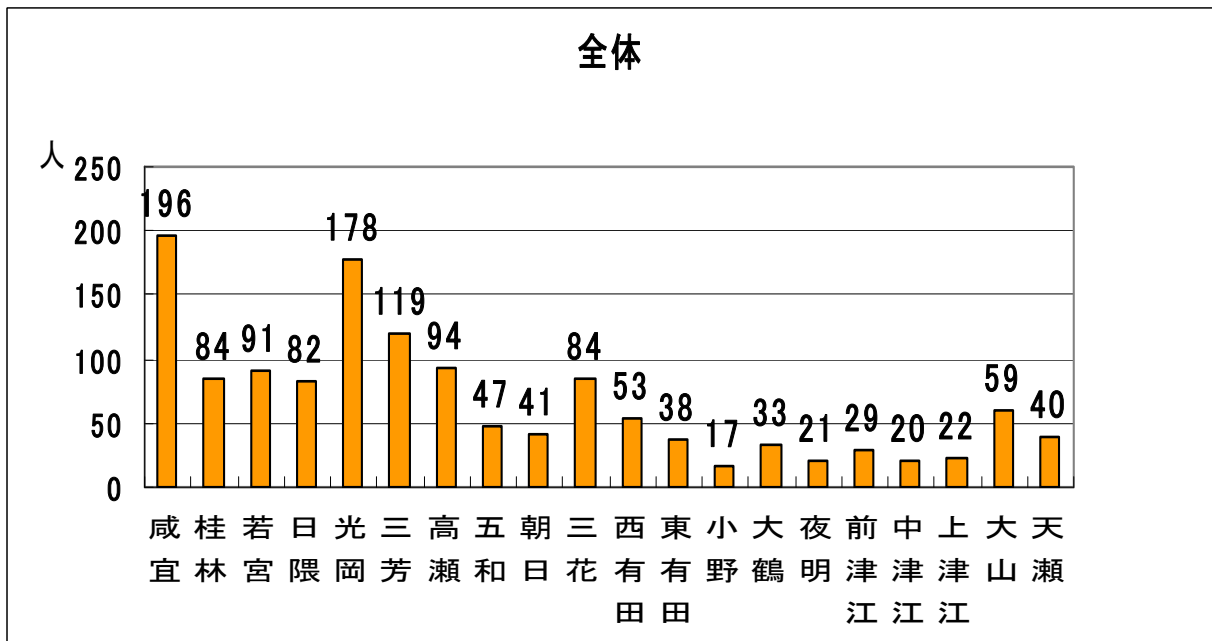
あなたの家族構成は。

「二世世代世帯」が43.2%で最も多く、次いで「夫婦のみ」23.1%、「三世世代世帯」17.5%、「単身世帯」9.7%となっている。



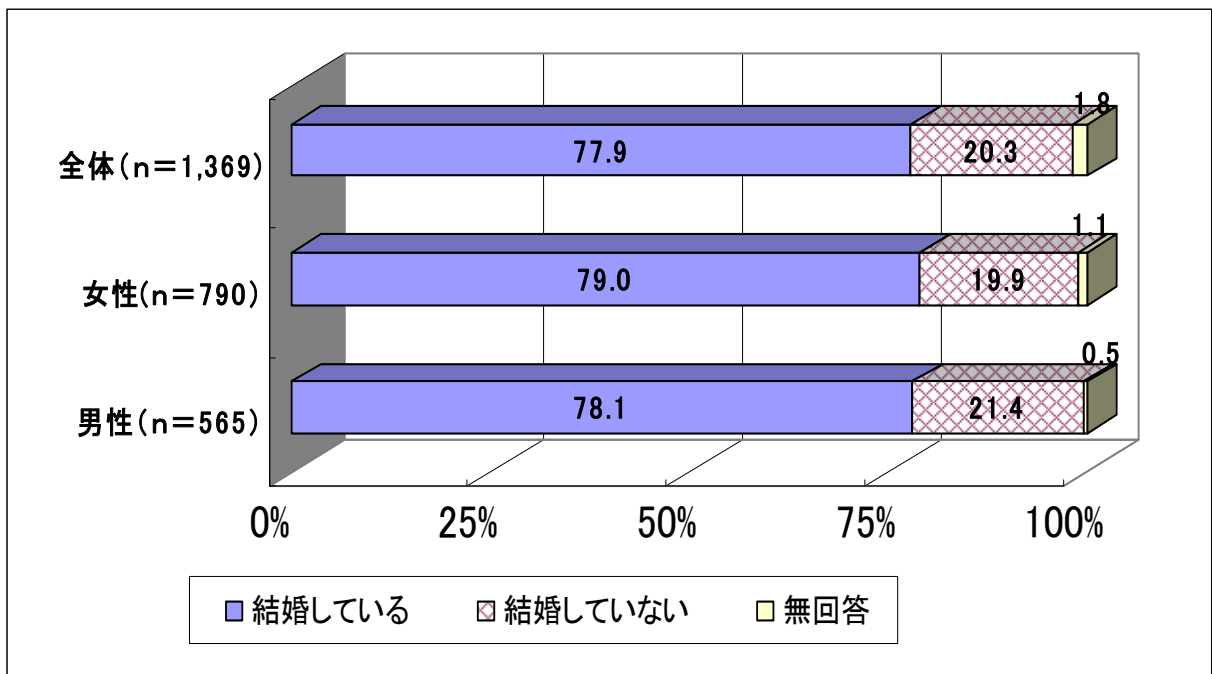
問5 住居地域

あなたが住んでいる地域は。



問6 結婚

現在、結婚していますか。

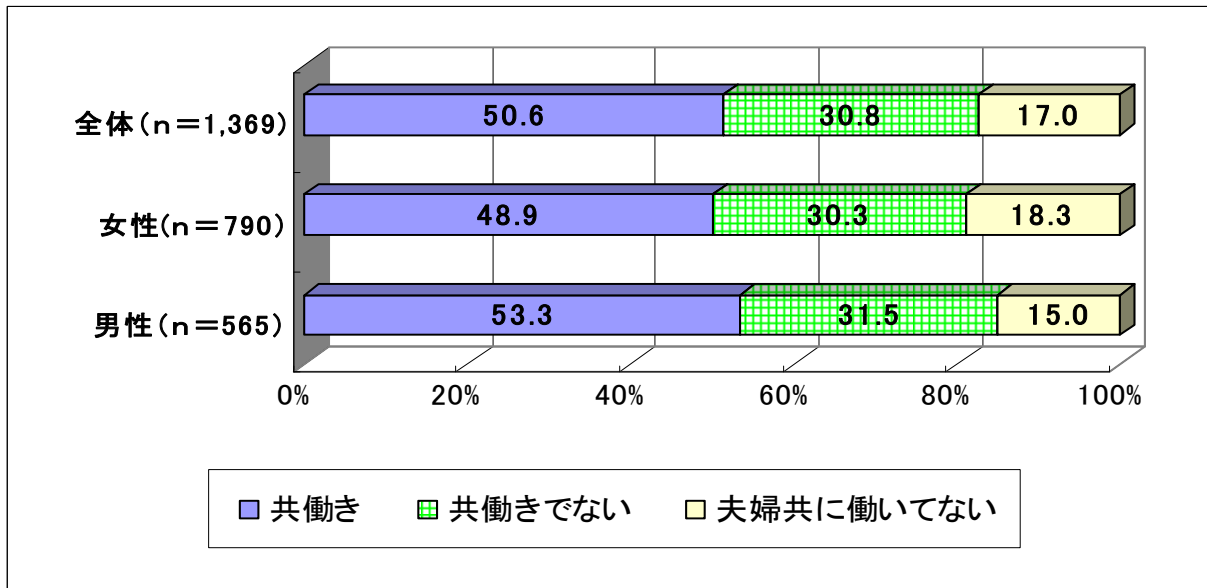


問7 共働き

共働きですか。

(問6で「1. 結婚している」と答えた方のみ回答)

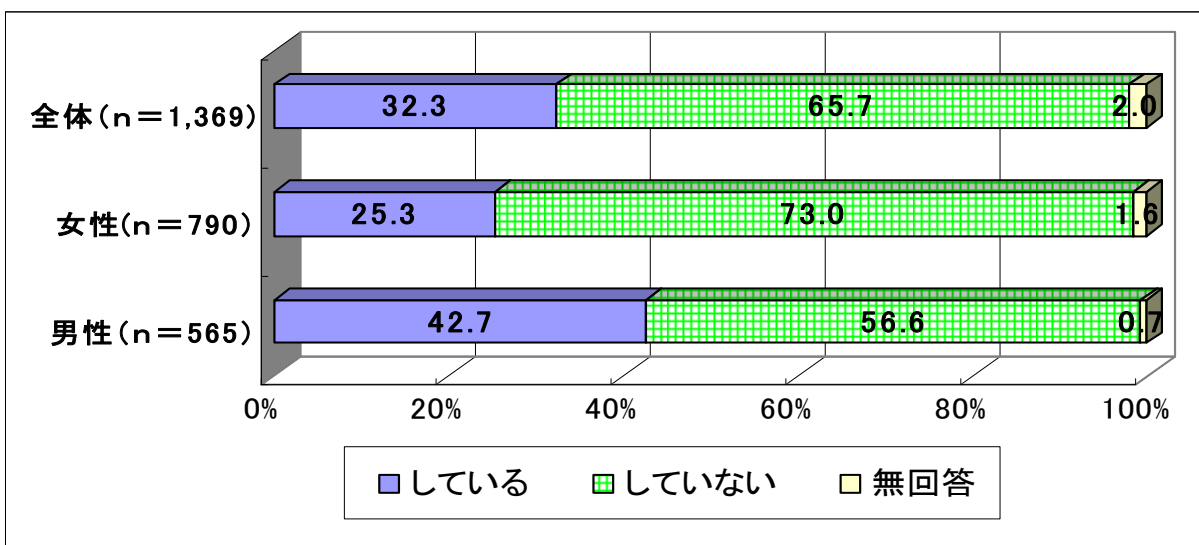
結婚している世帯の内、「共働き」は50.6%、「共働きでない」が30.8%、「夫婦共に働いていない」が17.0%となっている。



問8 地域活動

地域活動またはサークル活動をしていますか。

32.3%が地域活動またはサークル活動をしており、65.7%がしていない。

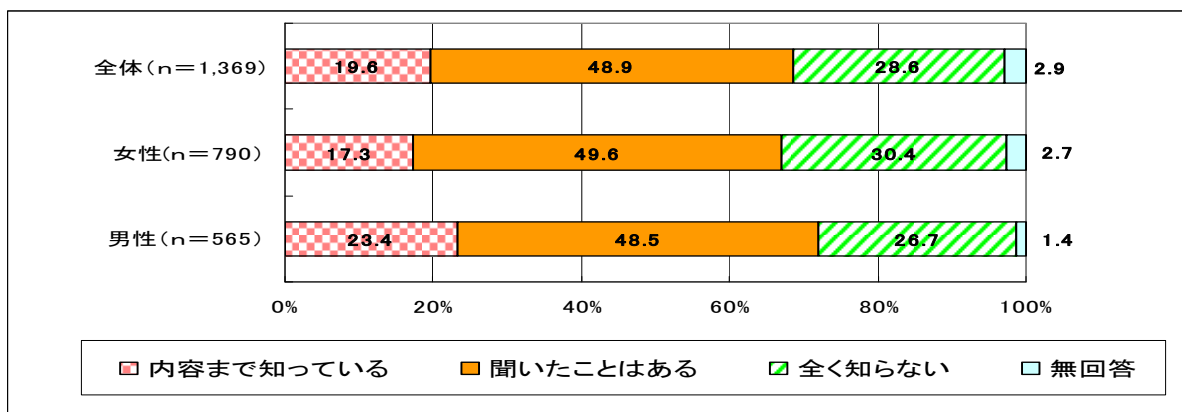


問9 用語、施策の認知

下記の項目を知っていますか。

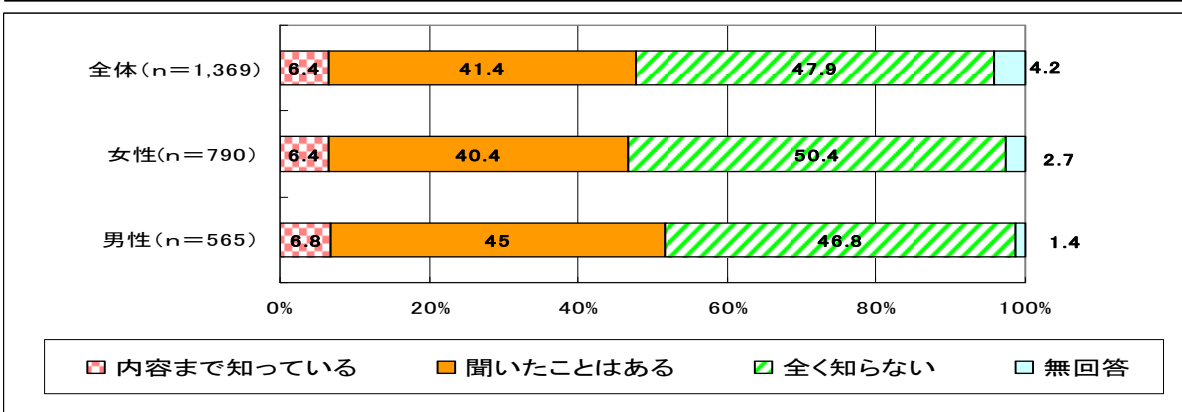
a. 男女共同参画

「内容まで知っている」と「聞いたことはある」を合わせると68.5%を占める。



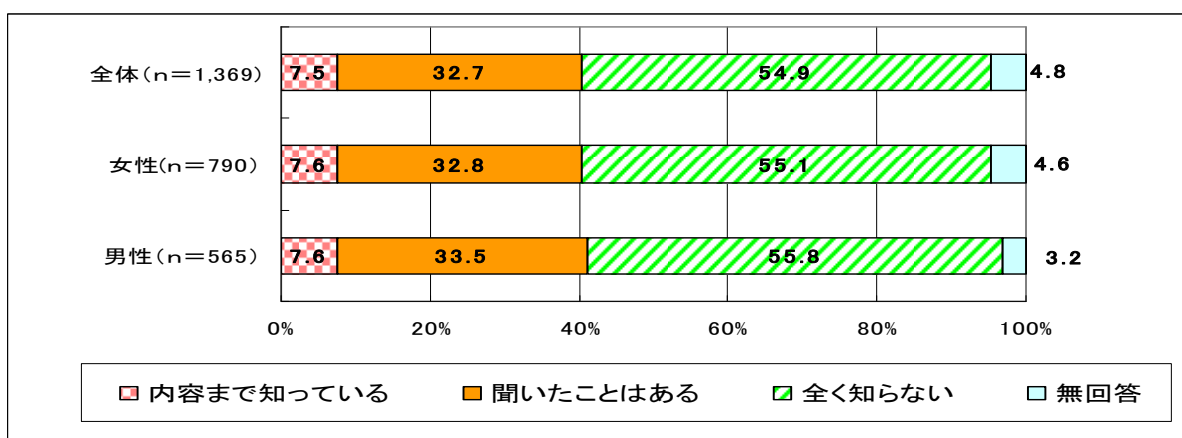
b. 男女共同参画社会基本法

「内容まで知っている」と「聞いたことはある」を合わせると47.8%、「全く知らない」が47.9%を占める。



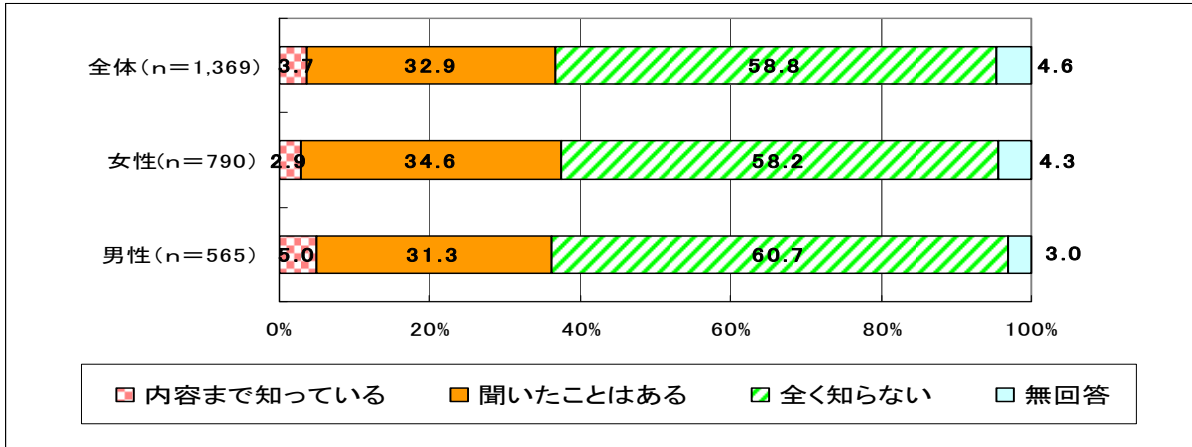
c. 固定的な性別役割分担意識

「内容まで知っている」と「聞いたことはある」を合わせると40.2%、「全く知らない」が54.9%を占める。



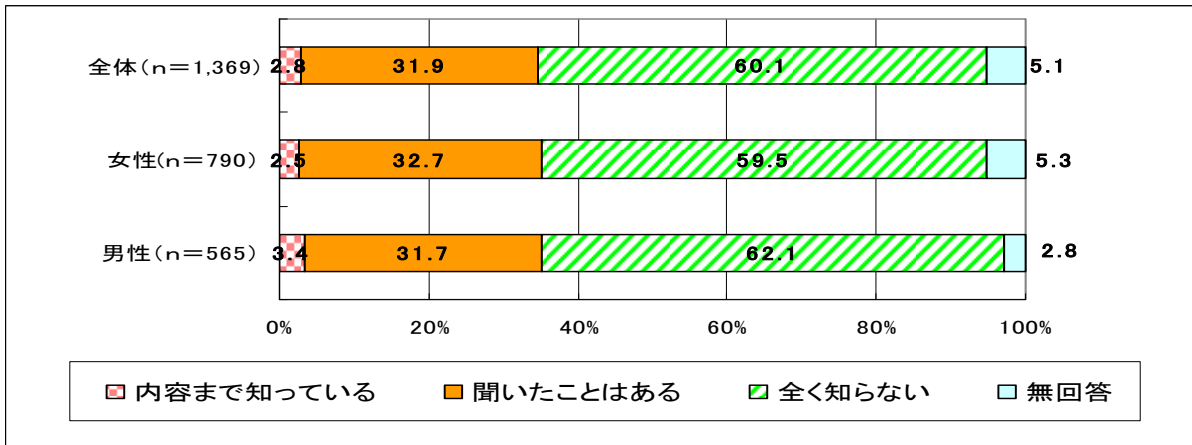
d. 日田市男女共同参画推進条例

「内容まで知っている」と「聞いたことはある」を合わせると36.6%、「全く知らない」が58.8%を占める。



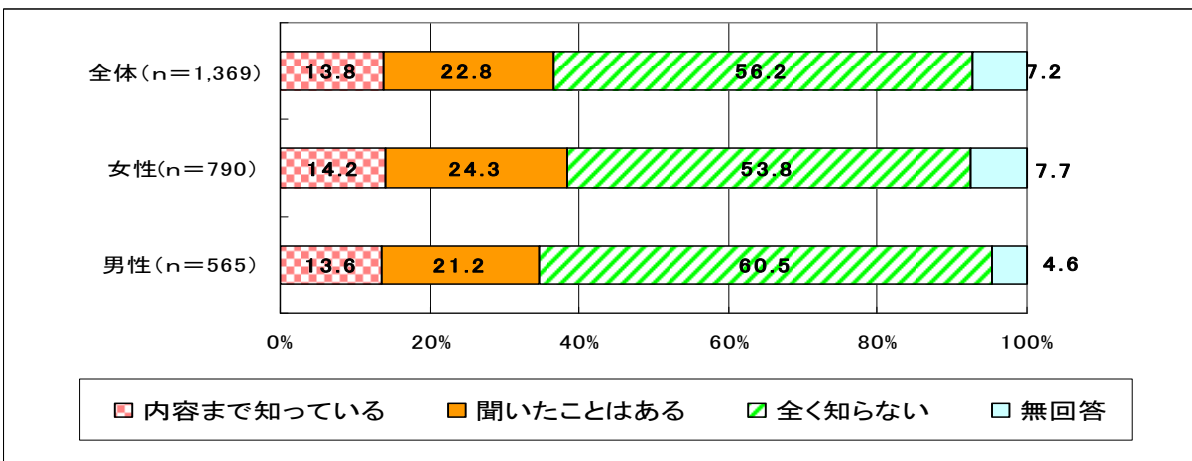
e. 日田市男女共同参画基本計画

「内容まで知っている」と「聞いたことはある」を合わせると34.7%、「全く知らない」が60.1%を占める。



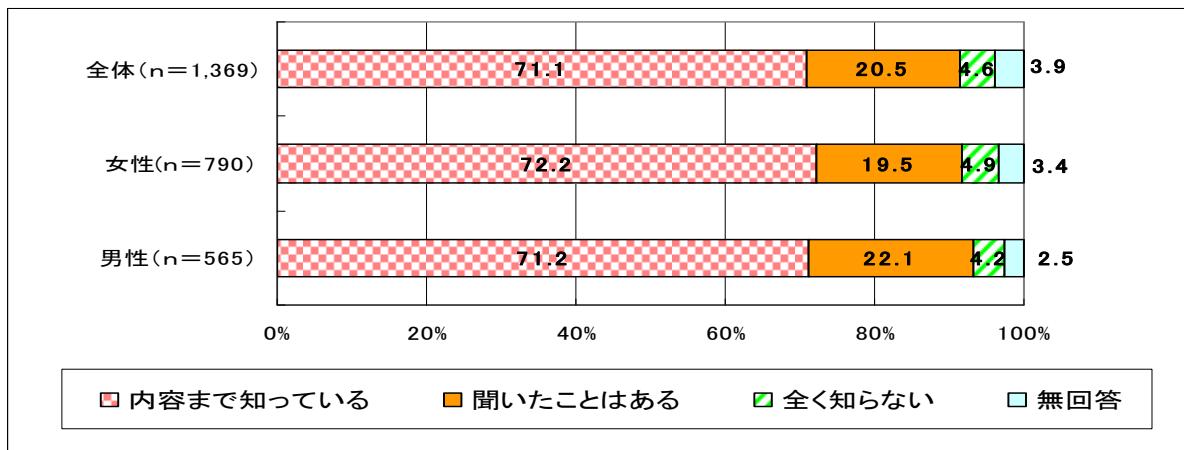
f. ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）

「内容まで知っている」と「聞いたことはある」を合わせると36.6%、「全く知らない」が56.2%を占める。



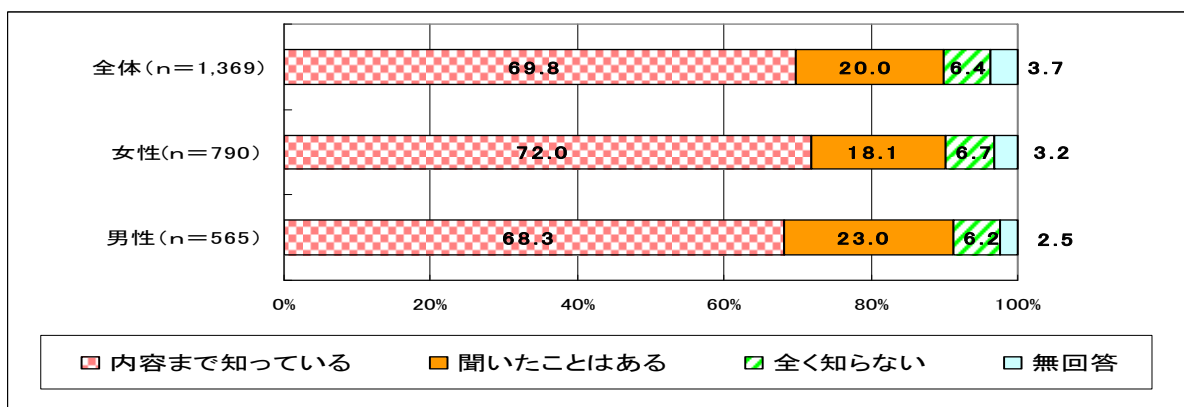
g. セクシュアル・ハラスメント (性的嫌がらせ)

「内容まで知っている」と「聞いたことはある」を合わせると 91.6%を占める。



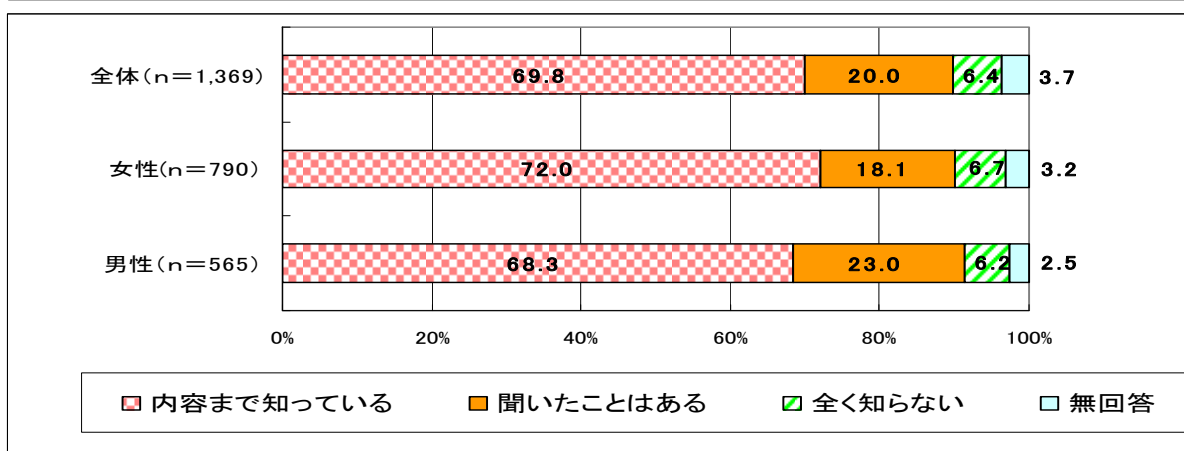
h. ドメスティック・バイオレンス (夫婦・恋人間の暴力)

「内容まで知っている」と「聞いたことはある」を合わせると 89.8%を占める。



i. ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)

「内容まで知っている」と「聞いたことはある」を合わせると 89.8%を占める。



II. 調査結果のまとめ

1. 男女の意識について

(1) 性別役割分担意識 (問10)

- 男は仕事、女は家庭という考え方を全体で見ると、「どちらともいえない」が54.7%で最も高く、次いで固定的な役割分担の考え方を否定する「反対」34.2%、「賛成」8.0%の順に回答されている。
- 前回調査と比較すると、「賛成」が4.6ポイント減となっており、性別役割分担意識に対する向上とも考えられるが、「反対」は9.2ポイント減と2倍の減少となっている点からみれば、必ずしも性別役割分担意識が向上しているとは言いがたい。

(2) 男女平等の状況 (問11)

- 平等感を分野ごとにみると、「平等である」との意識が高い分野は、「学校教育」の場で64.6%、「法律や制度上」で36.8%となっているが、このほかの分野はいずれも『男性優遇』（「男性が優遇されている」＋「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）の割合が過半数を超える状況にある。特に、「しきたりや社会通念」でその割合は71.5%と最も高く、男性の優遇感が最も強い分野となっている。
- 前回調査と比べると、「学校教育」の場、「地域」を除くほとんどの分野で『男性優遇』の割合が増加している。
- 平成21年に実施した全国調査と「平等意識」について比較すると、「地域」でその差が最も大きく、続いて「家庭生活」、「社会全体」となっており、それらの分野での平等意識が低いことがわかる。

2. 家庭生活について

(1) 家庭生活の分担状況 (問12)

- 家庭内における役割分担の現状をみると、「町内行事等への参加」「高齢者の世話・介護」を除く7項目で「主に妻」が最も多く回答されており、女性の家事負担が大きい結果となっている。一方、理想では全ての項目で「夫婦で共同」が最も多く回答され、特に「育児・子どものしつけ」、「PTAへの出席」、「町内行事等への参加」、「高齢者の世話・介護」でその割合は高くなっており、現実と理想に大きな開きあることがうかがえる。
- 前回調査と比べると、殆どの項目の現状で「主に妻」の割合が高くなっていることに対し、理想では「家計の管理」を除く全ての項目で「夫婦で共同」の割合が高くなっており、理想と現実の差が広がっていることがうかがえる。

- 性別で見ると、「食事のしたく」の理想と「育児・子どものしつけ」、「町内行事等への参加」の現状で、男女の最も多い回答が異なっており、男女間で認識の違いがみられる。

(2) 男性が参画に必要な取り組み (問13)

- 男性が女性とともに家事・育児・介護等に参加するために必要なことを全体で見ると、「夫婦や家族間でのコミュニケーション」と回答した割合は27.9%で最も高く、次いで「子どもの時からの家庭教育」21.2%、「職場における労働時間短縮や育児・介護休暇等を取りやすくする」20.4%と続いている。
- 性別で見ると、男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーション」が最も多く回答され、女性では次に「子どもの時からの家庭教育」が多いのに対し、男性では「職場での労働時間短縮や育児・介護休暇等を取りやすくする」が多く回答され、女性は家庭での取り組み、男性は家庭以外での取り組みが必要と感じていることがうかがえる。
- 前回調査と比べると、「職場での労働時間短縮や育児・介護休暇等を取りやすくする」と回答した割合が最も増えている。
- 年代別で見ると、年代が高いほど、「夫婦や家族間でのコミュニケーション」との回答が多く、年代が低いほど、「職場での労働時間短縮や育児・介護休暇等を取りやすくする」との回答が多くなっている。

3. 仕事について

(1) 就業状況 (問14)

- 全体で見ると、「卒業して以来、継続して働いている」との回答が最も多いが、その割合は男性が57.2%と半数以上を占めているのに対し、女性では18.7%となっており、男女間に大きな差があることがわかる。又、現在働いてない方の男性では、「定年退職による」と回答した人が16.1%で最も多いものの、女性では「結婚・出産・育児のためにやめた」が14.3%で最も高い割合を占めている。
- 性別・年齢別で見ると、女性の30～50歳代では「卒業してから働いたが、結婚・出産・育児のため一時やめ、また働いている」との回答が最も多くなっているが、男性では、70歳以上を除く全ての年代で「卒業して以来、継続して働いている」が最も多くなっており、働き方は男女間で大きく違っていることがうかがえる。
- 前回調査と比べると、女性において「結婚・出産・育児のため一時やめ、また働いている」が5ポイント増加し、結婚・育児による離職が依然多いことがうかがえる。

(2) 職場における男女差別 (問15)

- 職場における女性への差別についての問いであるが、全体では「そのようなことはないと思う」との回答が過半数を越え(54.8%)、次の「差別されていると思う」(24.4%)を大きく上回る結果となっている。
- 前回調査と比べると、「差別されていると思う」、「そのようなことはないと思う」の割合は、ほぼ変わらず、女性に対する待遇改善が図られていない。
- 職業別でみると、「差別されていると思う」が最も高いのは「会社員・公務員」となっている。農林漁業自営の「差別されていると思う」は最も低くなっているが、「わからない」と回答した割合が最も高くなっている。

(3) 職場における男女格差 (問16)

- 差別の具体的な内容を全体でみると、「賃金格差」と回答した割合は31.1%と最も高く、次いで「能力評価」15.9%、「昇進昇格差別」14.9%となっている。
- 性別でみると「賃金格差」との回答は、男性に比べ女性の割合が高くなっており、男女間で職場における実態の違いがみられる。
- 前回調査と比べると、賃金格差・能力評価・定年勤続は若干改善の兆しはあるが、昇進昇格差別・補助的仕事・結婚育児による勤続は増加しており、女性の継続就労は厳しいことがうかがえる。

(4) 仕事と家庭生活の両立 (問17)

- 職場における仕事と家庭生活の両立について、全体でみると「とれている」、「だいたいとれている」が78.5%で、「全くとれていない」、「あまりとれていない」が13.5%となっているが、平成20年8月に内閣府が行ったアンケート調査によると、「仕事」優先を理想とする人は全体の2.0%にすぎないが、現実には約半数が「仕事」優先となっているという調査結果もでており、「だいたいとれている」との回答には、そのような実態が含まれていることが考えられる。

(5) 今後の就業希望 (問18)

- 今後の仕事についての考えを性別・年齢別でみると、女性では「将来働きたい」と回答した割合が20歳代で63.2%、30歳代54.1%、40歳代34.5%と各年代で最も高い割合を占めている。一方、男性では20歳代で「すぐ働きたい」40.0%、「将来働きたい」40.0%、30歳代「すぐ働きたい」20.0%、「将来働きたい」40.0%となっている。また、男性の40~60歳代で、「すぐ働きたい」との回答も多くなっている。
- 前回調査と比べると、女性は「将来働きたい」が減少し、高い年代ほど、「いまのままでよい」が増えている。

(6) 仕事と家庭生活の両立に必要なこと (問19)

- 仕事と家庭生活の両立のために必要なことについては、男女ともに「家事・育児・介護などの家庭生活を協力しあう」と回答した割合が最も高くなっている。特に男性は、「週休二日制や労働時間の短縮などの多様な働き方を推進する」の割合が高くなっており、就労環境に関心があることがうかがえる。

(7) 女性の就業に対する考え方 (問20)

- 女性が職業を持つことについて、全体でみると、「結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい」(46.2%)との回答が最も多く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(40.6%)となっている。
- 性別でみると、男性は「結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい」との回答が最も多くなっているが、女性は「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」との回答が最も多くなっており、男女間で女性の就業に対する考え方の違いがみられる。また、前回調査と比べると「結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい」の割合が男女ともに増加している。

(8) 女性への就業支援 (問21)

- 女性が働き続けるために必要な支援等について、全体でみると「子育て後などの再就職・再雇用制度の充実」(20.1%)との回答が最も多く、次いで「家族の協力」(18.7%)、「企業などにおける育児・介護休暇制度などの充実」(15.3%)と続き、前回調査とほぼ同様の結果となっている。
- 性別でみると、女性は「家族の協力」が最も多く、次いで「子育て後などの再就職・再雇用制度の充実」となっているが、男性は「子育て後などの再就職・再雇用制度の充実」が最も多く、次いで「家族の協力」となっており、男女間で意識の違いがみられる。

(9) 自営業者の経営方針への参画 (問22)

- 事業経営の方針等を誰が決定するかは、「主に夫」との回答が53.2%で最も多く、次いで「夫婦で話し合い」が29.4%となっており、決定権は「主に夫」にあることがわかる。前回調査と比べると特に「夫婦で話し合い」の割合が他の項目より増加している。

(10) 男性の育児・介護休暇取得 (問23)

- 男性の育児・介護休暇取得について、全体として88.7%が育児・介護休暇をとるべきと考えているが、その内75.3%は現実にはとりづらいと考えている。県調査と比べても、ほぼ同様の結果となっている。

(11) 男性の育児・介護休暇が取りづらい理由 (問24)

- 育児・介護休暇を取りづらい理由として、「男性が取ることについて、社会全体の認識が十分でない」(23.2%)が最も多く、次いで「職場に取りやすい雰囲気がない」(21.3%)

となっており、職場の雰囲気や社会全体の認識を高める必要がある。

- 県調査(男性)と比べると、「取ると経済的に困る」のポイントが高くなっている。

4. 地域活動について

(1) 地域における女性の参画状況 (問25)

- 自治会等地域活動の場で女性が活動しにくい雰囲気や状況があるかについて、全体で見ると「そういうことはないと思う」と回答した割合が46.5%、「出来にくい雰囲気や状況があると思う」との回答が32.7%と高くなっている。
- 性別にみると「できにくい雰囲気や状況があると思う」と回答した割合は女性34.2%に対し、男性は30.6%となっており、女性の方が活動しにくいと感じている。
- 前回調査と比べると「出来にくい雰囲気や状況があると思う」が0.5ポイント減、「そういうことはないと思う」1.6ポイント増となっているが、県調査と比べると、「出来にくい雰囲気や状況があると思う」の割合は高く、「そういうことはないと思う」の割合は低くなっている。
- 年齢別で見ると、20～30歳代は「出来にくい雰囲気や状況があると思う」が最も多く、40～70歳代は「そういうことはないと思う」との回答が多く、年齢層でその考えが違う結果となっている。

(2) 女性が活動しにくい状況の内容 (問26)

- 地域活動の場で女性が活動できにくい状況の内容を全体で見ると、「役員や催し物の企画等の決定は、主に男性がする」との回答が最も多く(25.5%)、次いで「主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれている」(23.5%)、「地域の活動で女性が発言することは、でしゃばりと思われがちである」(23.3%)、「集会でのお茶だし、調理などは女性だけがするなど役割分担がある」(20.8%)と続き、その割合は比較的近いものとなっている。また、「地域活動の参加について、女性と男性で出不足金に差がある」については、今回調査で新たに追加した項目で、3.7%と高くはないが、そのような状況が存在することがわかる。
- 性別で見ると、女性で「地域の活動で女性が発言することは、でしゃばりと思われがちである」と回答した割合が男性より高く、男性では「主に男性が中心になっている活動と女性が中心になあっている活動に分かれている」が女性より高く、鮮明に意識の差が出ている。
- 前回調査と比べると、「主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれている」のポイントが高くなっている。

5. 健康について

(1) 健康診断の受診状況 (問27)

- 健康診断については、いずれも7割以上が受診している。前回調査と比べると、特に女性の受診率が上昇し、男女ともに健康への配慮がうかがわれる。

(2) 健康診断を受診しなかった状況 (問28)

- 受診しない理由については、男女ともに「健康である」と回答した割合が最も高く(29.9%)、次いで「現在通院している」(19.9%)となっている。また、男性では特に「仕事が忙しくて受ける暇がない」が女性に比べ多くなっている。

6. 少子化について

(1) 出生率低下についての意識 (問29)

- 出生率の低下について、全体で見ると、「教育費などの経済的負担」(29.0%)が最も多く、次いで「男女の晩婚化」(26.6%)、「子育てより仕事に生きがいを感じる」(14.7%)となっている。
- 前回調査と比べると、「男女の晩婚化」が5.2ポイント増となっている。

(2) 高齢者介護のあり方 (問30)

- 高齢者介護のあり方について、全体で見ると、最も多い回答は「男性も女性もともに介護した方がよい」(43.6%)で、次いで男性は「原則として社会全体で行う方がよい」が多くなっているが、女性は「女性だと決め付けるのは問題があるが、現状ではやむをえない」が多くなっている。

7. 女性の人権について

(1) 配偶者等からの暴力

① 暴力の実態 (問31)

- 全体で見ると14.8%で「されたことがある」と回答している。被害体験者の男女の割合は、女性19.2%に対し、男性8.8%となっており、女性が被害の対象となる割合が高くなっている。
- 前回調査と比べると女性4.0ポイント増、男性4.2ポイント増と、男女ともに割合が増えている。

- 性別・項目別にみると、「されたことがある」で最も多い回答は、「大声でどなって威嚇する」、「何を言っても長時間無視し続ける」が上位に挙げられ、全ての項目において女性が多くなっている。ただし、「何を言っても長時間無視し続ける」では男性の回答も多くなっている。一方、「したことがある」はいずれも男性が多くなっており、その内容は「大声でどなって威嚇する」「何を言っても長時間無視し続ける」「殴る、蹴る、たたく、突き飛ばす」の順になっている。

② 相談の有無 (問32)

- 全体でみると、「相談しなかった」との回答が28.3%で最も多くなっており、特に男性の方が高い割合を示している。また、前回調査と比べても「相談しなかった」割合は増えており、相談体制の見直しや相談窓口の周知が必要と考えられる。相談先については、「友人・知人」が最も多く、次に「家族」の順となっているが、性別でみると女性の方が高い割合を示しており、被害を受けた際の男女の対応は大きく違う結果となっている。

③ 相談した結果 (問33)

- 相談した結果の状況を全体でみると、「あまり状況は変わらなかった」が65.1%で最も高く、次いで「良い方向に向かった」19.3%となっている。
- 性別でみると、いずれも「あまり状況は変わらなかった」との回答が最も多くなっているが、女性では「問題が解決された」が4.2%、「良い方向に向かった」22.2%に対し、男性では「問題が解決された」が9.1%、「かえって悪くなった」が9.1%となっている。
- 前回調査と比べると「問題が解決された」、「良い方向に向かった」の割合は減り、「あまり変わらなかった」が増えている。

(2) 職場における性的嫌がらせ

① 嫌がらせの実態 (問34)

- セクシュアル・ハラスメントの被害状況では、男女とも「自分は被害を受けたことがないし、友人・知人で被害を受けた人も知らない」との回答が5割を超え最も多くなっている。
- 性別でみると、少ない件数ではあるが「自分が直接被害を受けたことがある」や「同じ職場で被害を受けた人がいる」との回答は、女性の方がやや多くなっている。
- 前回調査と比べると、直接被害を受けた人は若干減少し、被害を知っているが若干増加している。

② 相談の有無 (問35)

- 全体でみると、6割弱が「相談した」と回答しており、その相談先は「友人・知人・家族に相談した」33.3%が最も多く、次いで「上司・同僚に相談した」16.7%、「公的な機関に相談した」8.3%となっている。前回調査と比べると「公的な機関に相談した」が4.5%から8.3%と約2倍になっている。

③ 相談した結果 （問36）

- 相談した結果の状況を見ると、「あまり状況は変わらなかった」が多く回答されている。

8. 政策決定の場への女性の参画について

（1）女性の審議会等への登用状況 （問37）

- 審議会等委員の女性登用については、全体でみると「男女半々がよい」（47.5%）との回答が最も多いが、一方では、「わからない」との回答も30.1%となっている。
- 性別でみると「男女半々がよい」という割合は、男性よりも女性がやや多く回答されている。

（2）女性委員が少ない理由 （問38）

- 女性委員の少ない理由を全体でみると、「男性優位の社会の仕組みや制度がある」が最も多く（22.2%）、次いで「行政に関心のある女性が少ない」（19.2%）、「関わる機会が少ない」（16.1%）、「女性の登用に対する認識や理解がたりない」（15.8%）の順になっている。
- 性別でみると、男女ともに「男性優位の社会の仕組みや制度がある」が最も多く、同様の認識をもっていることがわかる。

9. 男女共同参画への要望について

（1）男女共同参画社会実現に必要な取り組み （問39）

- 男女共同参画社会の実現のために必要な取り組みを全体でみると、「男女が共に働きやすい就労環境づくり」が20.3%で最も高く、次いで「子育て介護などと仕事の両立のための支援」15.3%、「家庭や地域で男女が共に活動しやすい環境づくり」13.9%などが上位に挙げられている。
- 性別でみると、男女ともに「男女が共に働きやすい就労環境づくり」（女性20.7%男性19.8%）が最も多くなっているが、次いで女性は「子育て・介護などと仕事の両立のための支援」（16.8%）、「家庭や地域で男女が共に活動しやすい環境づくり」（13.5%）の順で回答が多いのに対し、男性は「家庭や地域で男女が共に活動しやすい環境づくり」（14.5%）、「子育て・介護などと仕事の両立のための支援」（13.1%）の順となっており、やや男女間で意識の違いがみられる。
- 前回調査と比べると、「子育て介護などと仕事の両立のための支援」、「男女が共に働きやすい就労環境づくり」、「男性の男女共同参画に対する意識改革」等が増加している。

(2) 男女共同参画社会実現に対する意見 (問40)

- 自由意見

III. 調査結果の分析

1. 男女の意識について

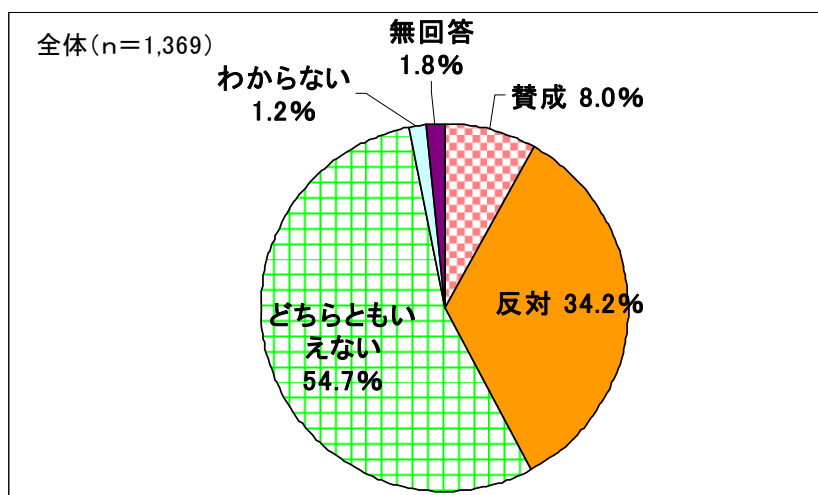
(1) 性別役割分担意識

問10 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはごどう思いますか。

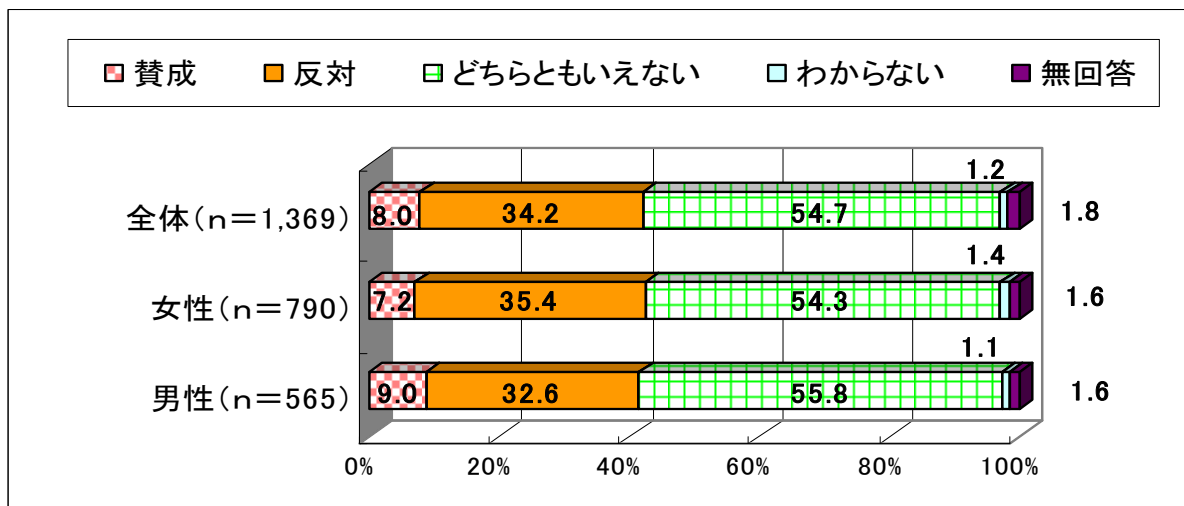
～「男は仕事、女は家庭」という考え方に「どちらともいえない」が最も多くなっている～

全体でみると、「どちらともいえない」が 54.7% で最も高く、次いで固定的な役割分担の考え方を否定する「反対」34.2%、「賛成」8.0%の順に回答されている。

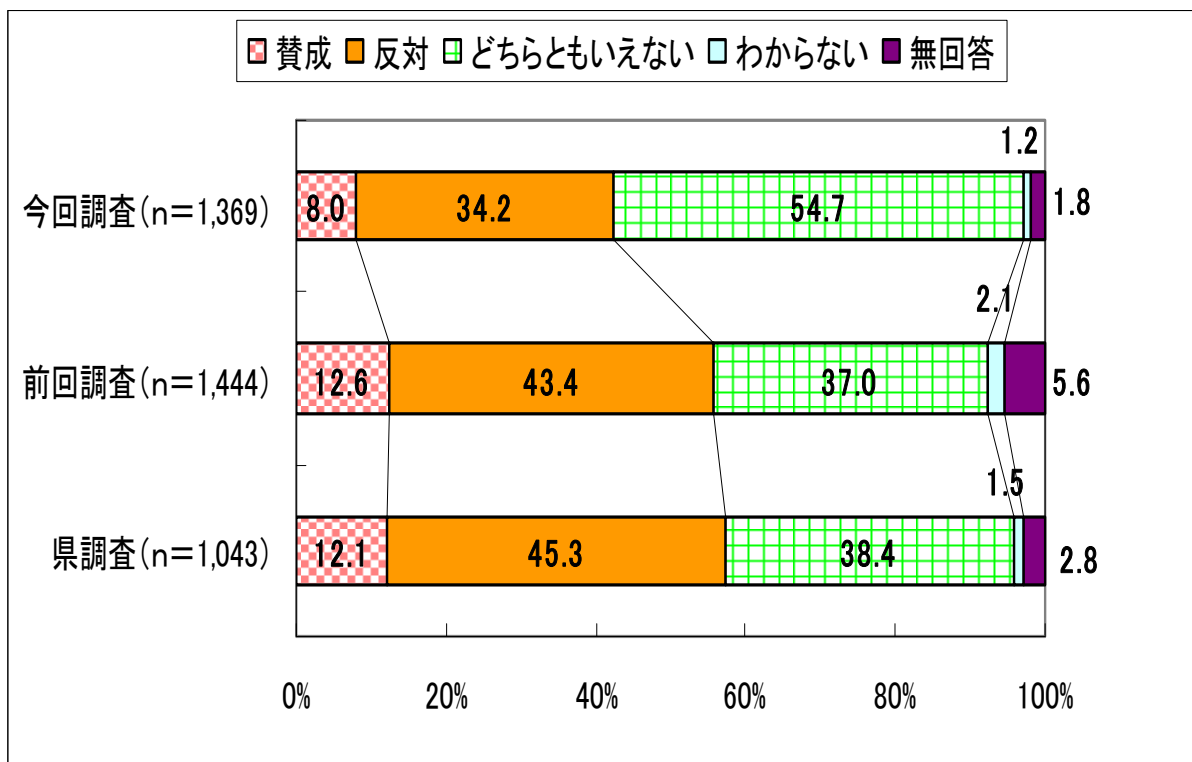
前回調査と比較すると、「賛成」が 4.6 ポイント減となっており、性別役割分担意識に対する向上とも考えられるが、「反対」は 9.2 ポイント減と 2 倍の減少となっている点からみれば、必ずしも性別役割分担意識が向上しているとは言いがたい。



《男女別》



《前回調査、県調査との比較》



(2) 男女平等の状況

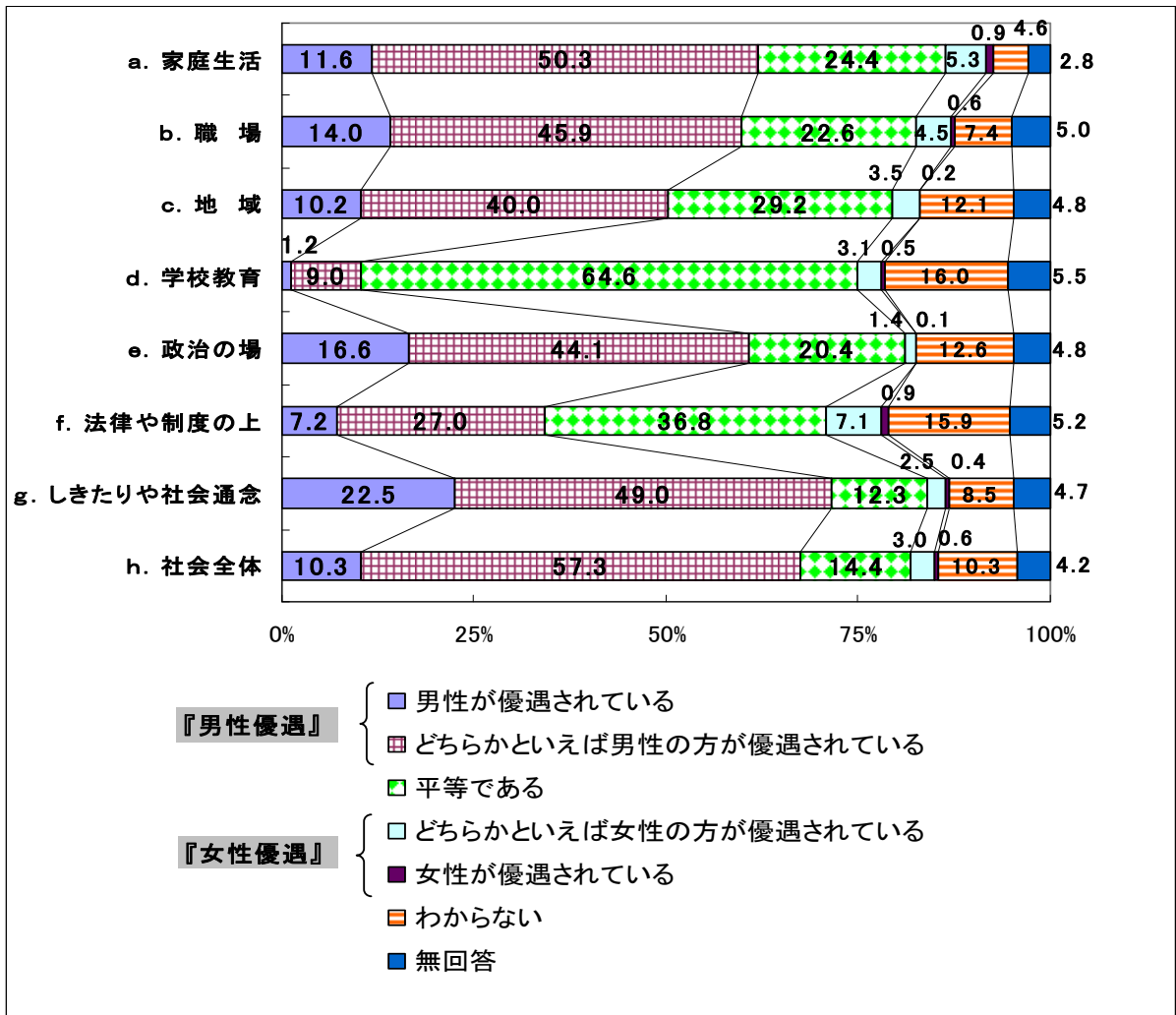
問11 あなたは、次の分野において男女平等がどの程度、実現されていると思いますか。

～ 多数の分野で「男性が優遇されている」と回答 ～

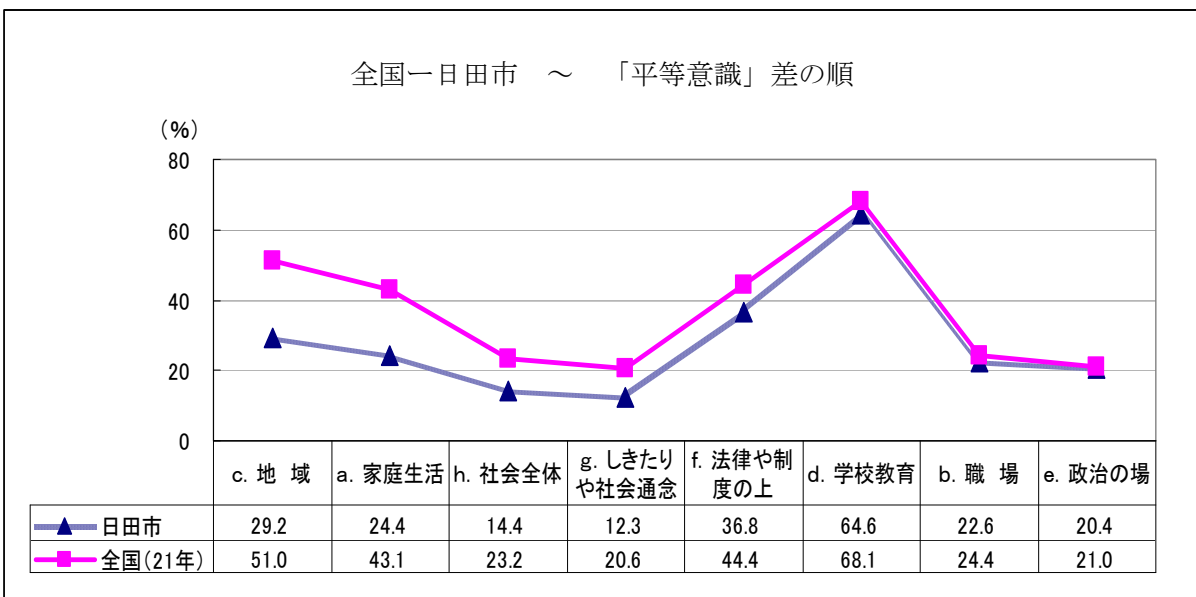
平等感を分野ごとにみると、「平等である」との意識が高い分野は、「学校教育」の場で 64.6%、「法律や制度上」で 36.8%となっているが、このほかの分野はいずれも『男性優遇』（「男性が優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）の割合が過半数を超える状況にある。特に、「しきたりや社会通念」でその割合は 71.5%と最も高く、男性の優遇感が最も強い分野となっている。

前回調査と比べると、学校教育の場、地域を除くほとんどの分野で『男性優遇』の割合が増加している。

平成 21 年に実施した全国調査と「平等意識」について比較すると、「地域」でその差が最も大きく、続いて「家庭生活」、「社会全体」となっており、それらの分野での平等意識が低いことがわかる。

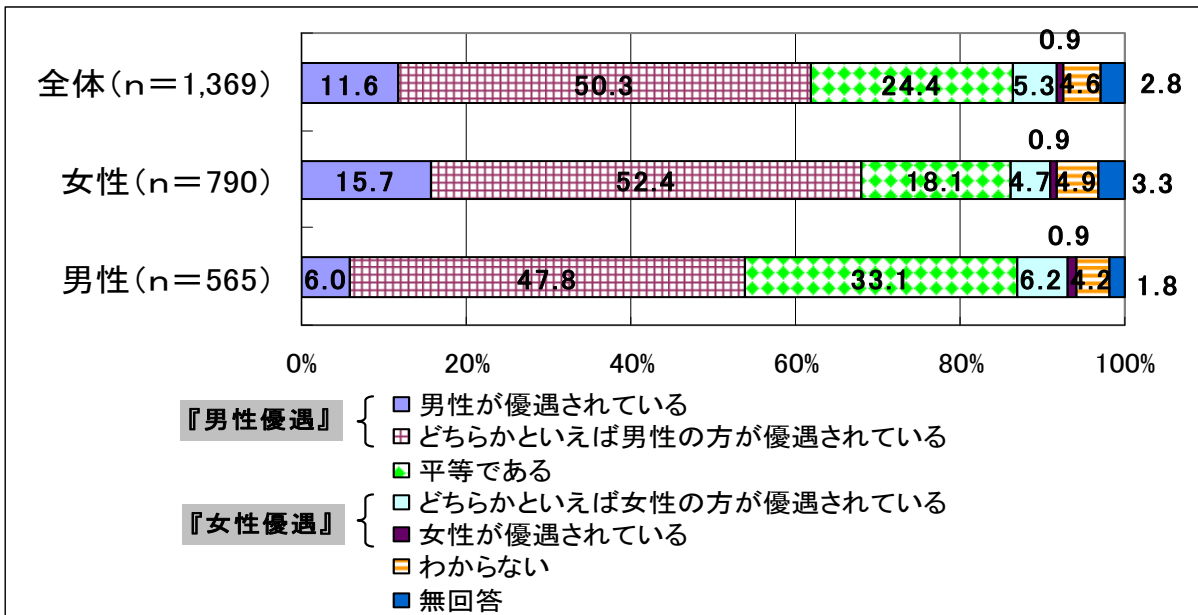


《全国調査との平等意識の比較》

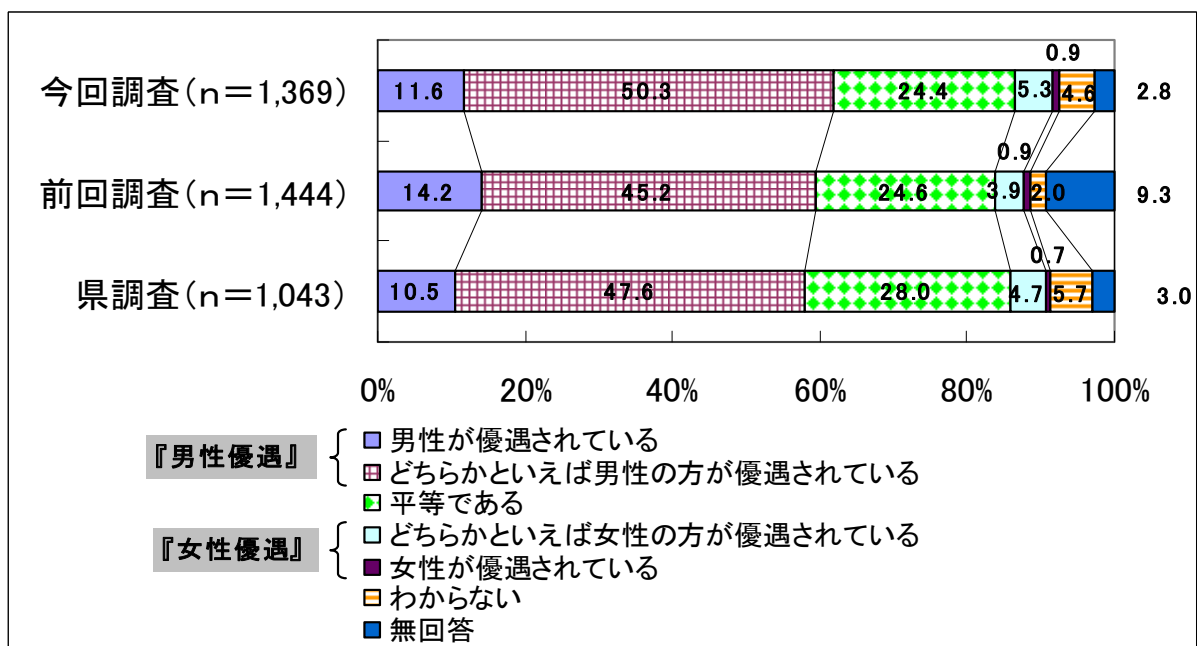


α家庭生活で

全体では『男性優遇』が61.9%を占め、「平等である」が24.4%、『女性優遇』が6.2%となっている。
 性別で見ると、女性では『男性優遇』との回答が男性に比べ多く(女性 68.1% 男性 53.8%)、一方、男性では「平等である」との回答が女性に比べ多く(女性 18.1% 男性 33.1%)、家庭生活における男性優遇感は女性に強いことがうかがえる。

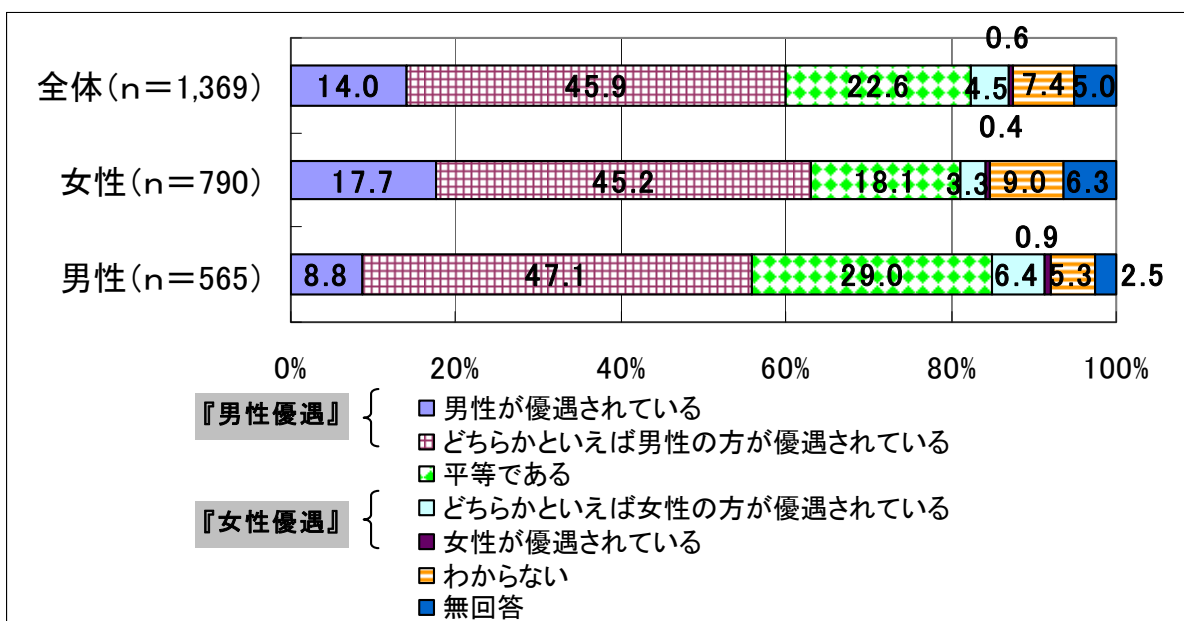


《前回調査・県調査との比較》

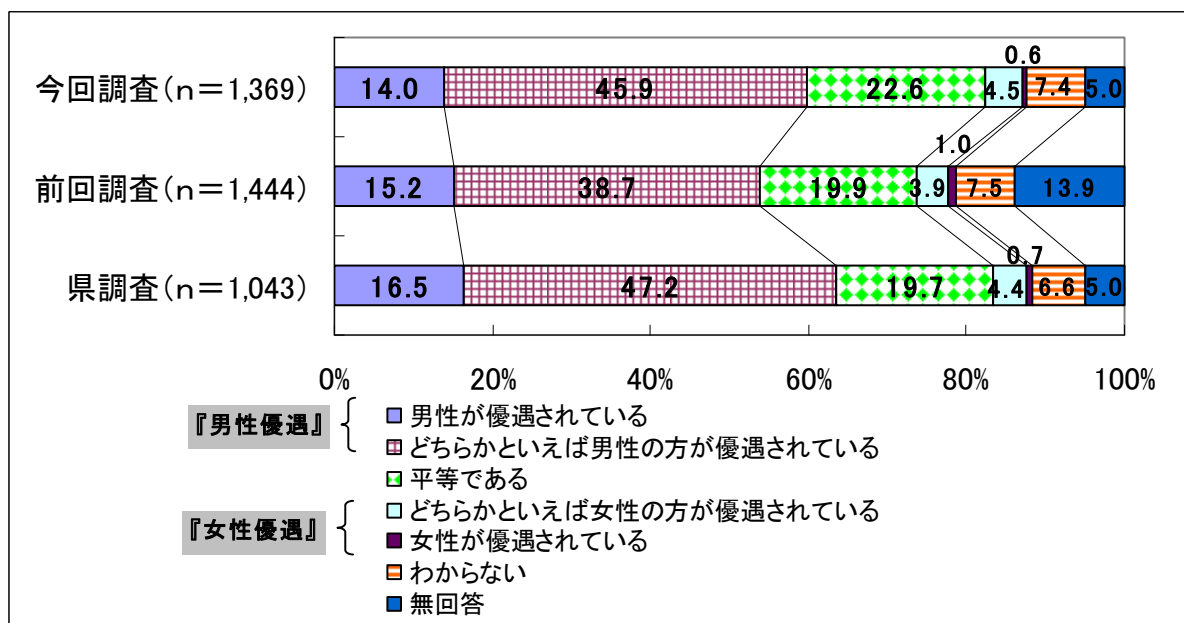


b職場で

全体では『男性優遇』が59.9%を占め、「平等である」が22.6%、『女性優遇』が5.1%となっている。
 性別でみると、いずれも『男性優遇』との回答が多いが(女性 62.9%男性 55.9%)、「平等である」及び『女性優遇』と回答した割合は女性に比べ男性が高くなっており(平等:女性 18.1%男性 29.0%、女性が優遇:女性 3.7%男性 7.3%)、男女間で職場の平等感に差があることがうかがえる。

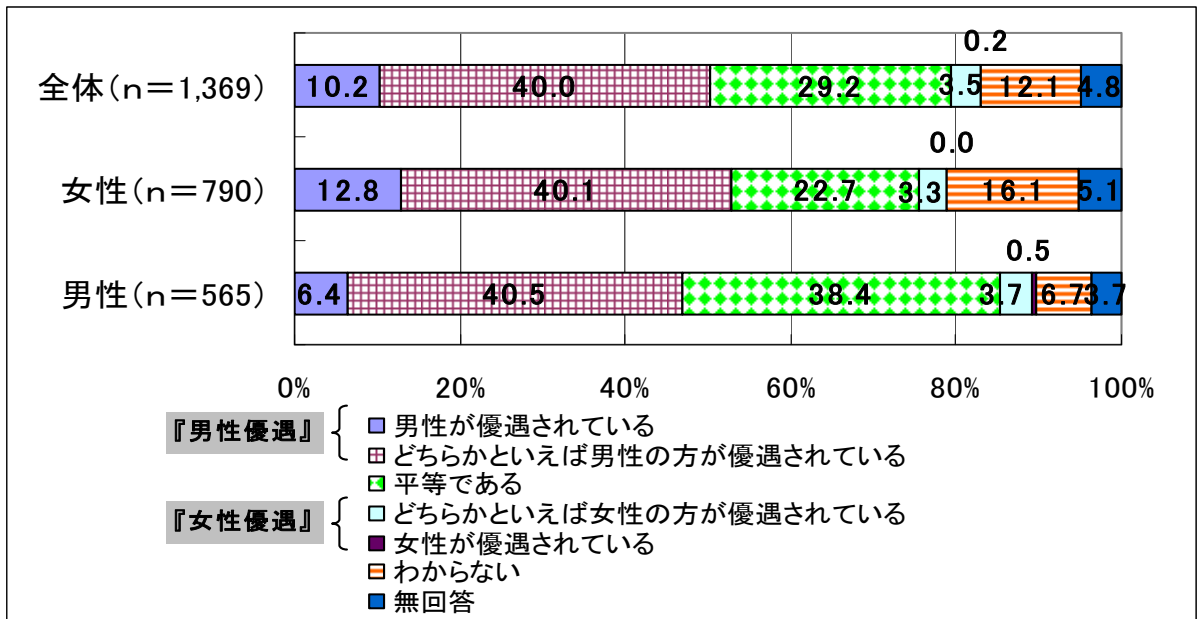


《前回調査・県調査との比較》

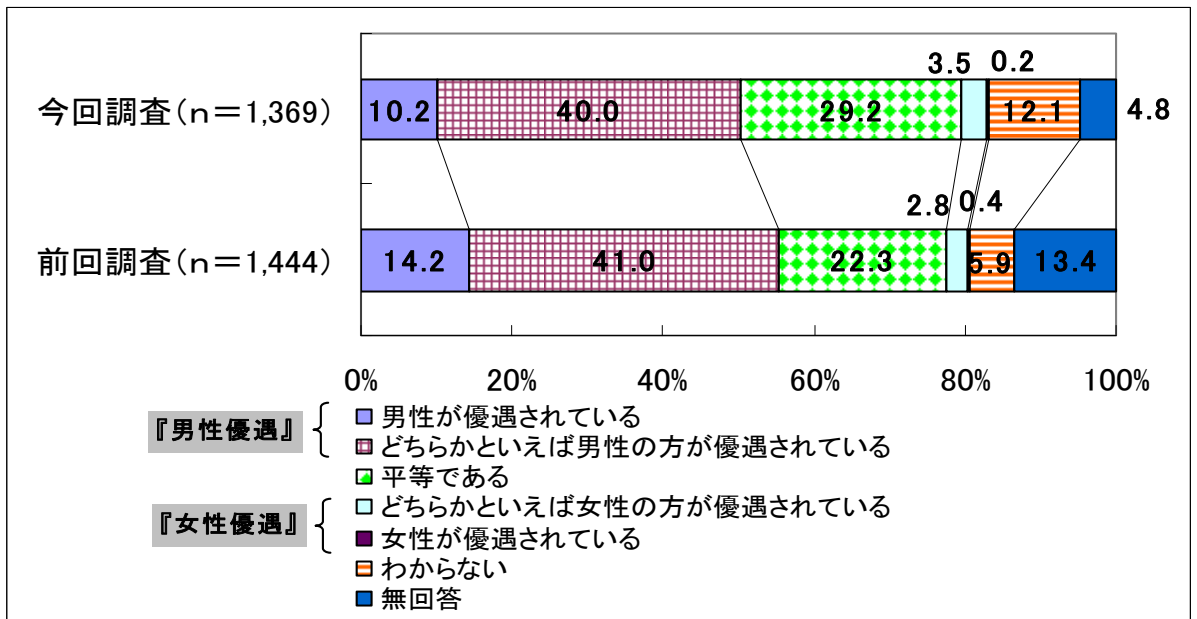


c地域で

全体では『男性優遇』が50.2%を占め、「平等である」が29.2%、『女性優遇』が3.7%となっている。
 性別でみると、いずれも『男性優遇』との回答が最も多く(女性 52.9% 男性 46.9%)、特に女性でその割合は高くなっている。一方、「平等である」と回答した割合は女性に比べ男性が 15.7 ポイント高くなっており(女性 22.7% 男性 38.4%)、地域における男性の優遇感は女性に強いことがうかがえる。

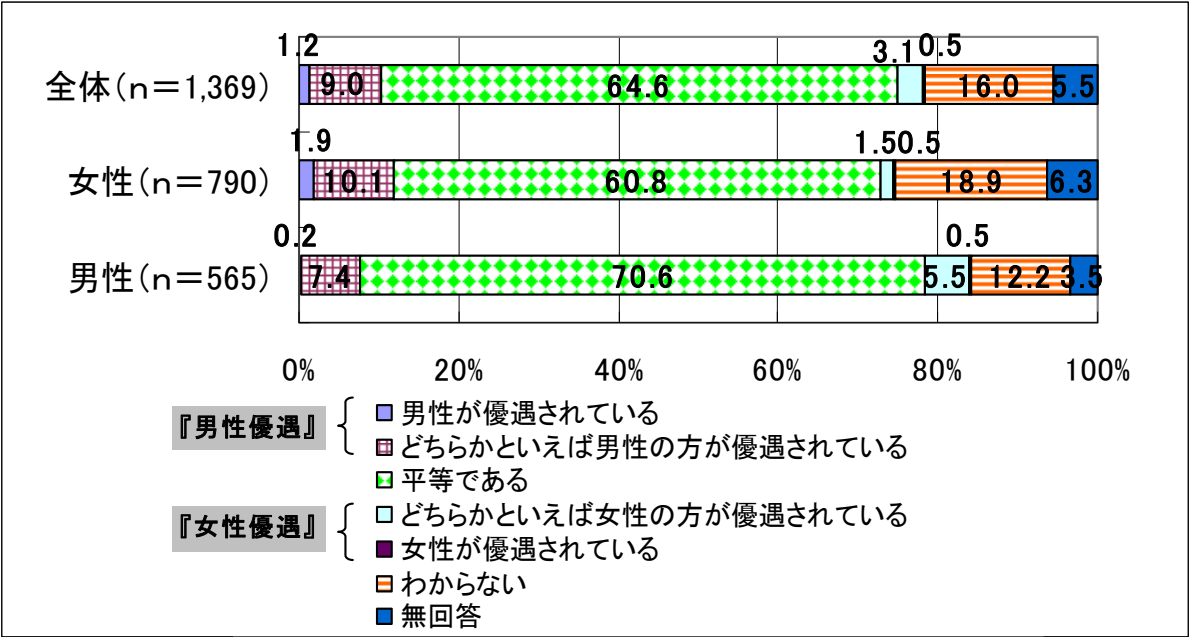


《前回調査との比較》

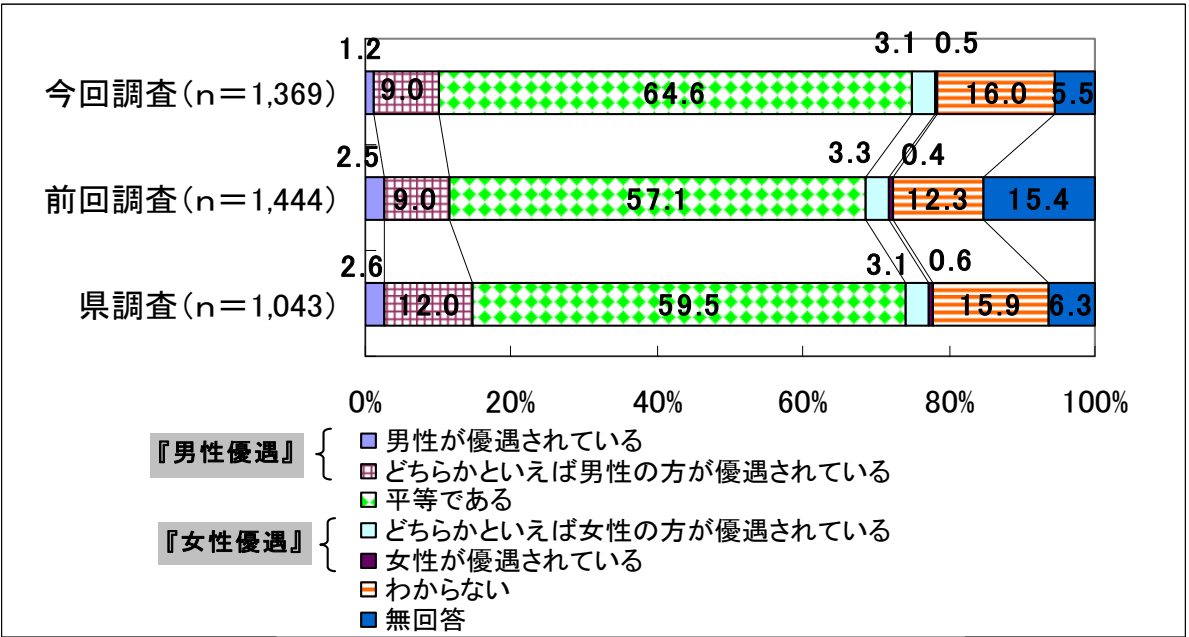


d学校教育で

全体では「平等である」との回答が過半数を占めており(64.6%)、他の分野に比べ最も男女の平等感が強い分野となっている。また、性別にみてもいずれも「平等である」と回答が最も高く(女性60.8% 男性70.6%)、特に男性にその傾向が強いことがうかがえる。



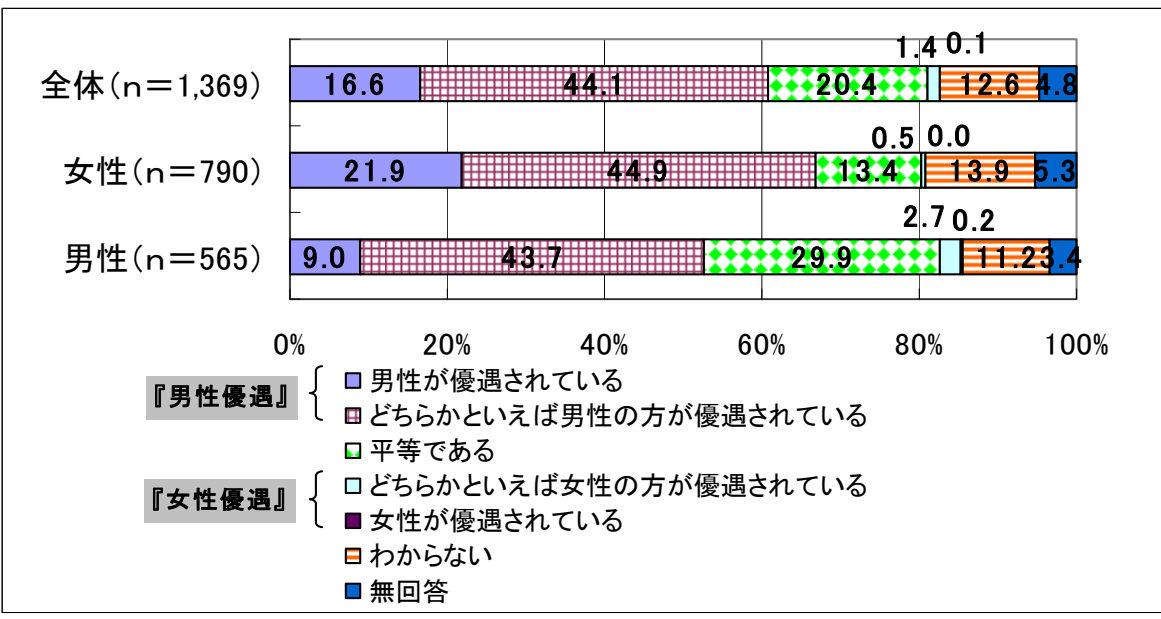
《前回調査・県調査との比較》



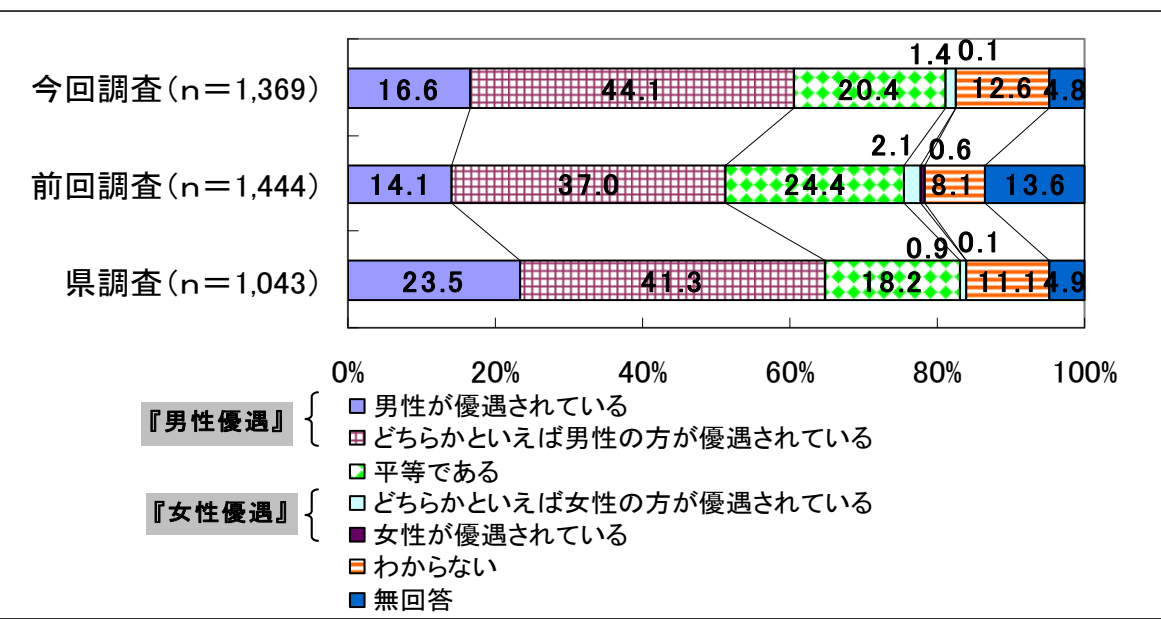
e政治の場で

全体では『男性優遇』が60.7%を占め、「平等である」が20.4%、『女性優遇』が1.5%となっている。

性別で見ると、女性は男性に比べ『男性優遇』との回答が多くなっているが(女性 66.8% 男性 52.7%)、「平等である」と回答した割合は、男性の半数程度に留まっており(女性 13.4% 男性 29.9%)、政治の場における男性の優遇感は女性に強いことがうかがえる。



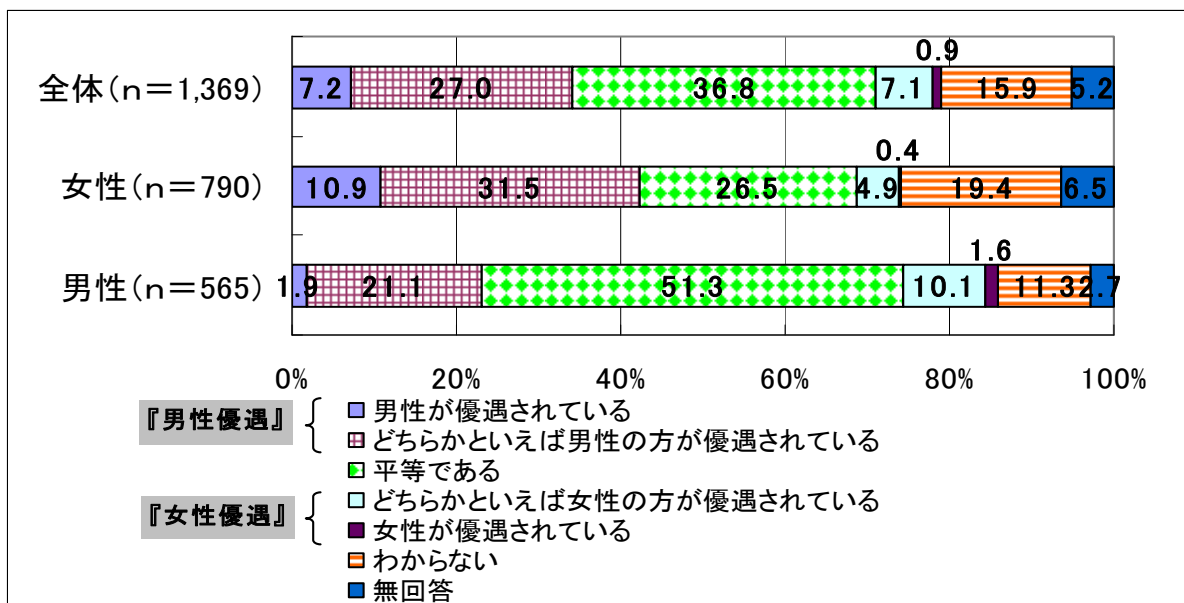
《前回調査・県調査との比較》



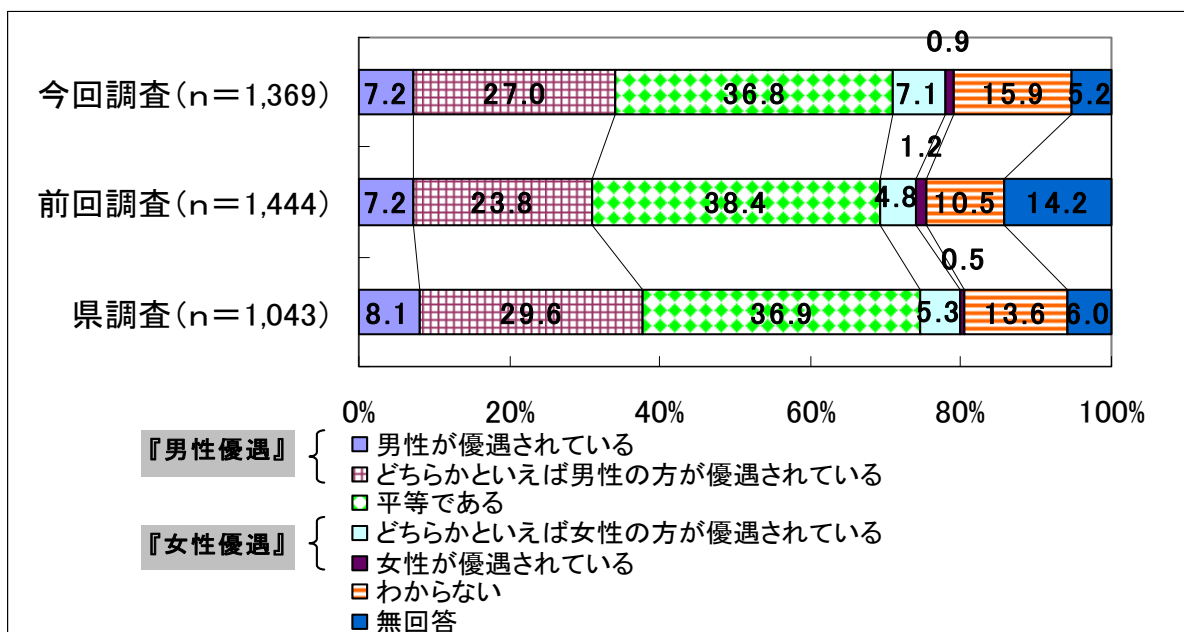
f法律や制度上で

全体では「平等である」との回答が最も多く(36.8%)、他の分野に比べ男女の平等感が高い結果となっている。

性別で見ると、女性では『男性優遇』との回答が最も多いのに対し(女性 42.4% 男性 23.0%)、男性では「平等である」と回答した割合が半数以上を占め最も高くなっており(女性 26.5% 男性 51.3%)、比較的平等感の強い法律や制度上の分野においても、男女の意識に大きな差があることがうかがえる。



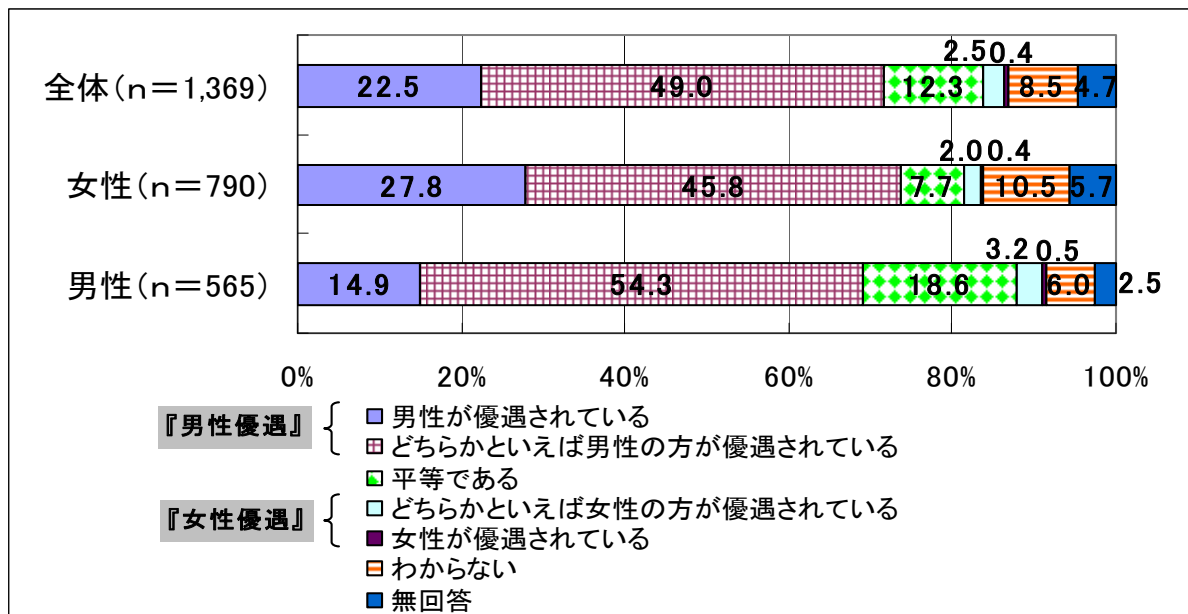
《前回調査・県調査との比較》



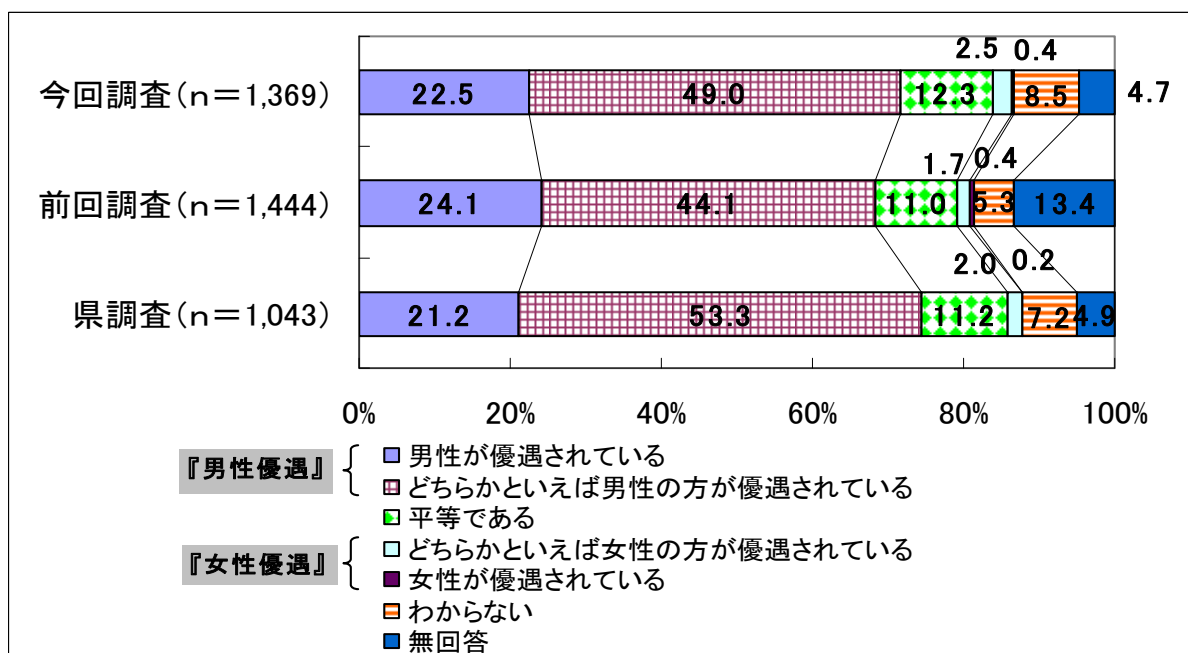
gしきたりや社会通念で

全体では『男性優遇』が71.5%を占め、「平等である」が12.3%、『女性優遇』が2.9%となっているが、「平等である」と回答した割合はどの分野より低くなっている。

性別でみると、いずれも『男性優遇』と回答された割合が最も高くなっており(女性73.6%男性69.2%)、男女ともに男性の優遇感が最も強い分野と感じていることがうかがえる。

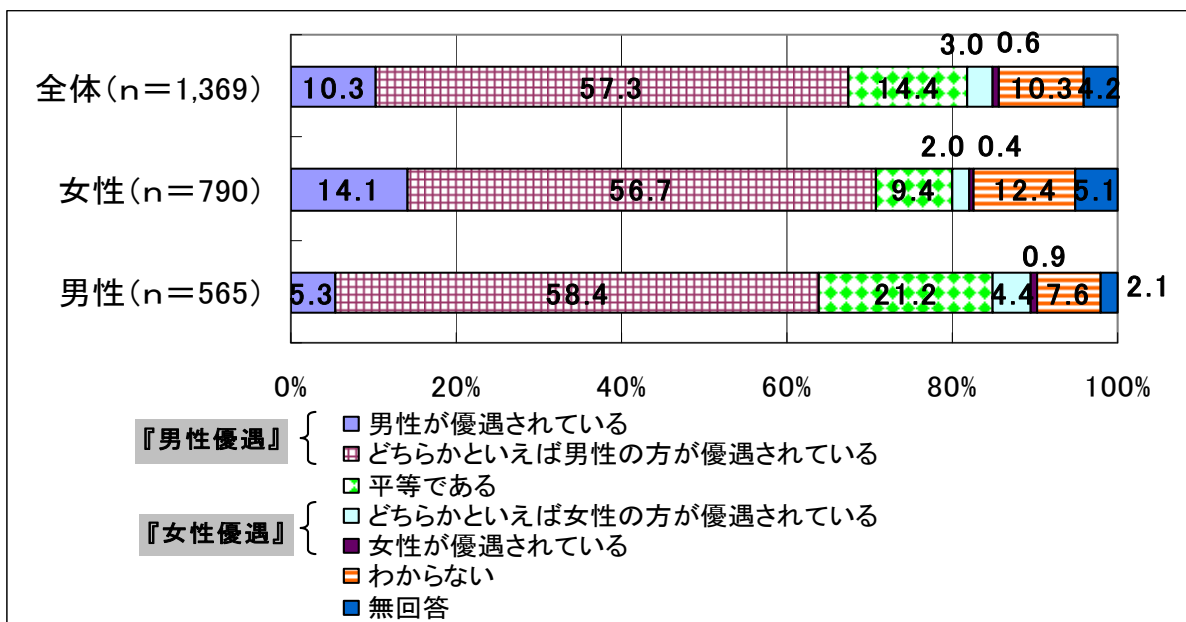


《前回調査・県調査との比較》

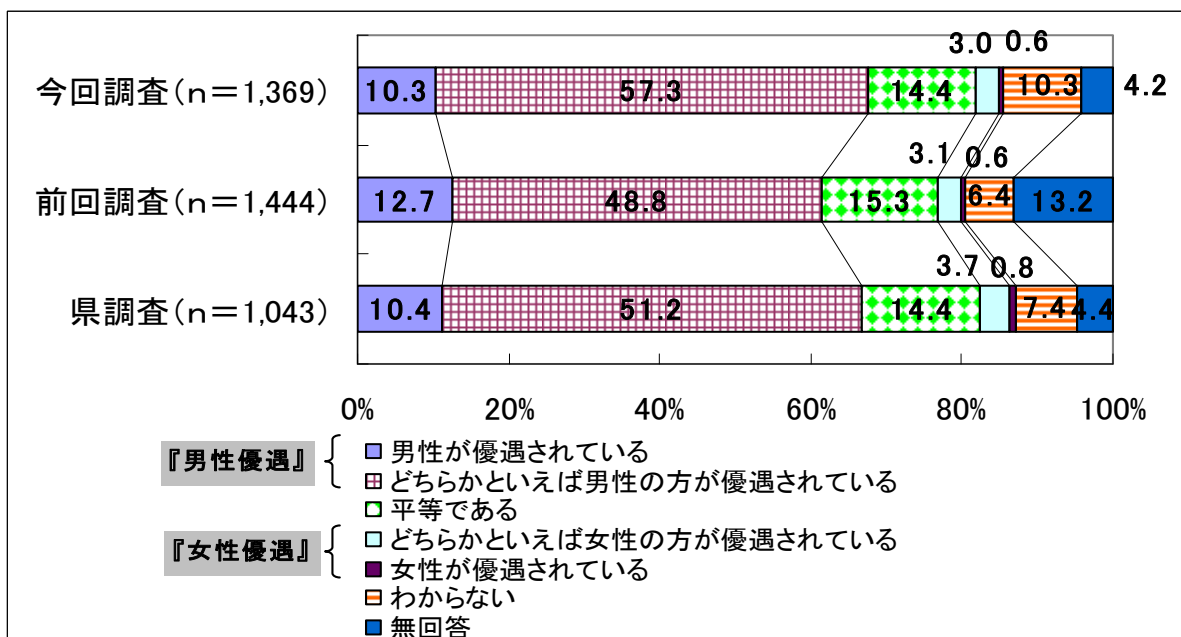


h社会全体で

全体では『男性優遇』が67.6%を占め、「平等である」が14.4%、『女性優遇』が3.6%となっている。
性別でみると、男女ともに『男性優遇』の割合が高くなっているが(女性70.8%男性63.7%)、「平等である」の割合は女性9.4%に対し、男性21.2%となっており、男女間の意識に差があることがうかがえる。



《前回調査・県調査との比較》



2. 家庭生活について

(1) 家庭生活の分担状況

問12 あなたの家庭では、次の役割分担を主に誰がしていますか。(単一回答)

(結婚している方(事実婚を含む)のみ回答)

～ 家庭内では大部分を妻が担当、理想は夫婦共同 ～

現状をみると、「町内行事等への参加」「高齢者の世話・介護」を除く7項目で「主に妻」が最も多く回答されており、女性の家事負担が大きい結果となっている。一方、理想では全ての項目で「夫婦で共同」が最も多く回答され、特に「育児・子どものしつけ」、「PTAへの出席」、「町内行事等への参加」、「高齢者の世話・介護」でその割合は高くなっており、現実と理想に大きな開きあることがうかがえる。

前回調査と比べると、殆どの項目の現状で「主に妻」の割合が高くなっていることに対し、理想では「家計の管理」を除く全ての項目で「夫婦で共同」の割合が高くなっており、理想と現実の差が広がっていることがうかがえる。

性別でみると、「食事のしたく」の理想と「育児・子どものしつけ」、「町内行事等への参加」の現状で、男女の最も多い回答が異なっており、男女間で認識の違いがみられる。

全体 (n=1,067)

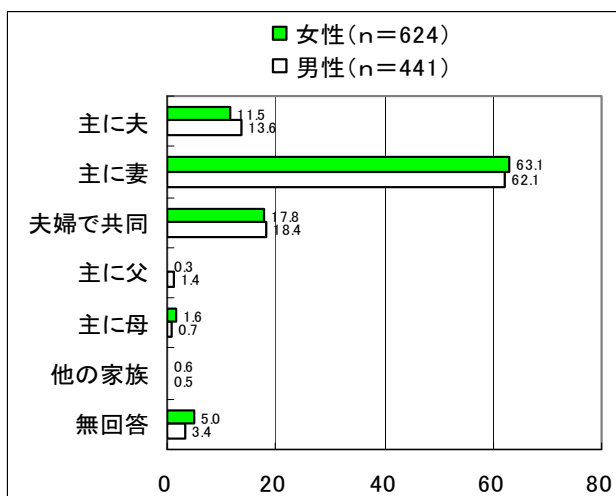
※()は前回調査

回答：%

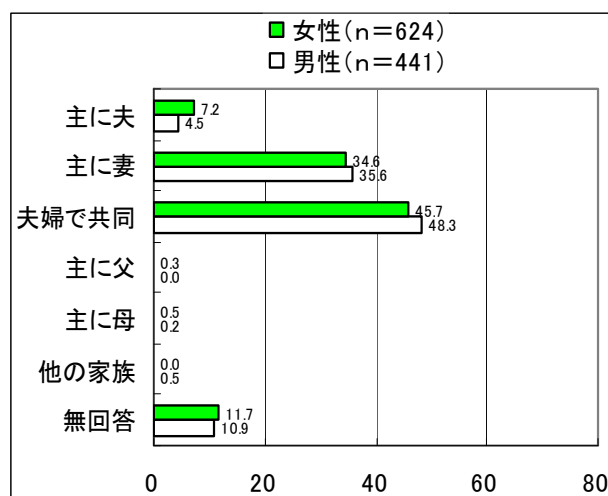
		主に夫	主に妻	夫婦で共同	主に父	主に母	他の家族	無回答
a. 家計の管理	現状	12.4(16.1)	62.6(53.5)	18.1(20.7)	0.7(1.2)	1.2(2.4)	0.6(0.7)	4.4(5.3)
	理想	6.1(6.0)	35.0(29.1)	46.8(49.4)	0.2(0.1)	0.4(0.7)	0.2(0.4)	11.4(14.3)
b. 食料品などの 買い物	現状	0.7(2.6)	77.8(71.6)	15.1(15.0)	0.1(0.3)	1.7(3.2)	1.2(1.7)	3.5(5.5)
	理想	0.3(0.4)	42.2(38.8)	44.3(42.6)	0.0(0.1)	0.7(0.8)	0.4(1.2)	12.2(16.1)
c. 食事のしたく	現状	0.5(1.7)	85.9(81.3)	5.4(5.0)	0.0(0.1)	2.9(4.7)	1.4(2.0)	3.8(5.2)
	理想	0.2(0.3)	42.5(43.7)	43.7(36.8)	0.0(0.0)	0.7(1.5)	1.1(1.8)	11.8(15.9)
d. 食後の片付け	現状	2.0(1.6)	78.7(77.4)	12.4(9.9)	0.1(0.2)	2.0(3.1)	1.1(2.2)	3.7(5.6)
	理想	2.0(0.7)	26.2(28.8)	58.0(49.8)	0.0(0.3)	0.4(1.2)	1.5(3.0)	11.9(16.3)
e. 掃除・洗濯	現状	1.5(1.2)	80.0(75.0)	10.8(10.8)	0.1(0.2)	2.3(4.9)	1.2(2.1)	4.0(5.8)
	理想	0.3(0.7)	30.9(31.7)	54.2(46.0)	0.1(0.1)	0.7(1.8)	1.8(3.1)	12.0(16.5)
f. 育児・子どもの しつけ	現状	1.2(1.7)	39.6(34.4)	37.6(37.1)	0.1(0.2)	0.6(1.2)	0.7(1.7)	20.1(23.6)
	理想	1.0(1.3)	4.9(5.0)	70.7(66.9)	0.2(0.3)	0.1(0.1)	0.6(1.2)	22.6(25.1)
g. PTAへの出席	現状	3.2(4.5)	53.1(44.7)	16.9(17.6)	0.4(0.3)	0.5(1.5)	0.9(2.1)	25.0(29.3)
	理想	1.8(2.2)	9.2(7.4)	61.9(59.5)	0.2(0.2)	0.1(0.2)	0.7(1.6)	26.1(29.0)
h. 町内行事等への 参加	現状	31.6(34.8)	20.8(18.0)	35.1(30.5)	3.3(3.2)	1.1(1.2)	0.2(1.2)	8.0(11.1)
	理想	13.0(14.9)	2.3(2.5)	68.4(60.8)	0.9(1.1)	0.3(0.1)	0.5(1.0)	14.5(19.7)
i. 高齢者の 世話・介護	現状	2.6(1.4)	33.6(35.5)	23.4(24.5)	0.1(0.4)	2.6(3.2)	2.2(1.9)	35.4(33.0)
	理想	1.0(0.6)	5.2(6.9)	62.9(60.5)	0.1(0.2)	1.0(1.0)	1.4(1.5)	28.4(29.3)

a. 家計の管理

[現状、回答：%]

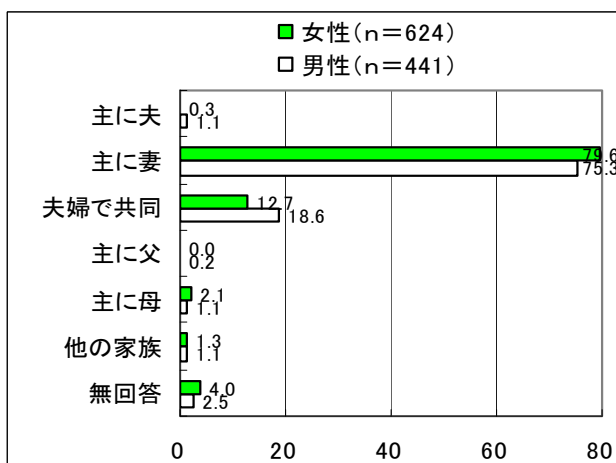


[理想、回答：%]

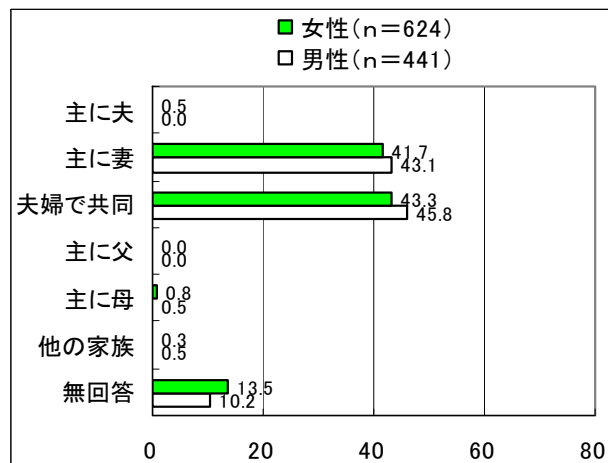


b. 食料品などの買い物

[現状、回答：%]



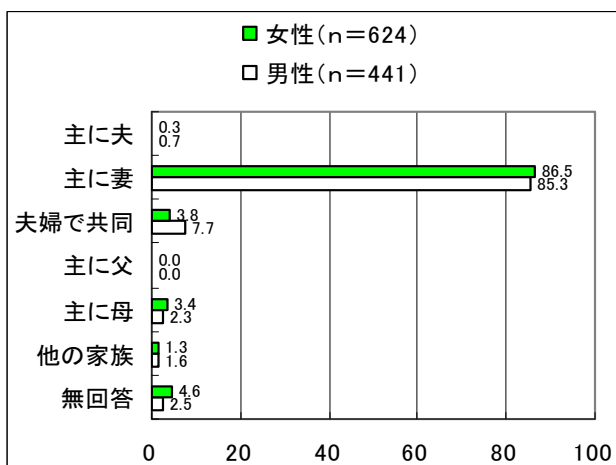
[理想、回答：%]



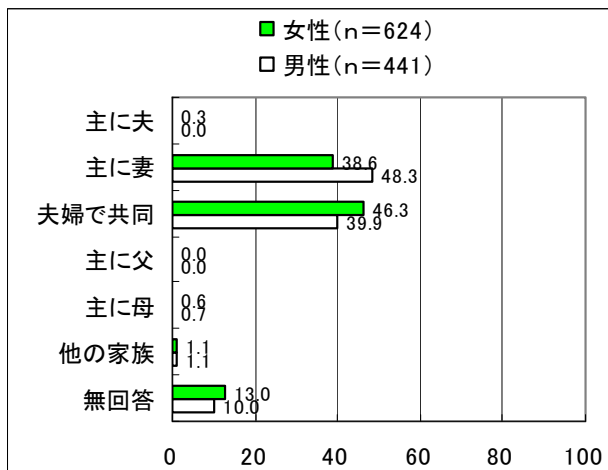
c. 食事のしたく

[現状、回答：%]

[現状、回答：%]

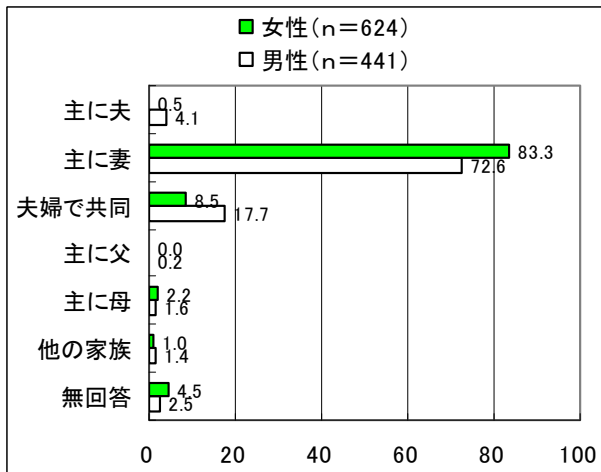


[理想、回答：%]

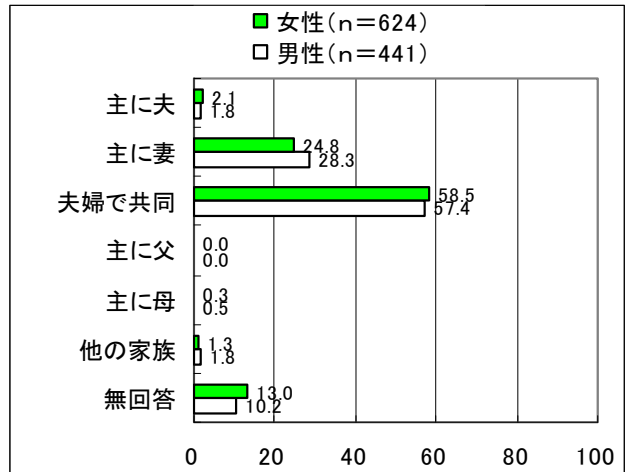


d. 食後の片付け

[現状、回答：%]

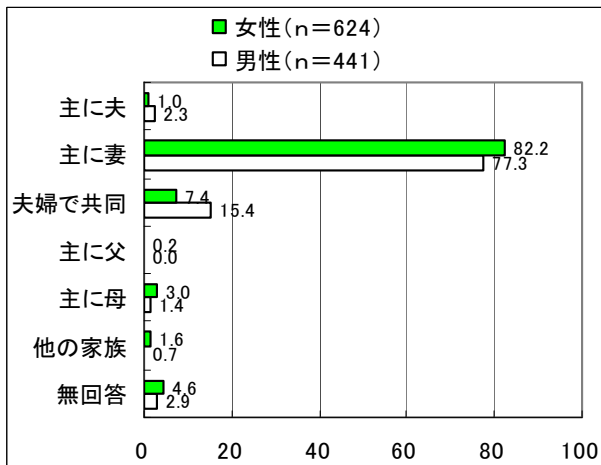


[理想、回答：%]

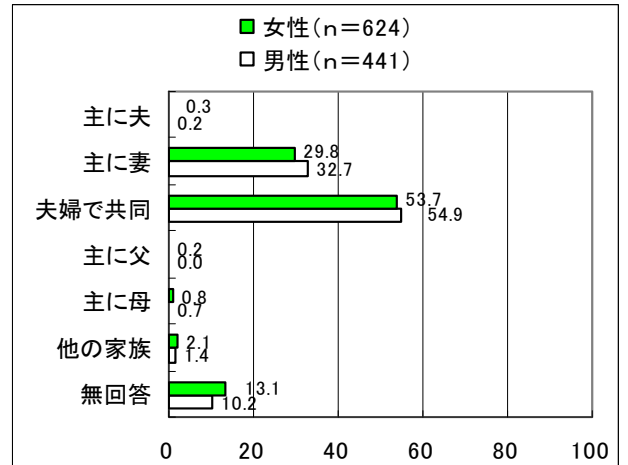


e. 掃除・洗濯

[現状、回答：%]

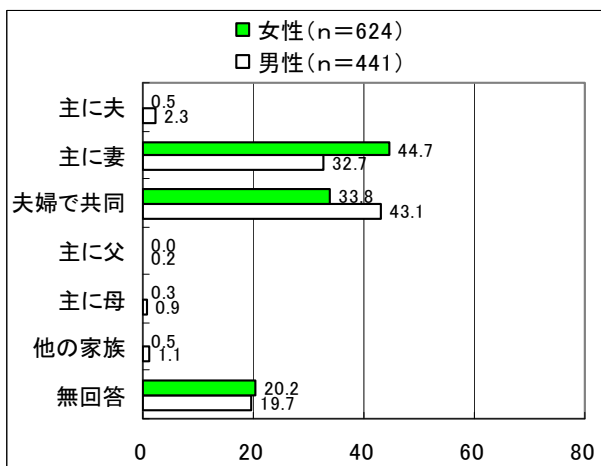


[理想、回答：%]

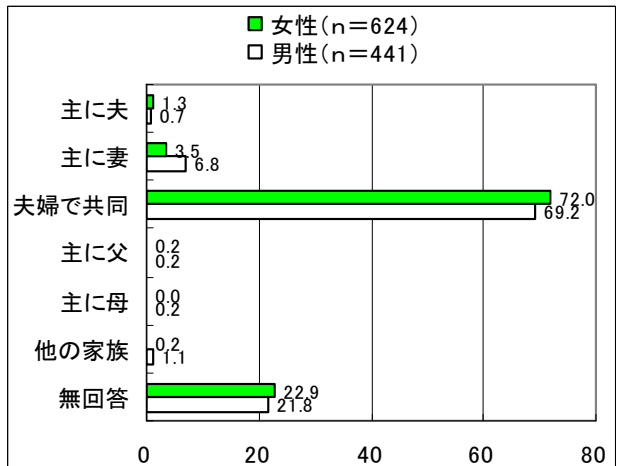


f. 育児・子どものしつけ

[現状、回答：%]

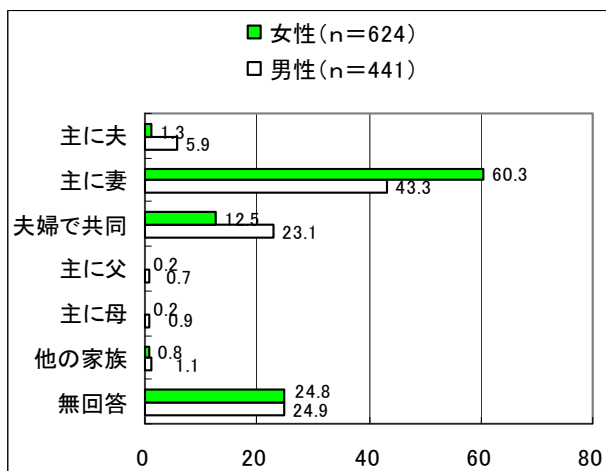


[理想、回答：%]

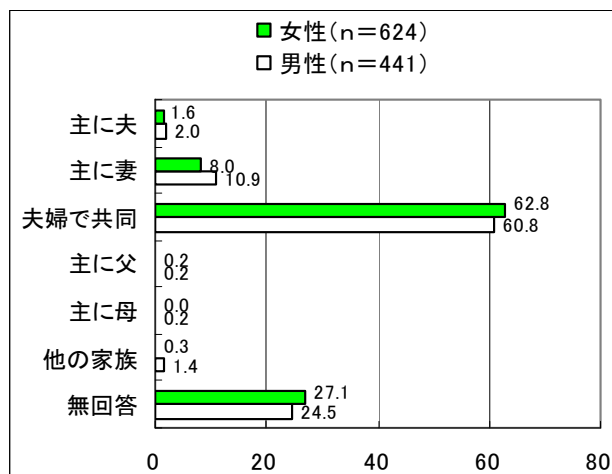


g. P T Aへの出席

[現状、回答：%]

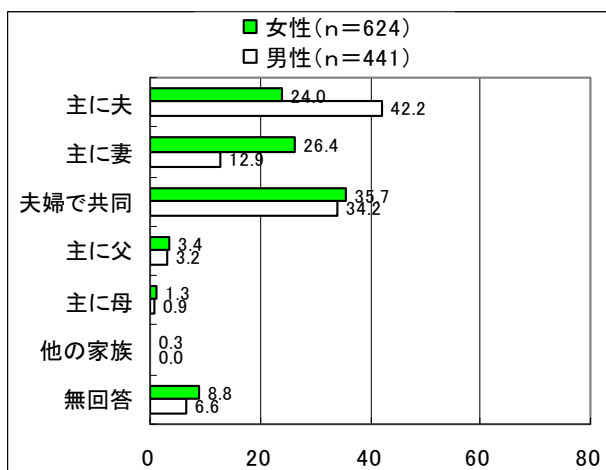


[理想、回答：%]

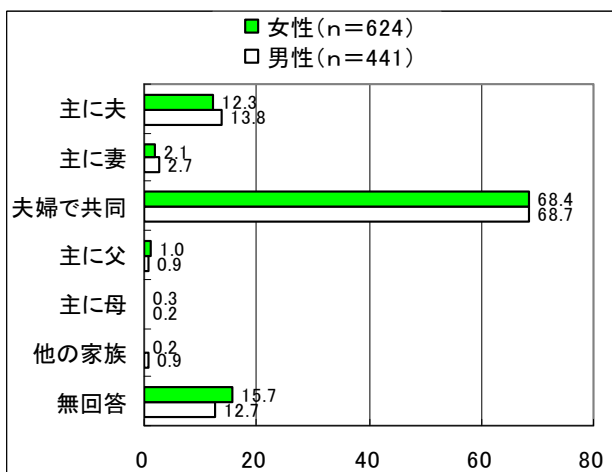


h. 町内行事等への参加

[現状、回答：%]

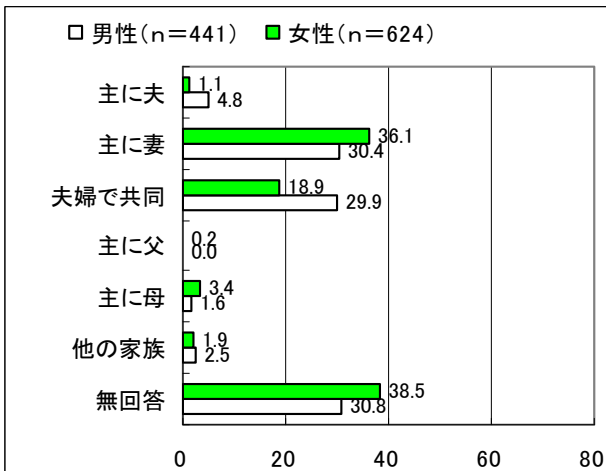


[理想、回答：%]

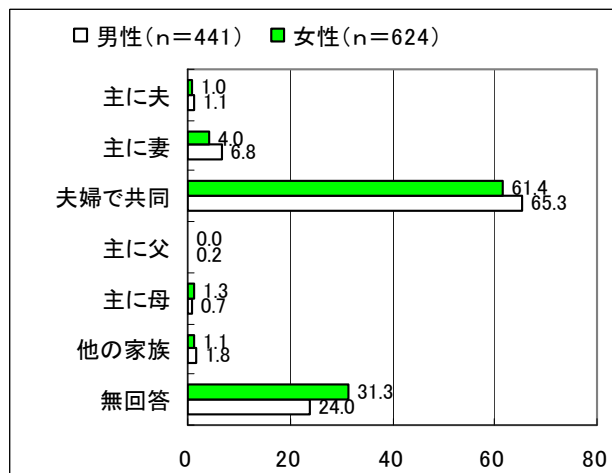


i. 高齢者の世話・介護

[現状、回答：%]



[理想、回答：%]



(2) 男性が参画に必要な取り組み

問13 男性が女性とともに家事、育児、介護等に参加するには何が重要だと思いますか。(2つまで回答)

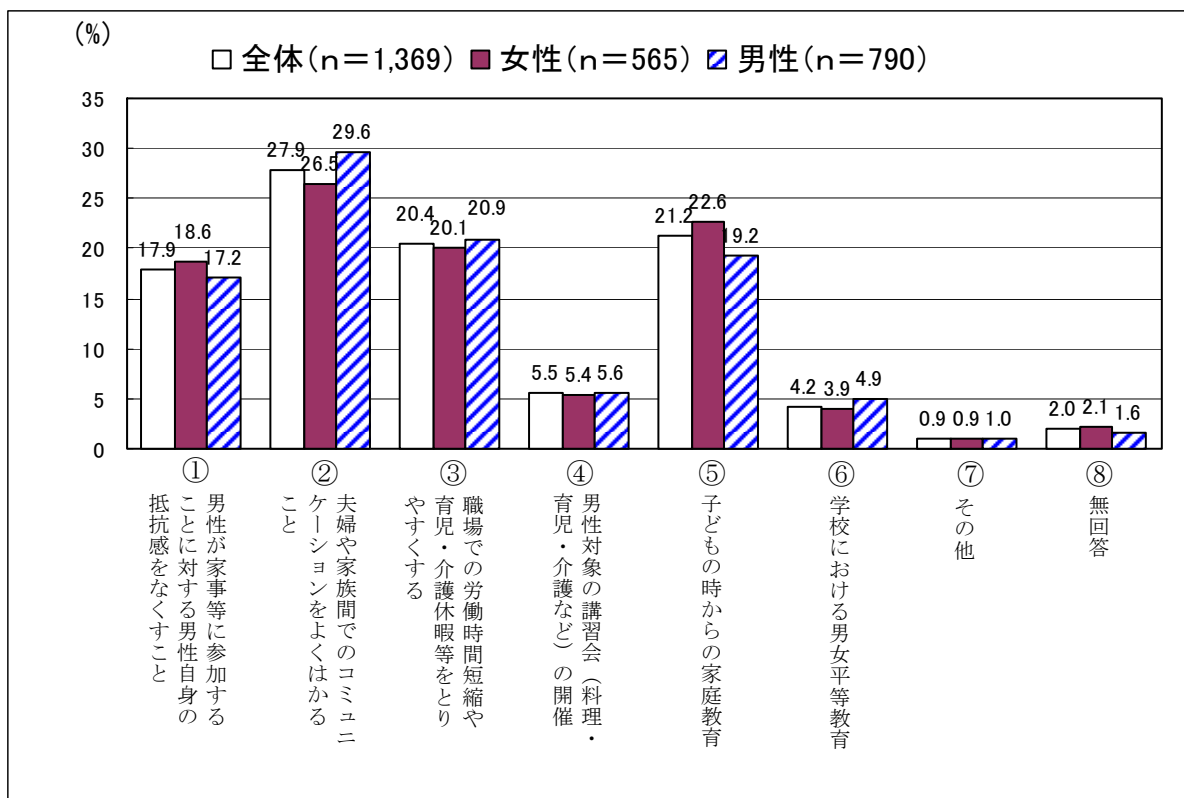
～ 男性の家事参加には「夫婦や家族間でのコミュニケーション」が必要 ～

全体でみると、「夫婦や家族間でのコミュニケーション」と回答した割合は 27.9%で最も高く、次いで「子どもの時からの家庭教育」21.2%、「職場での労働時間短縮や育児・介護休暇等をとりやすくする」20.4%と続いている。

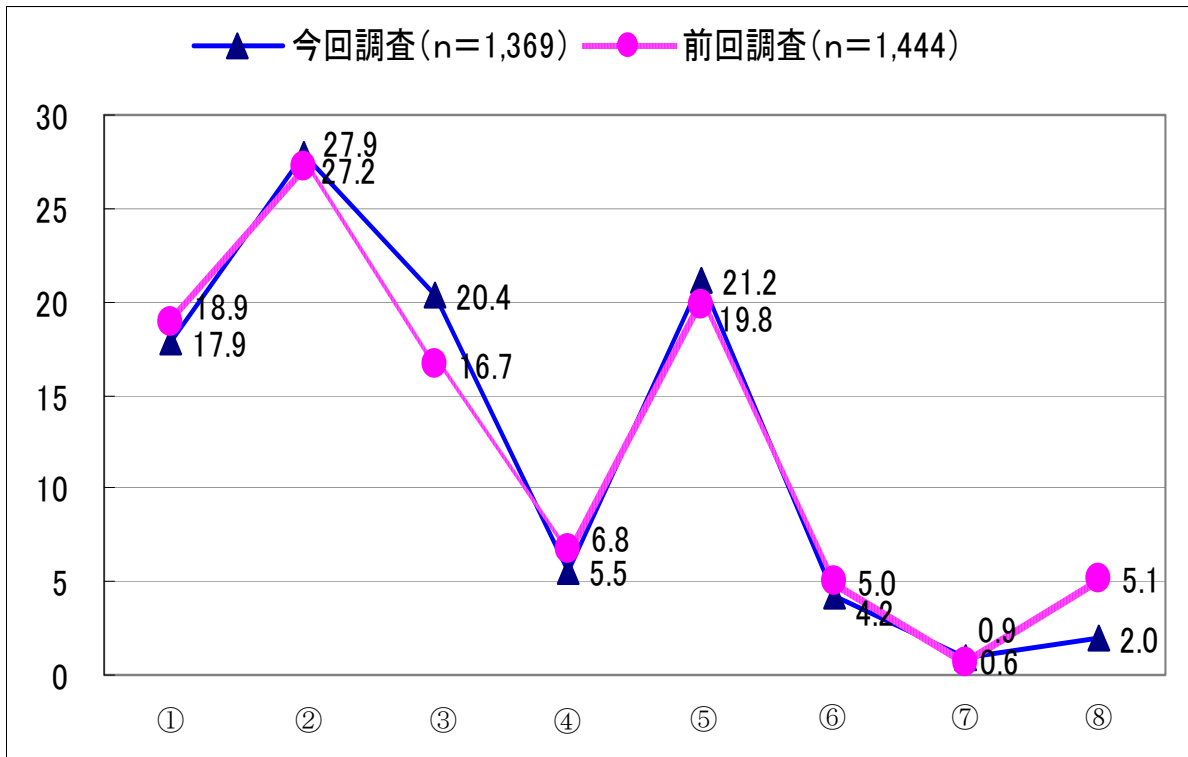
性別でみると、男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーション」が最も多く回答され、女性では次に「子どもの時からの家庭教育」が多いのに対し、男性では「職場での労働時間短縮や育児・介護休暇等をとりやすくする」が多く回答され、女性は家庭での取り組み、男性は家庭以外での取り組みが必要と感じていることがうかがえる。

前回調査と比べると、「職場での労働時間短縮や育児・介護休暇等をとりやすくする」と回答した割合が最も増えている。

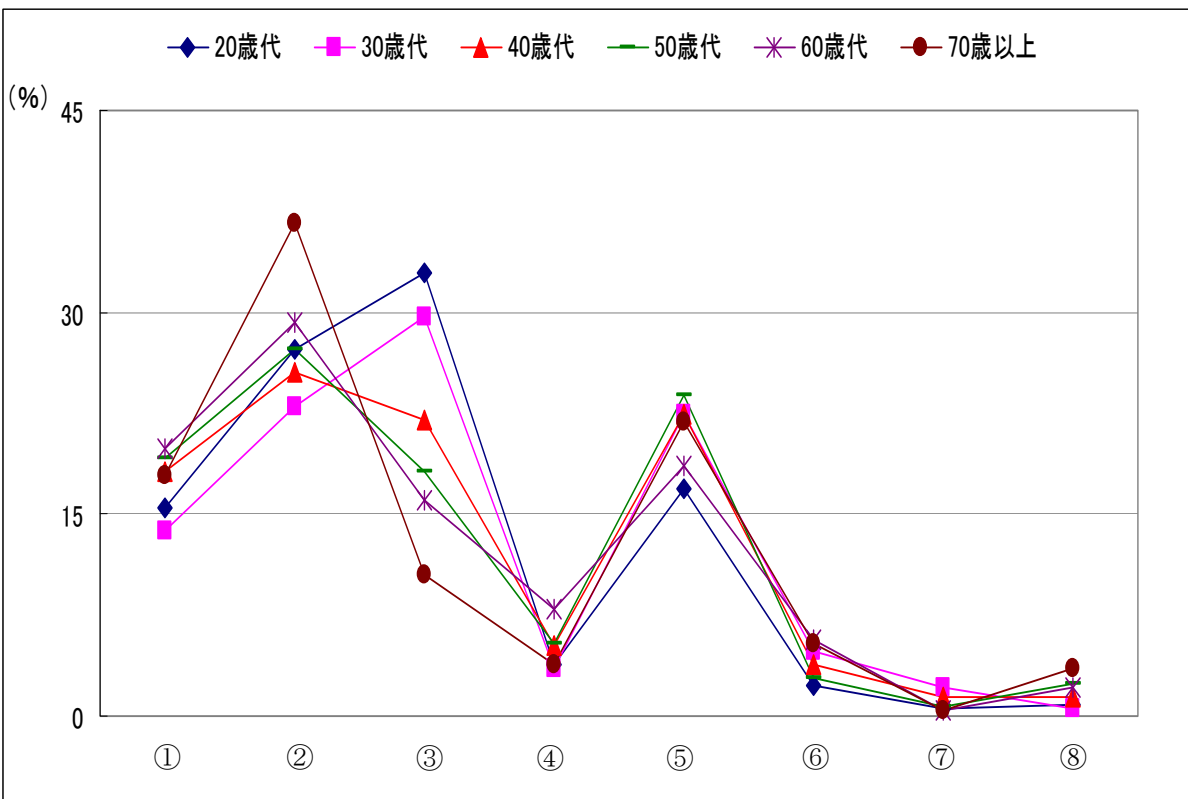
年代別でみると、年代が高いほど、「夫婦や家族間でのコミュニケーション」との回答が多く、年代が低いほど、「職場での労働時間短縮や育児・介護休暇等をとりやすくする」との回答が多くなっている。



《前回調査との比較》



《年代別比較》



3. 仕事について

(1) 就業状況

問14 あなたと仕事の関係は次のどれですか。(単一回答)

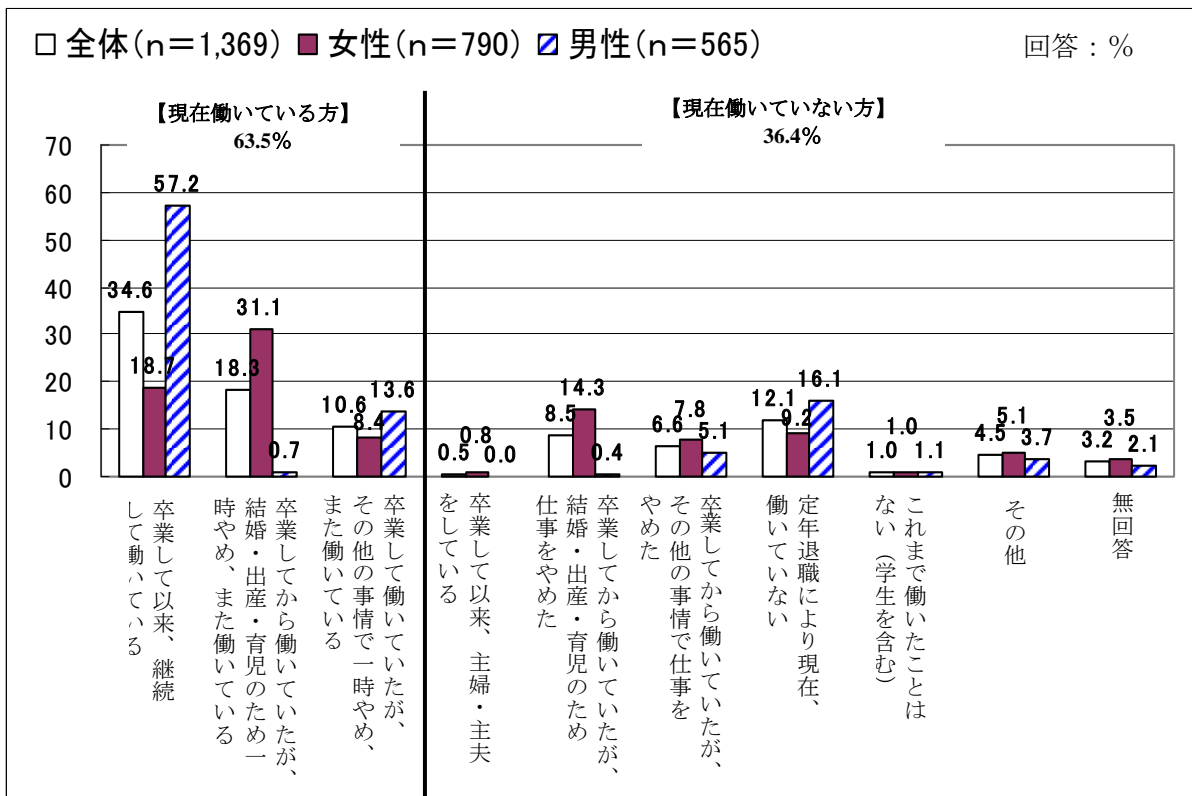
～ 男性は継続して働き続けるが、

女性は結婚・出産・育児で一時やめ、その後、再び働くケースが多い ～

全体でみると、「卒業して以来、継続して働いている」との回答が最も多いが、その割合は男性が57.2%と半数以上を占めているのに対し、女性では18.7%となっており、男女間に大きな差があることがわかる。又、現在働いていない方の男性では、「定年退職による」と回答した人が16.1%で最も多いものの、女性では「結婚・出産・育児のためにやめた」が14.3%で最も高い割合を占めている。

性別・年齢別でみると、女性の30～50歳代では「卒業してから働いたが、結婚・出産・育児のため一時やめ、また働いている」との回答が最も多くなっているが、男性では、70歳以上を除く全ての年代で「卒業して以来、継続して働いている」が最も多くなっており、働き方は男女間で大きく違うことがうかがえる。

前回調査と比べると、女性において「結婚・出産・育児のため一時やめ、また働いている」が5ポイント増加し、結婚・育児による離職が依然多いことがうかがえる。

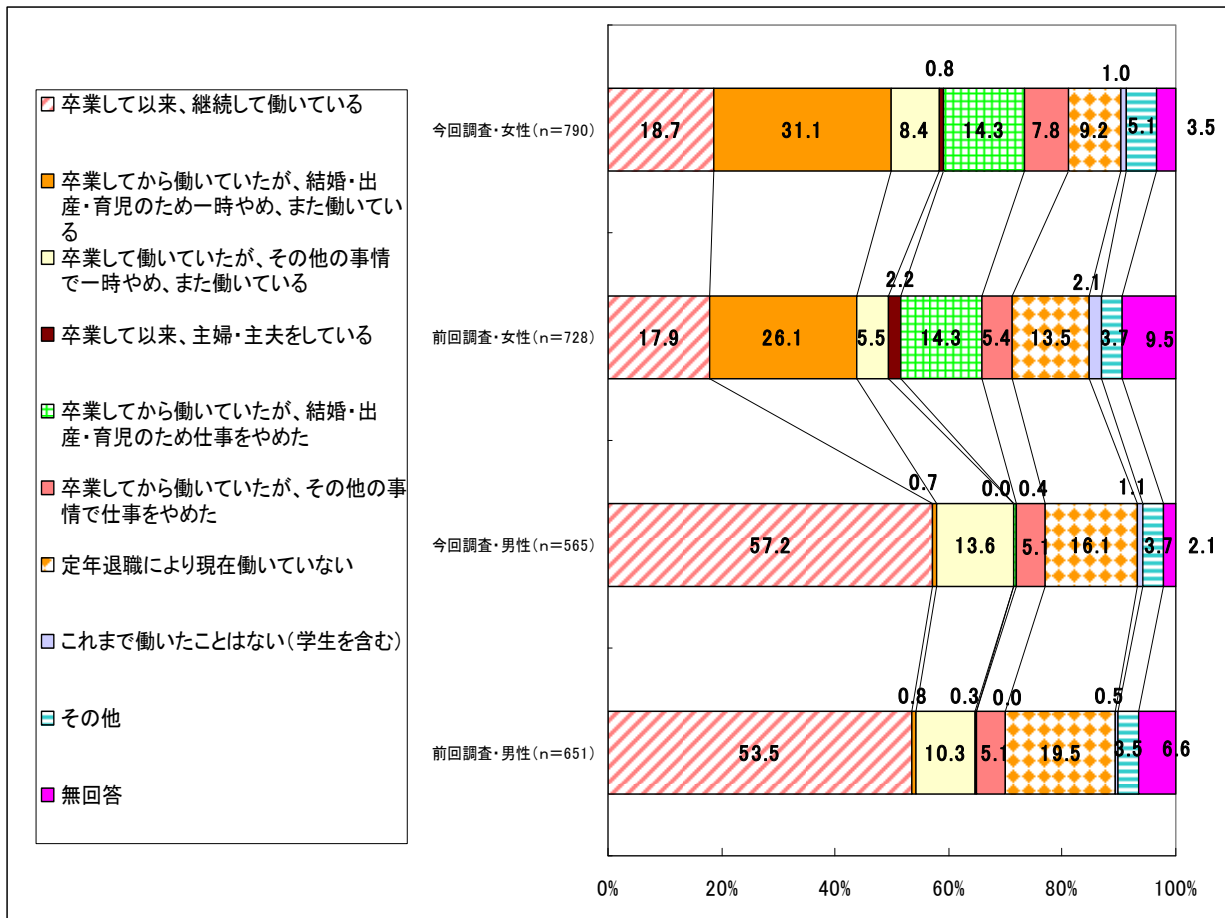


仕事との関係(年齢別)

(調査数:件数、回答:%)

		調査数	卒業して以来、継続して働いている	卒業してから働いていたが、結婚・出産・育児のため一時やめ、また働いている	一時やめ、また働いている	卒業して働いていたが、その他の事情で卒業して以来、主婦・主夫をしている	卒業してから働いていたが、結婚・出産・育児のため仕事をやめた	事情で仕事をやめた	卒業してから働いていたが、その他の事情で仕事をやめた	定年退職により現在働いていない	(学生を含む) これまで働いたことはない	その他	無回答
全 体		1,369	34.6	18.3	10.6	0.5	8.5	6.6	12.1	1.0	4.5	3.2	
女性	20歳代	61	44.3	9.8	14.8	0.0	21.3	8.2	0.0	0.0	1.6	0.0	
	30歳代	118	27.1	30.5	10.2	0.0	19.5	7.6	0.0	0.0	4.2	0.8	
	40歳代	144	17.4	54.2	8.3	0.0	12.5	4.2	0.7	0.7	2.1	0.0	
	50歳代	182	17.6	45.1	7.7	0.0	9.9	11.0	0.5	0.5	4.4	3.3	
	60歳代	203	11.3	20.2	8.4	1.5	14.3	9.4	21.2	1.5	7.4	4.9	
	70歳以上	81	9.9	3.7	2.5	3.7	14.8	3.7	34.6	3.7	9.9	13.6	
	年齢無回答	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
女 性 計		790	18.7	31.1	8.4	0.8	14.3	7.8	9.2	1.0	5.1	3.5	
男性	20歳代	50	54.0	0.0	26.0	0.0	0.0	8.0	0.0	12.0	0.0	0.0	
	30歳代	69	73.9	1.4	17.4	0.0	2.9	1.4	0.0	0.0	2.9	0.0	
	40歳代	90	73.3	1.1	18.9	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	2.2	1.1	
	50歳代	146	72.6	1.4	13.0	0.0	0.0	8.2	1.4	0.0	1.4	2.1	
	60歳代	150	39.3	0.0	9.3	0.0	0.0	6.0	34.7	0.0	6.7	4.0	
	70歳以上	60	23.3	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	61.7	0.0	8.3	3.3	
男 性 計		565	57.2	0.7	13.6	0.0	0.4	5.1	16.1	1.1	3.7	2.1	
性別無 回答	70歳以上	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	年齢無回答	13	23.1	7.7	15.4	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	30.8	
性別無回答計		14	21.4	7.1	14.3	7.1	7.1	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	

《前回調査との比較》



「日田市男女共同参画推進条例」

市では、職場、学校、地域、家庭など日田市におけるあらゆる分野において、男女が対等な構成員として共に参画することができる男女共同参画社会を実現するため「日田市男女共同参画推進条例」が平成21年10月1日から施行されました。(ただし、第3章苦情及び救済の申出の処理、第4章日田市男女共同参画審議会については平成22年1月1日施行)

(2)職場における男女差別

問15 あなたの今の職場では、女性は男性に比べ、仕事の内容や待遇面で差別されていると思いますか。(単一回答)

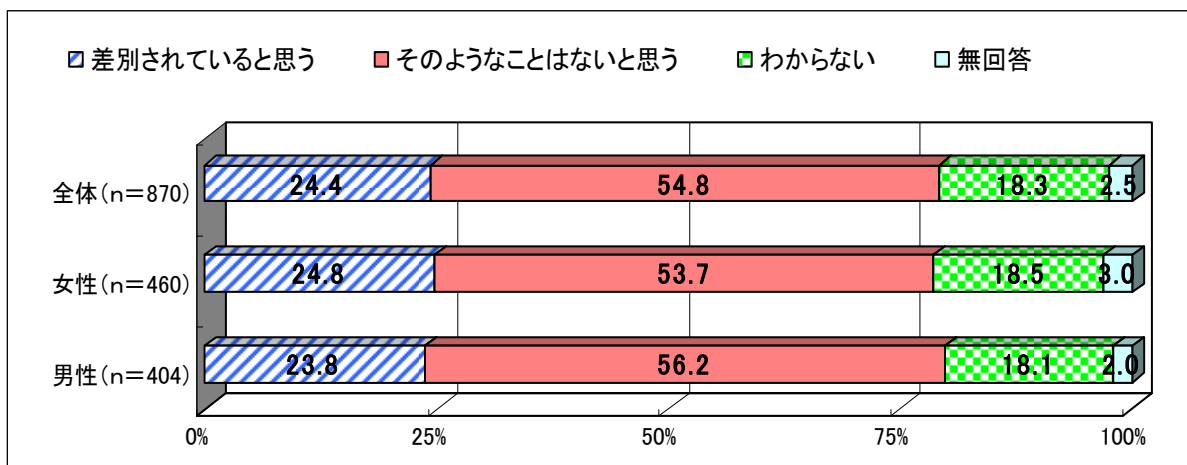
(問14で働いていると答えた方のみ回答)

～ 全体の24.4%が「差別されている」と回答 ～

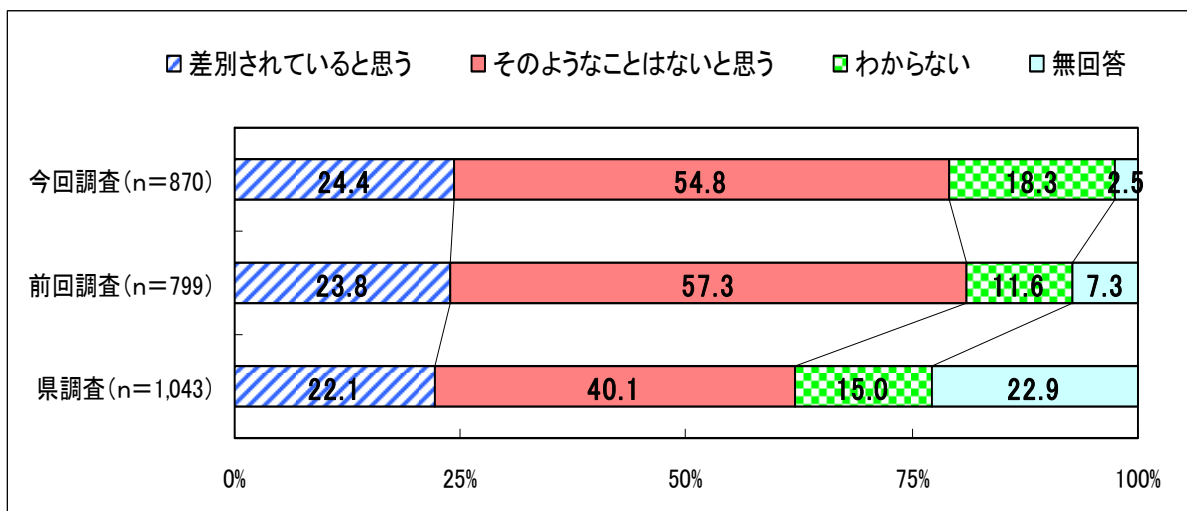
全体でみると、「そのようなことはないと思う」との回答が過半数を越え(54.8%)、次の「差別されていると思う」(24.4%)を大きく上回る結果となっている。

前回調査と比べると「差別されていると思う」、「そのようなことはないと思う」の割合は、ほぼ変わらず、女性に対する待遇改善が図られていない。

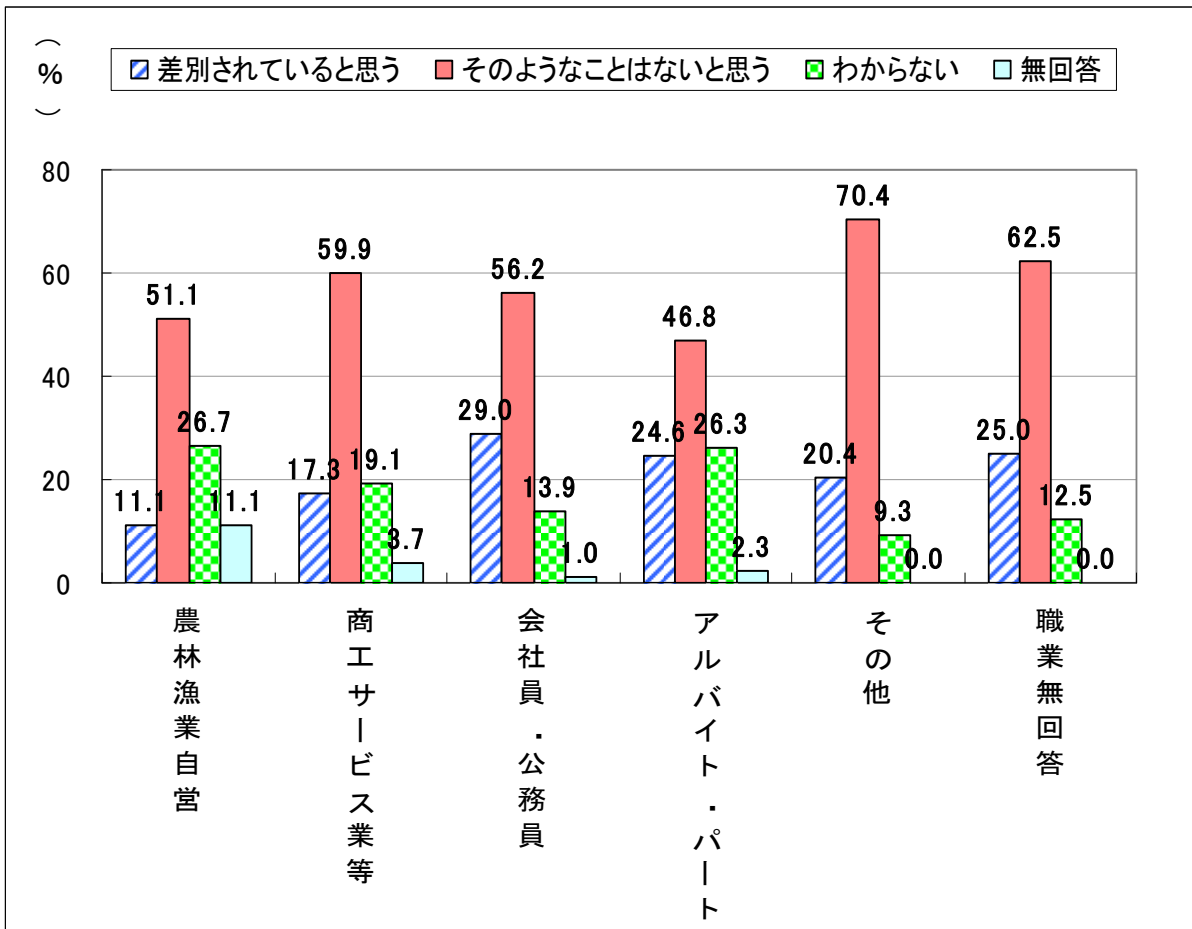
職業別でみると、「差別されていると思う」が最も高いのは「会社員・公務員」となっている。農林漁業自営の「差別されていると思う」は最も低くなっているが、「わからない」と回答した割合が最も高くなっている。



《前回調査・県調査との比較》



《職業別比較》



女性に対する暴力をなくす運動



配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図るため、平成13年10月にDV防止法が制定され、毎年11月12日から25日までの2週間、「女性に対する暴力をなくす運動」を実施しています。

(3)職場における男女格差

問16 具体的にどのようなことですか。(2つまで回答)

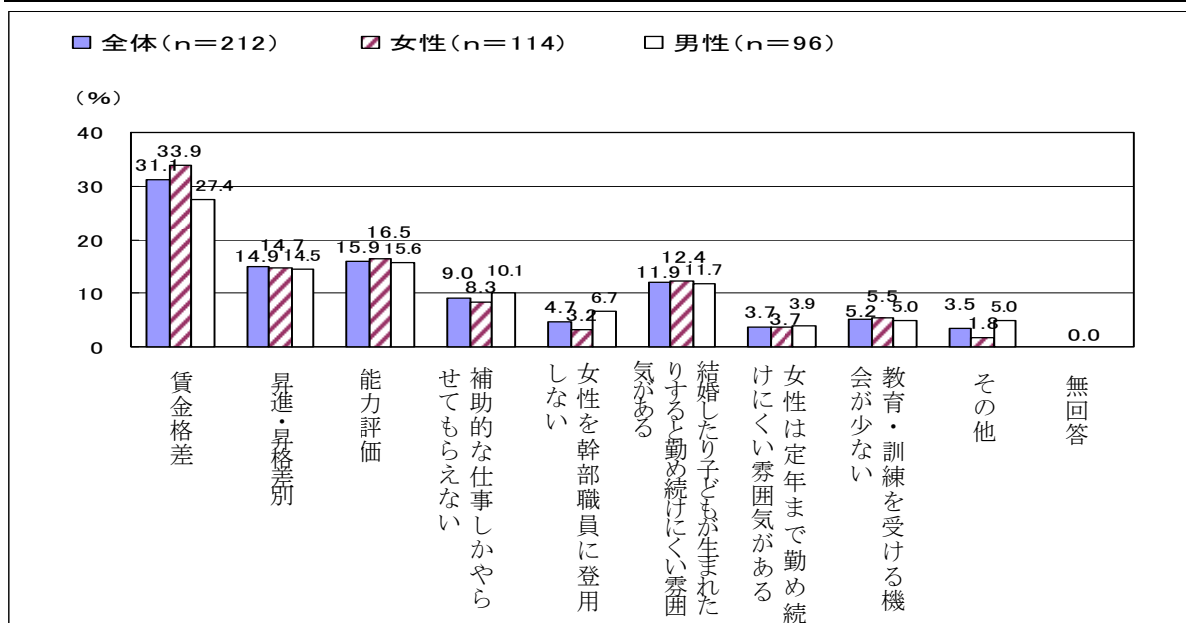
(問15で「1.差別されていると思う」と答えた方のみ回答)

～ 「賃金に格差がある」が最も多い ～

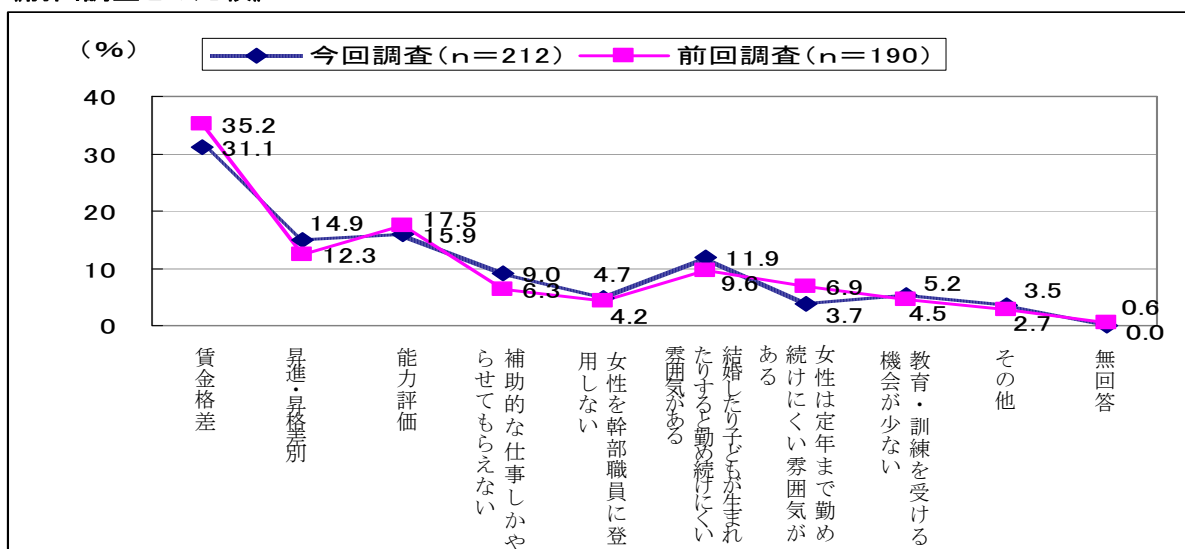
全体でみると、「賃金格差」と回答した割合は 31.1%と最も高く、次いで「能力評価」15.9%、「昇進昇格差別」14.9%となっている。

性別でみると、「賃金格差」との回答は、男性に比べ女性の割合が高くなっており、男女間で職場における実態の違いがみられる。

前回調査と比べると、賃金格差・能力評価・定年勤続は若干改善の兆しはあるが、昇進昇格差別・補助的仕事・結婚育児による勤続は増加しており、女性の継続就労は厳しいことがうかがえる。



《前回調査との比較》



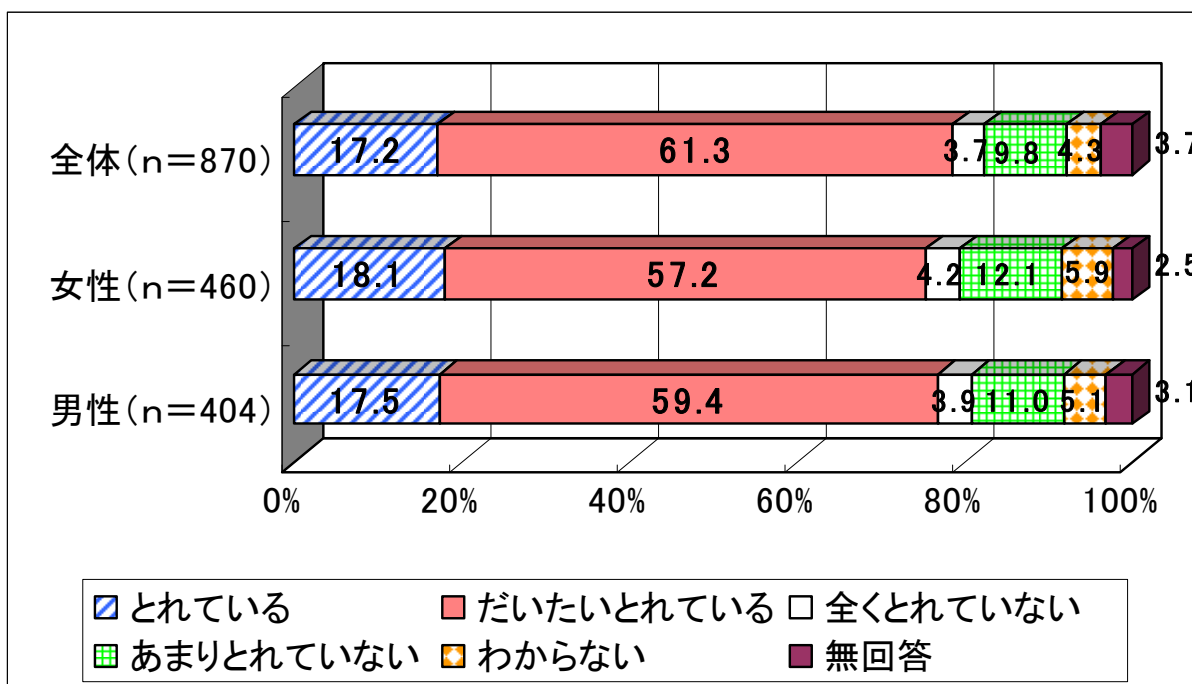
(4)仕事と家庭生活の両立

問17 仕事と家庭生活の両立がうまくとれていますか。(単一回答)

(問14で働いていると答えた方のみ回答)

～ 8割弱が「とれている」「だいたいとれている」と回答 ～

全体でみると、「とれている」「だいたいとれている」が78.5%で、「全くとれていない」「あまりとれていない」が13.5%となっているが、平成20年8月に内閣府が行ったアンケート調査によると、「仕事」優先を理想とする人は全体の2.0%にすぎないが、現実には約半数が「仕事」優先となっているという調査結果がでており、「だいたいとれている」との回答には、そのような実態が含まれていることが考えられる。



ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)

仕事は、暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらすものですが、同時に、家事・育児、近隣との付き合いなどの生活も暮らしに欠かすことができないものであり、その充実があってこそ、人生の生きがい、喜びは、倍増します。しかしながら、現実の社会には、「安定した就労による経済的自立」、「仕事と健康」、「仕事と子育てや介護との両立」など、仕事と生活の間で問題を抱える人が多く見られます。

これらが、働く人々の将来への不安や豊かさが実感できない大きな要因となっており、社会の活力の低下や少子化・人口減少という現象にまで繋がっているとと言えます。それを解決する取組が、仕事と生活の調和の実現です。

(5)今後の就業希望

問18 あなたは、今後のご自身の仕事についてどうお考えですか。(単一回答)

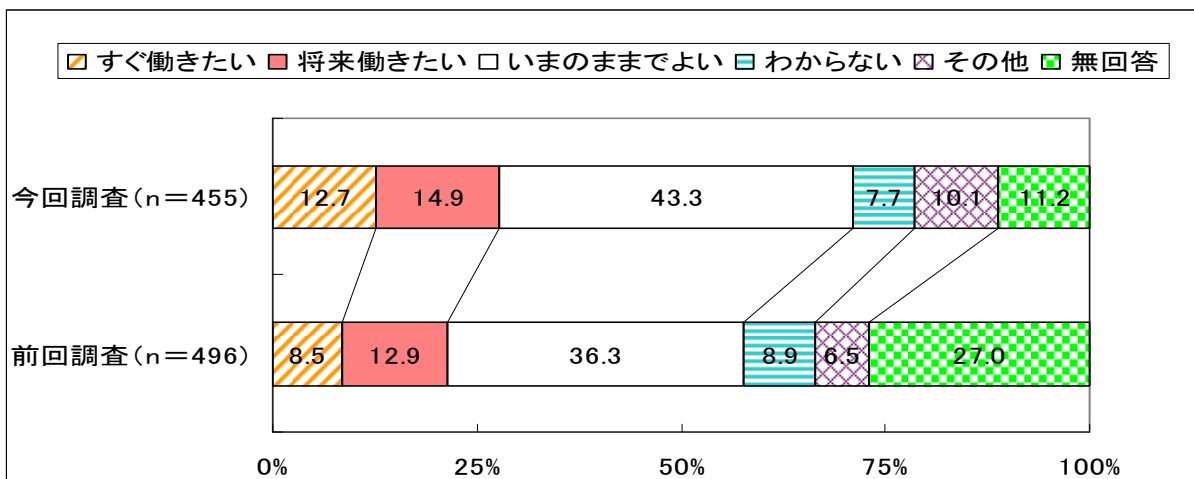
(問14で現在働いていないと答えた方のみ回答)

～ 女性の20～40代は「将来働きたい」、男性の20～30代は

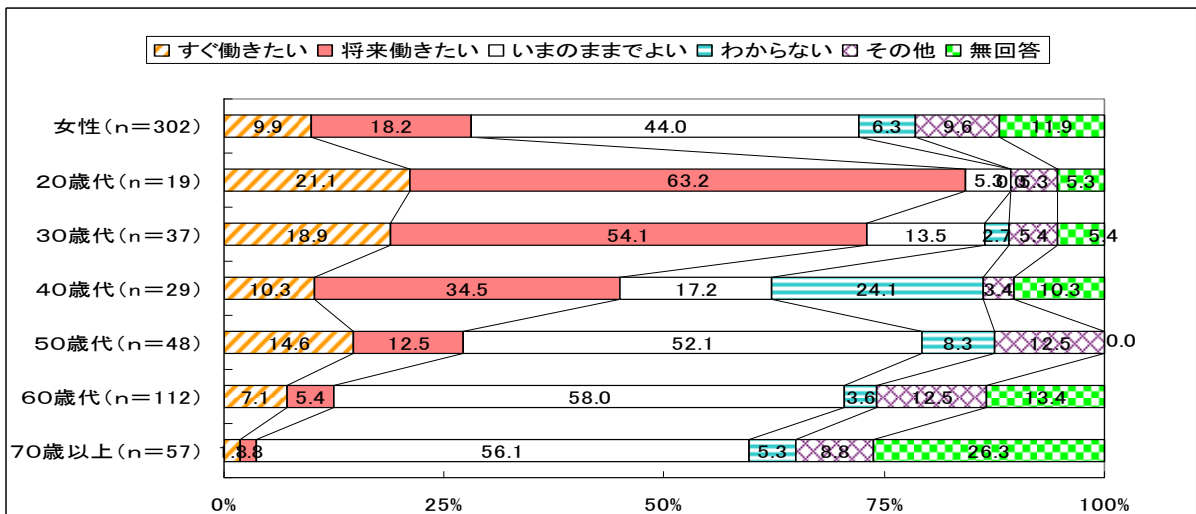
「すぐ働きたい」または「将来働きたい」と考えている ～

性別・年齢別で見ると、女性では「将来働きたい」と回答した割合が20歳代で63.2%、30歳代54.1%、40歳代34.5%と各年代で最も高い割合を占めている。一方、男性では20歳代で「すぐ働きたい」40.0%、「将来働きたい」40.0%、30歳代「すぐ働きたい」20.0%、「将来働きたい」40.0%となっている。また、男性の40～60歳代で、「すぐ働きたい」との回答も多くなっている。

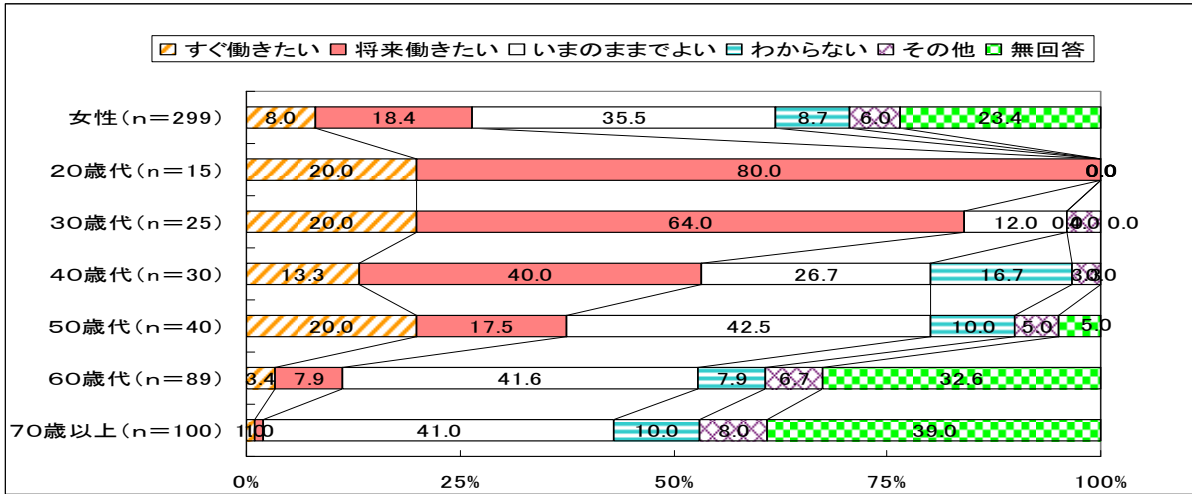
前回調査と比べると、女性は「将来働きたい」が減少し、年代が高くなるほど、「いまのままでよい」が増えている。



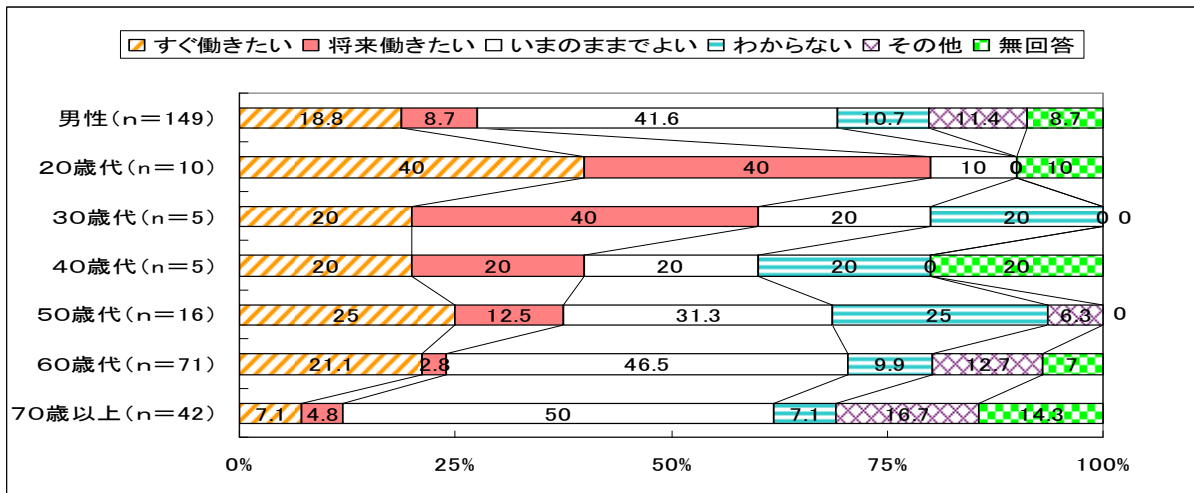
《女性(今回調査)》



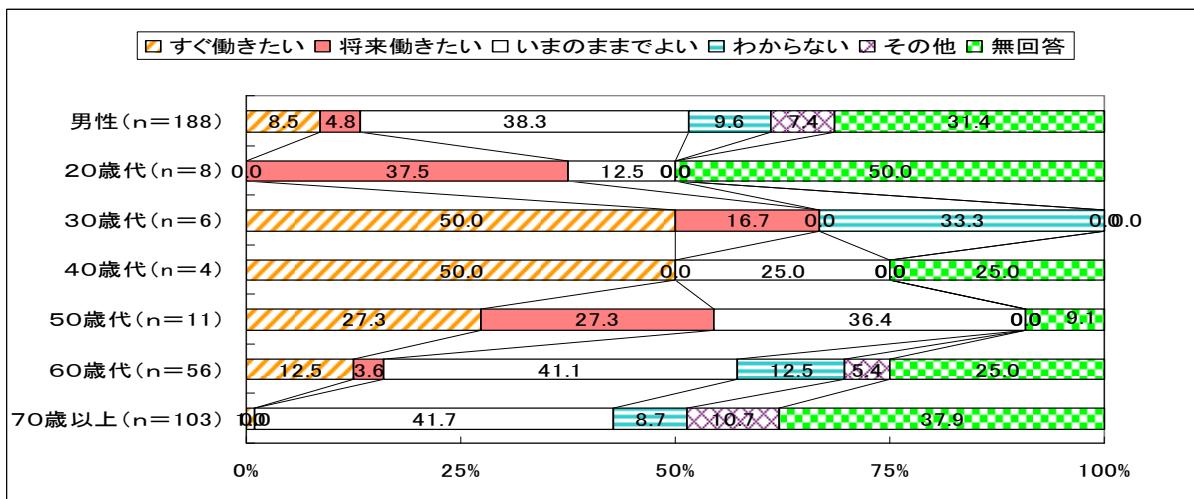
《女性(前回調査)》



《男性(今回調査)》



《男性(前回調査)》

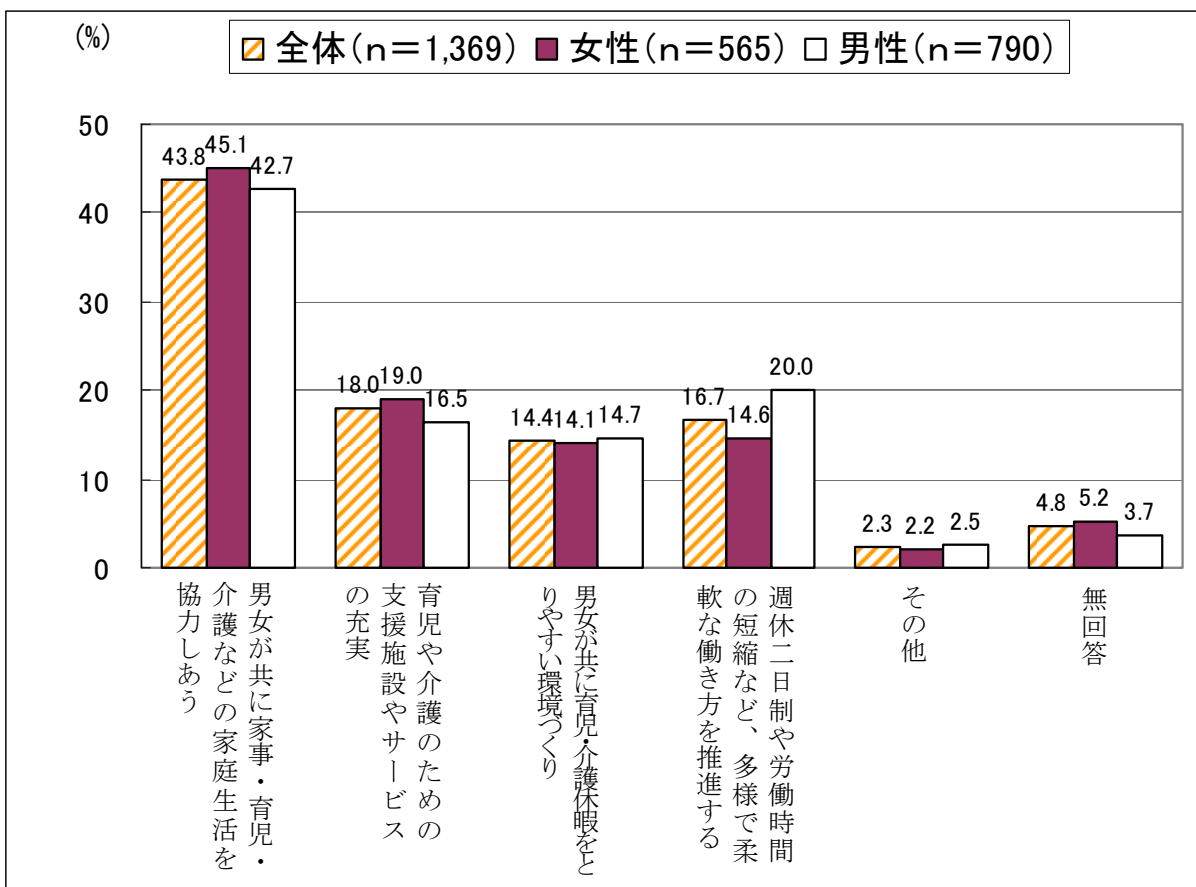


(6)仕事と家庭生活の両立に必要なこと

問19 仕事と家庭生活の両立のために、どのようなことが必要か。(単一回答)

～「男女が共に家事・育児・介護などの家庭生活を協力しあう」が最も多い～

男女ともに「家事・育児・介護などの家庭生活を協力しあう」と回答した割合が最も高くなっている。特に男性は、「週休二日制や労働時間の短縮などの多様な働き方を推進する」の割合が高くなっており、就労環境に関心があることがうかがえる。



「男女共同参画週間」

平成11年6月23日施行の「男女共同参画社会基本法」に対する理解を深めるため、毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」として、全国で様々な啓発活動が行われています。

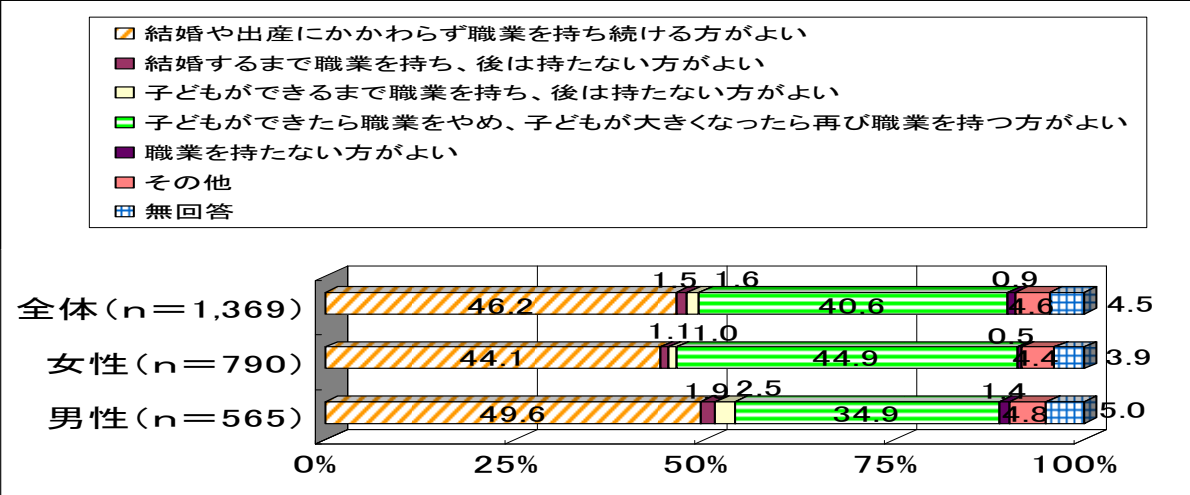
(7)女性の就業に対する考え方

問20 あなたは、女性が職業を持つことをどう思いますか。(単一回答)

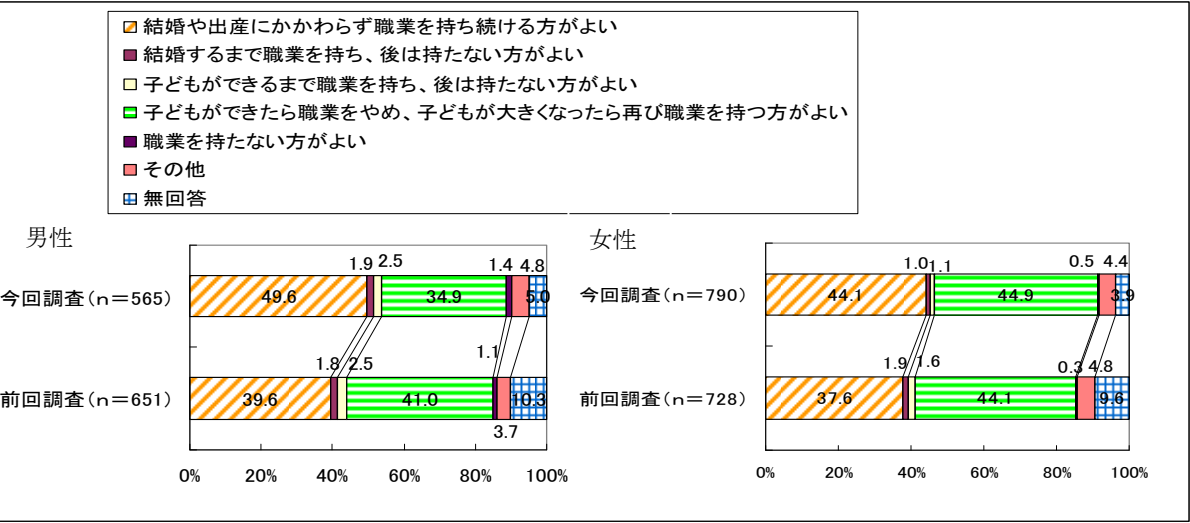
～ 結婚や出産にかかわらず職業を持ち続けることを望んでいる ～

全体でみると、「結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい」(46.2%)との回答が最も多く、次いで「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」(40.6%)となっている。

性別でみると、男性は「結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい」との回答が最も多くなっているが、女性は「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」との回答が最も多くなっており、男女間で女性の就業に対する考え方の違いがみられる。また、前回調査と比べると「結婚や出産にかかわらず職業を持つ方がよい」の割合が男女ともに増加している。



《前回調査との比較》



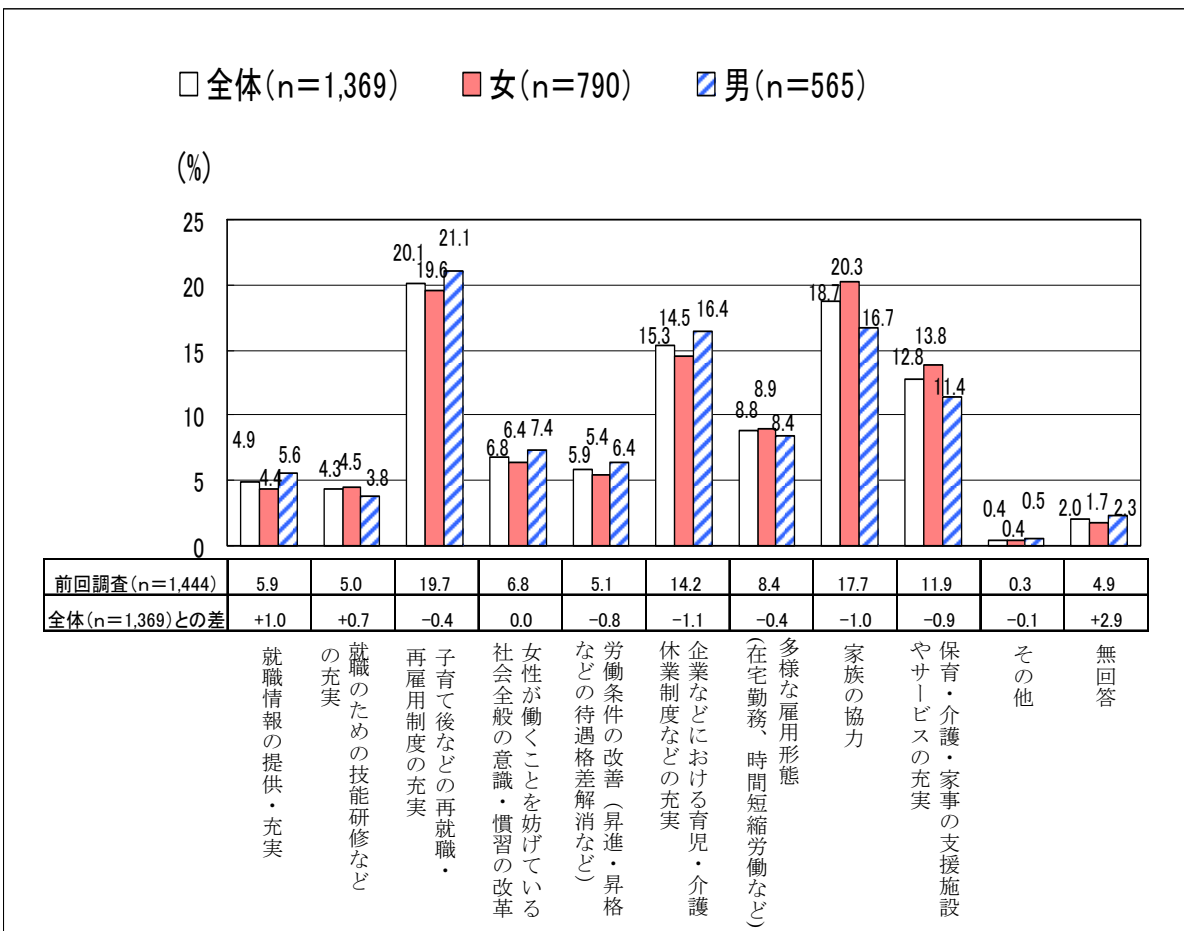
(8)女性への就業支援

問21 女性が生涯にわたり仕事を続けるためには、どのような支援や改善が必要だと思いますか。(3つまで回答)

～ 「子育て後の再就職・再雇用制度の充実」、「家族の協力」、
「育児・介護休業制度などの充実」がトップ3 ～

全体でみると、「子育て後などの再就職・再雇用制度の充実」(20.1%)との回答が最も多く、次いで「家族の協力」(18.7%)、「企業などにおける育児・介護休暇制度などの充実」(15.3%)と続き、前回調査とほぼ同様の結果となっている。

性別でみると、女性は「家族の協力」が最も多く、次いで「子育て後などの再就職・再雇用制度の充実」となっているが、男性は「子育て後などの再就職・再雇用制度の充実」が最も多く、次いで「家族の協力」となっており、男女間で意識の違いがみられる。



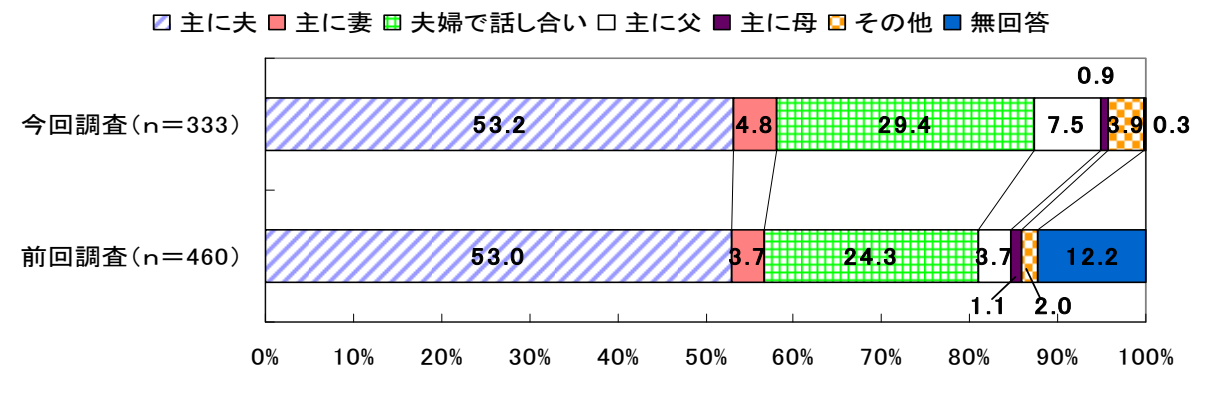
(9) 自営業者の経営方針への参画

問22 事業経営の方針や取り決め等を決定するのは誰ですか。(単一回答)

(農林業・サービス業等の自営業に従事し、かつ、結婚している方のみ回答)

～ 経営の方針等を決めるのは「主に夫」が半数以上を占める ～

「主に夫」との回答が53.2%で最も多く、次いで「夫婦で話し合い」が29.4%となっており、事業経営の方針や取り決め等の決定権は「主に夫」にあることがわかる。前回調査と比べると特に「夫婦で話し合い」の割合が他の項目より増加している。

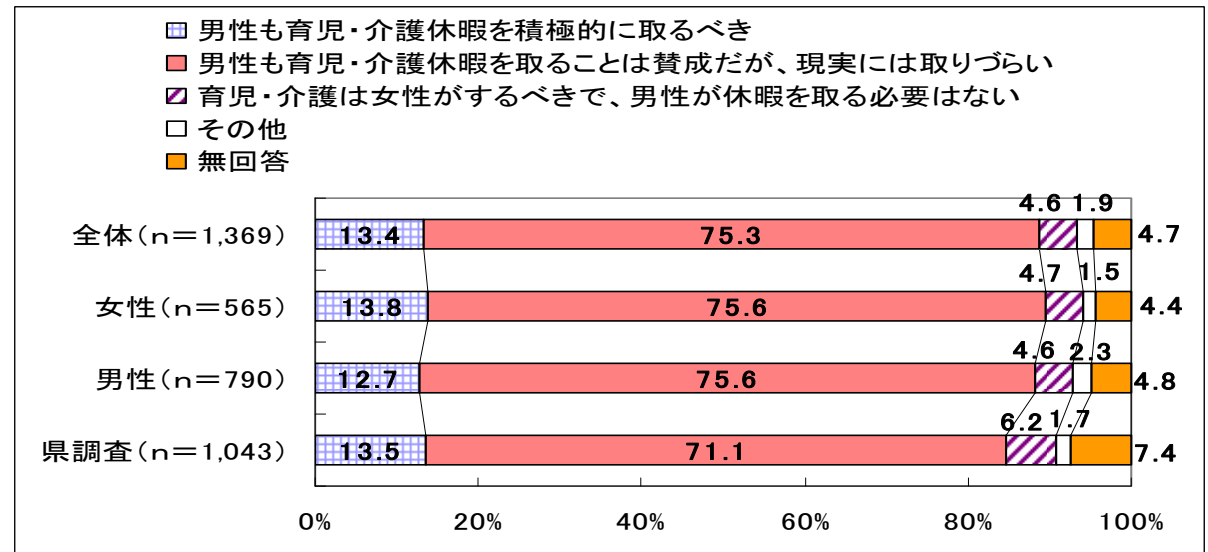


(10) 男性の育児・介護休暇取得

問23 男性の育児・介護休暇取得について、どのように考えますか。(単一回答)

～「育児・介護休暇を取ることは賛成だが、現実には取りづらい」が75.3%を占める～

全体として88.7%が育児・介護休暇をとるべきと考えているが、その内75.3%は現実にはとりづらいと考えている。県調査と比べても、ほぼ同様の結果となっている。



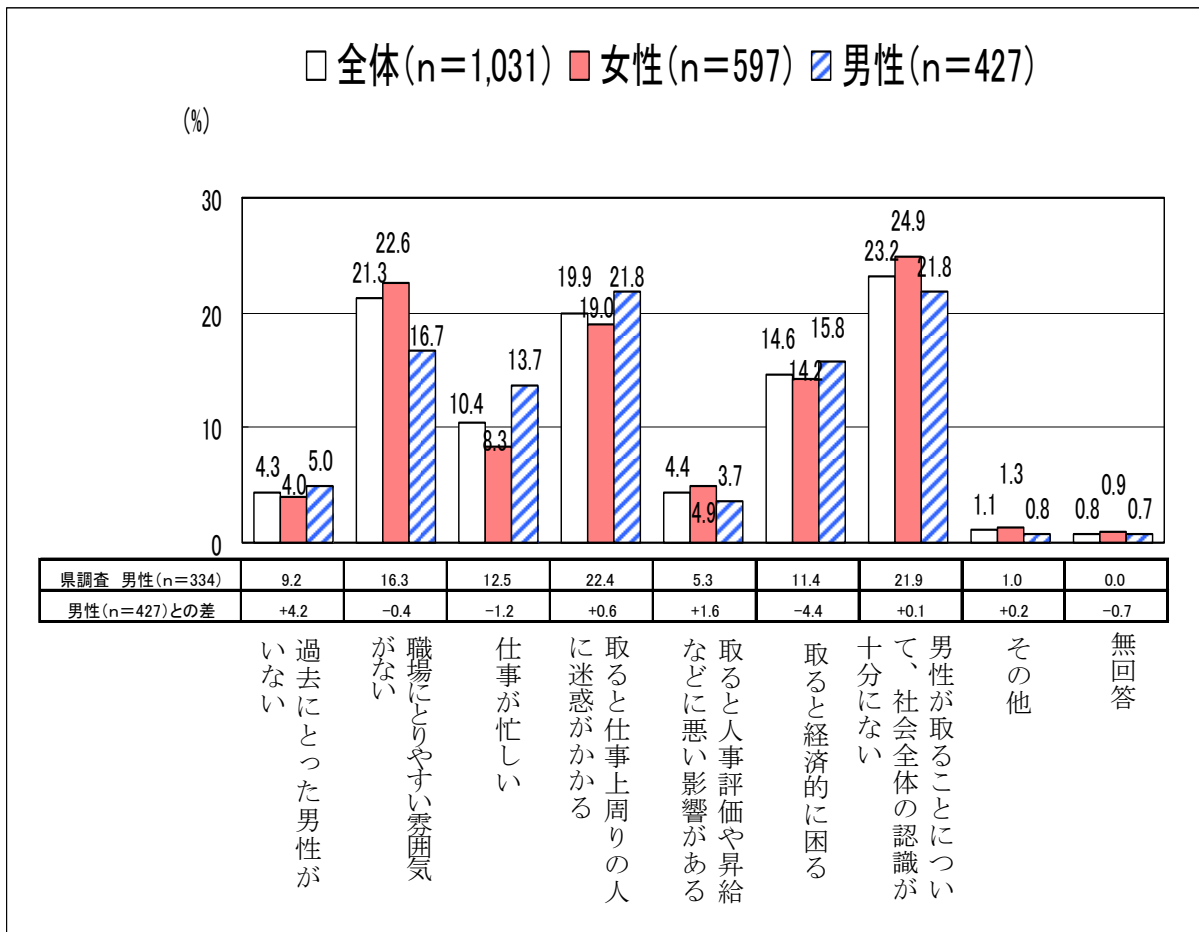
(11) 男性の育児・介護休暇が取りづらい理由

問 2 4 男性の育児・介護休暇取得について、現実に取りづらい理由は何ですか。(2つまで回答)

(問23で現実には取りづらいと回答した方のみ)

～ 「社会全体の認識」、「職場の雰囲気」、「周りへの配慮」がトップ3 ～

全体でみると、「男性が取ることに、社会全体の認識が十分でない」(23.2%)が最も多く、次いで「職場に取りやすい雰囲気がない」(21.3%)となっており、職場の雰囲気や社会全体の認識を高める必要がある。
 県調査(男性)と比べると、「取ると経済的に困る」のポイントが高くなっている。



4. 地域活動について

(1) 地域における女性の参画状況

問25 自治会等地域の集まりや作業の中で、女性も男性と共に参加したり、男性と同じように発言することができにくい雰囲気や状況があると思いますか。(単一回答)

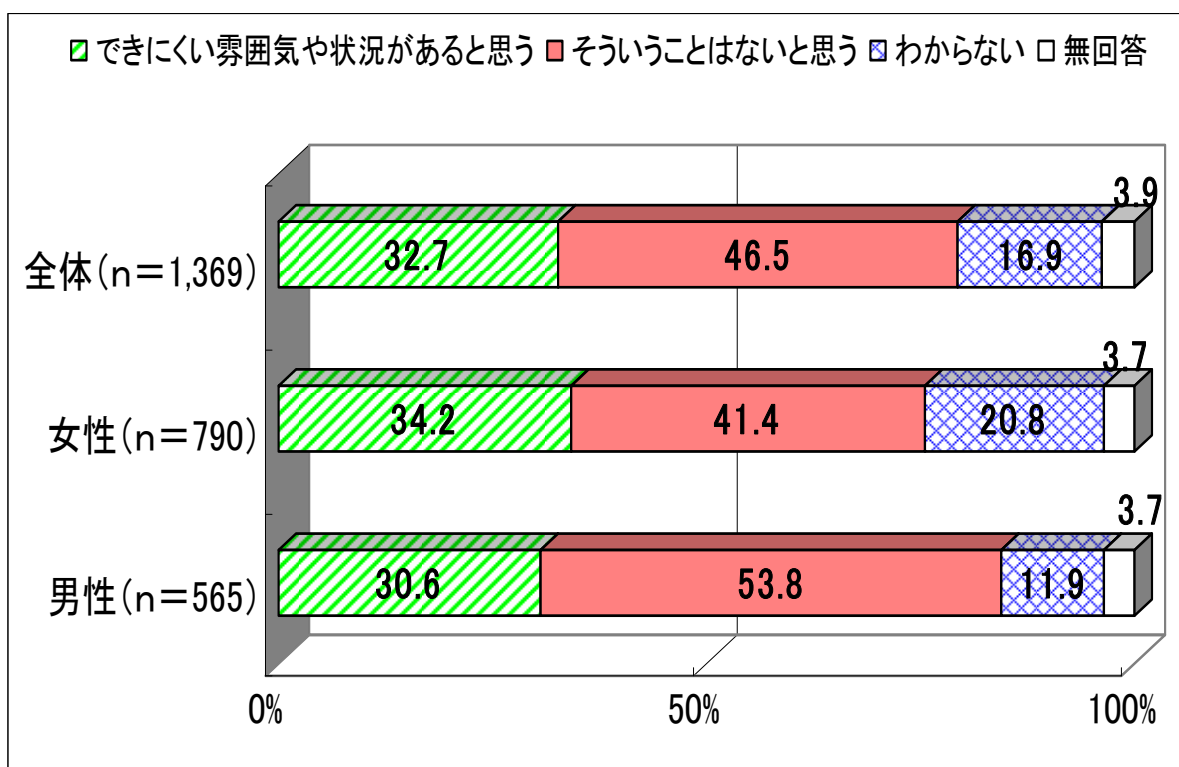
～ 「できにくい雰囲気や状況があると思う」との回答が 32.7%を占める ～

全体でみると、「そういうことはないと思う」と回答した割合が 46.5%、「出来にくい雰囲気や状況があると思う」との回答が 32.7%と高くなっている。

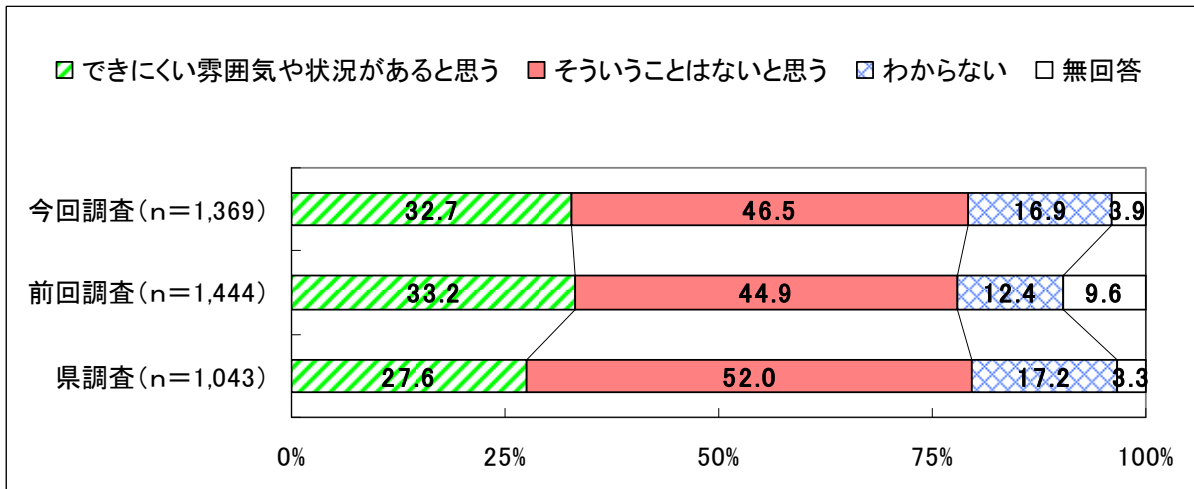
性別にみると、「できにくい雰囲気や状況があると思う」と回答した割合は女性 34.2%に対し、男性は 30.6%となっており、女性の方が活動しにくいと感じている。

前回調査と比べると「出来にくい雰囲気や状況があると思う」が 0.5 ポイント減、「そういうことはないと思う」1.6 ポイント増となっているが、県調査と比べると、「出来にくい雰囲気や状況があると思う」の割合は高く、「そういうことはないと思う」の割合は低くなっている。

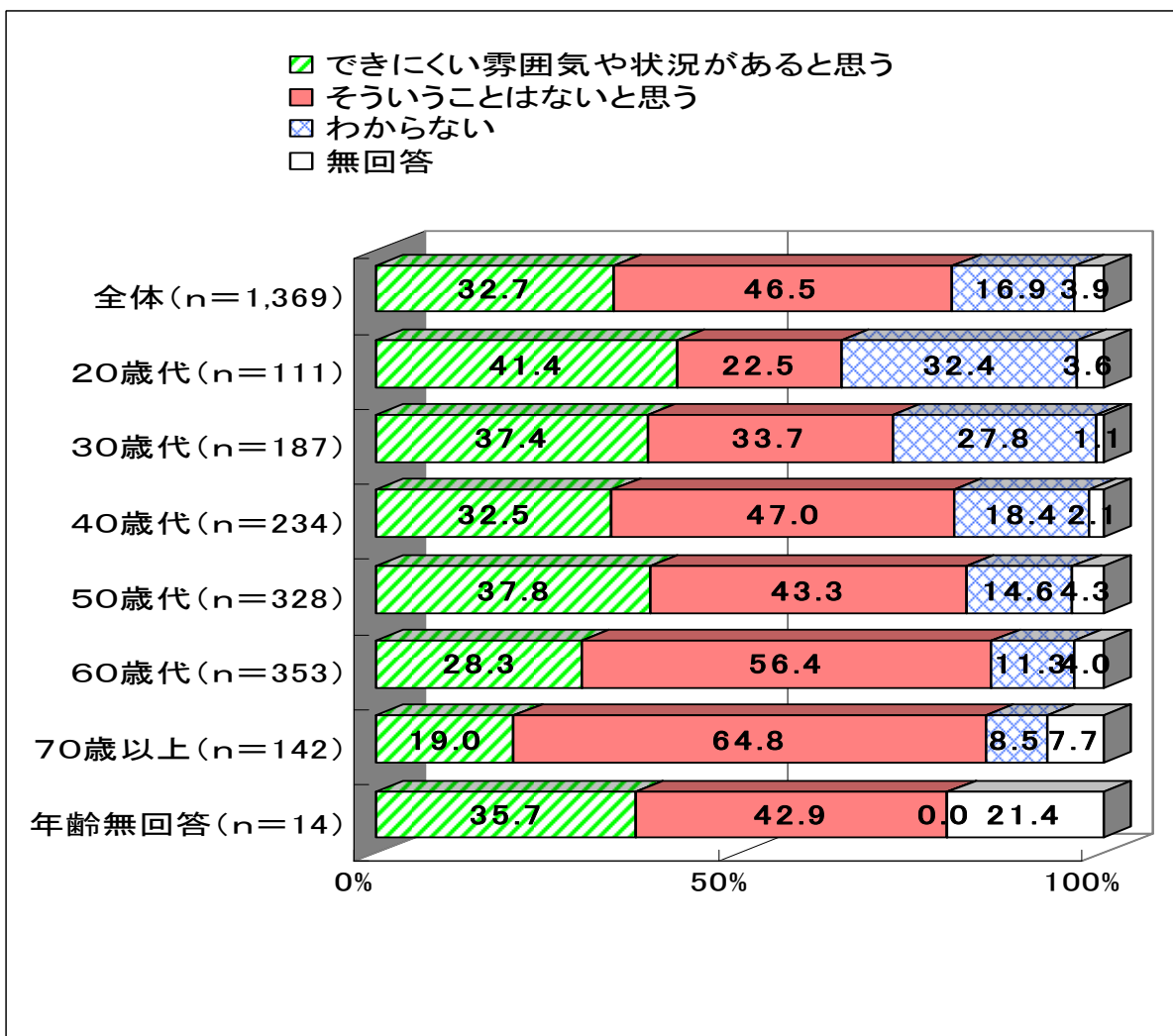
年齢別でみると、20～30 歳代は「出来にくい雰囲気や状況があると思う」が最も多く、40～70 歳代では「そういうことはないと思う」との回答が多く、年齢層でその考えが違う結果となっている。



《前回調査・県調査との比較》



女性が活動しにくい状況に対する考え方（年齢別）



(2)女性が活動しにくい状況の内容

問26 それはどんな雰囲気や状況だと思いますか。(2つまで回答)

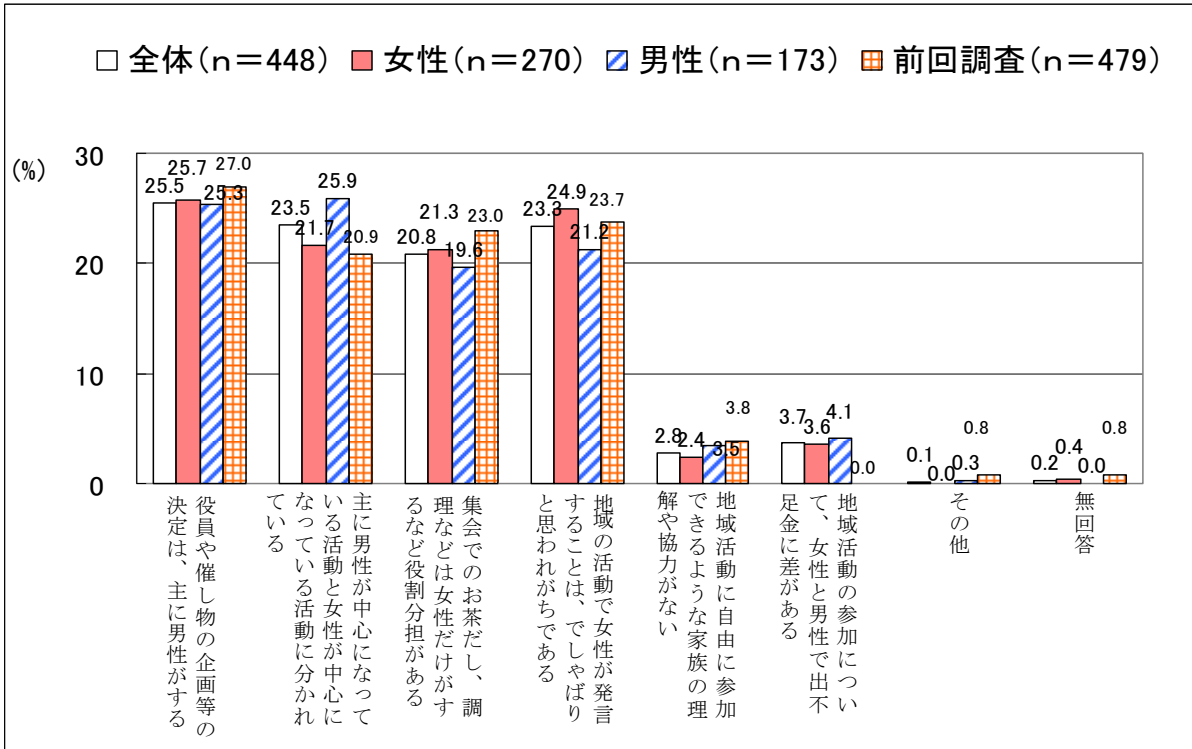
(問25で「1.できにくい雰囲気や状況があると思う」と答えた方のみ回答)

～ 役員や催し等の決定は主に男性が行い、
女性の発言はでしゃばりと思われがちな雰囲気がある ～

全体でみると、「役員や催し物の企画等の決定は、主に男性がする」との回答が最も多く(25.5%)、次いで「主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれている」(23.5%)、「地域の活動で女性が発言することは、でしゃばりと思われがちである」(23.3%)、「集会でのお茶だし、調理などは女性だけがするなど役割分担がある」(20.8%)と続き、その割合は比較的近いものとなっている。また、「地域活動の参加について、女性と男性で出不足金に差がある」については、今回調査で新たに追加した項目で、3.7%と高くはないが、そのような状況が存在することがわかる。

性別でみると、女性で「地域の活動で女性が発言することは、でしゃばりと思われがちである」と回答した割合が男性より高く、男性では「主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれている」が女性より高く、鮮明に意識の差が出ている。

前回調査と比べると、「主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれている」のポイントが高くなっている。



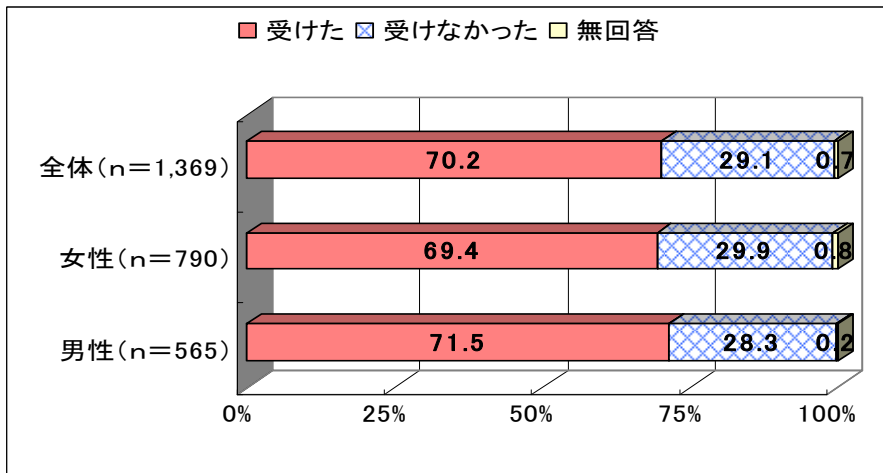
※ 前回調査は「地域活動の参加について、女性と男性で出不足金に差がある」の回答項目なし

5. 健康について

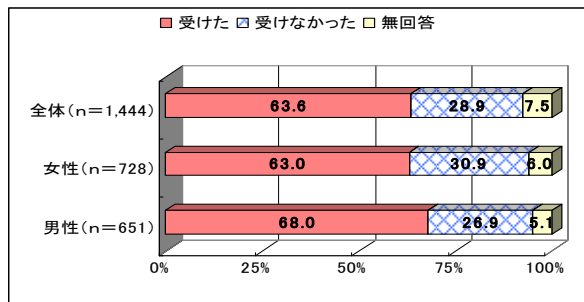
(1) 健康診断の受診状況

問27 あなたは、この1年間に健康診断や検診を受けましたか。

健康診断については、いずれも7割以上が受診している。前回調査と比べると、特に女性の受診率が上昇し、男女ともに健康への配慮がうかがわれる。



前回調査

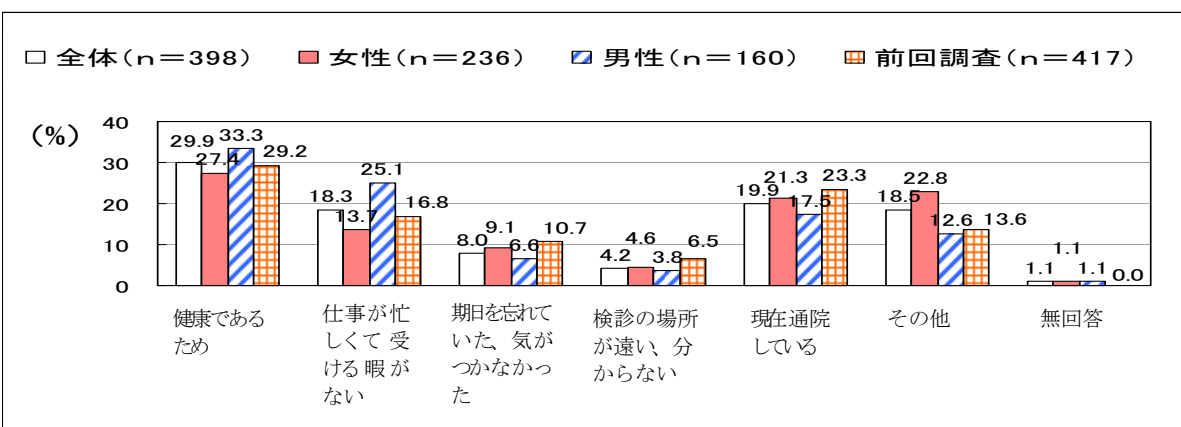


(2) 健康診断を受診しなかった状況

問28 健康診断や検診を受けなかったのはなぜですか。(複数回答)

(問27で「2.受けなかった」と答えた方のみ回答)

男女ともに「健康である」と回答した割合が最も高く(29.9%)、次いで「現在通院している」(19.9%)となっている。また、男性では特に「仕事が忙しくて受ける暇がない」が女性に比べ多くなっている。



6. 少子・高齢化について

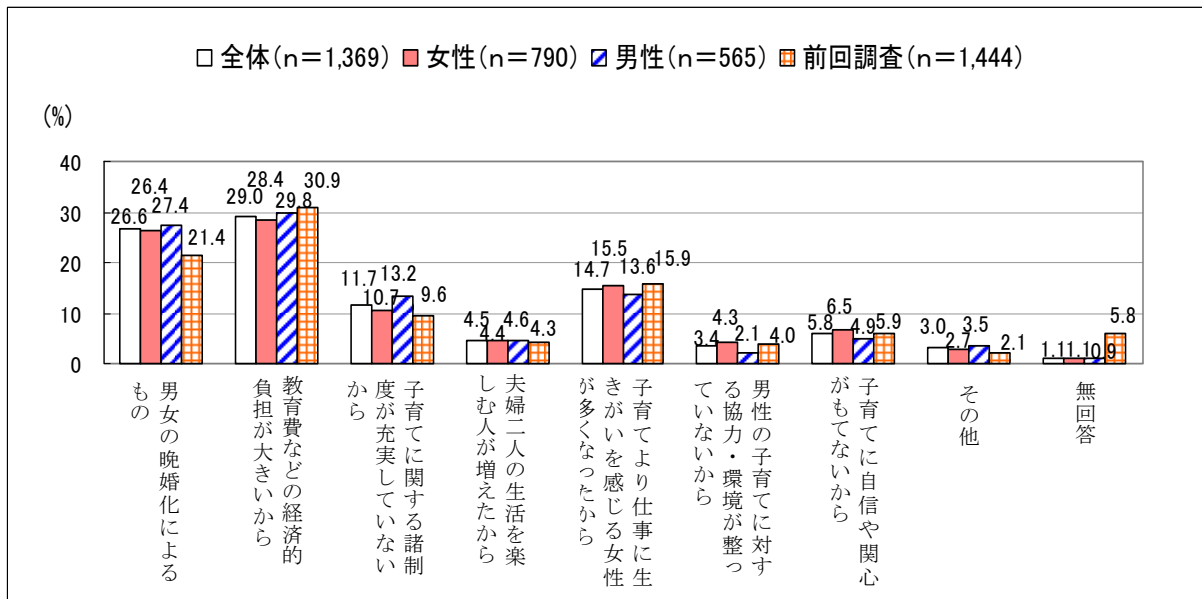
(1) 出生率低下についての意識

問29 出生率の低下がわれていますが、なぜだと思いますか。(2つまで回答)

～「教育費などの経済的負担が大きい」と「男女の晩婚化」との回答が多数を占める～

全体でみると、「教育費などの経済的負担」(29.0%)が最も多く、次いで「男女の晩婚化」(26.6%)、「子育てより仕事に生きがいを感じる」(14.7%)となっている。

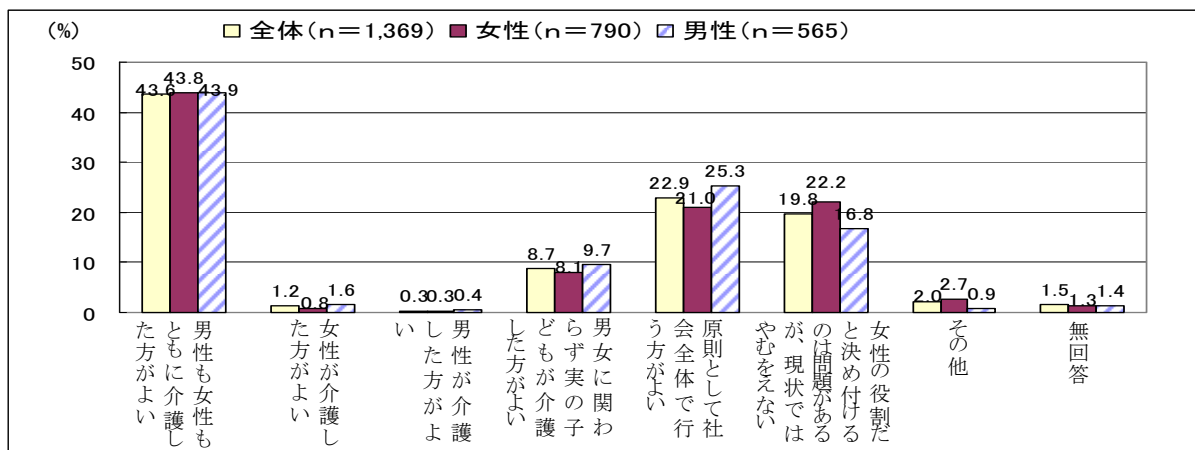
前回調査と比べると、「男女の晩婚化」が5.2ポイント増となっている。



(2) 高齢者介護のあり方

問30 これからの高齢者介護のあり方について、どのようにお考えですか。(単一回答)

全体でみると、最も多い回答は「男性も女性もともに介護した方がよい」(43.6%)で、次いで男性は「原則として社会全体で行う方がよい」が多くなっているが、女性は「女性だと決め付けるのは問題があるが、現状ではやむをえない」が多くなっている。



7. 女性の人権について

(1) 配偶者等からの暴力

① 暴力の実態

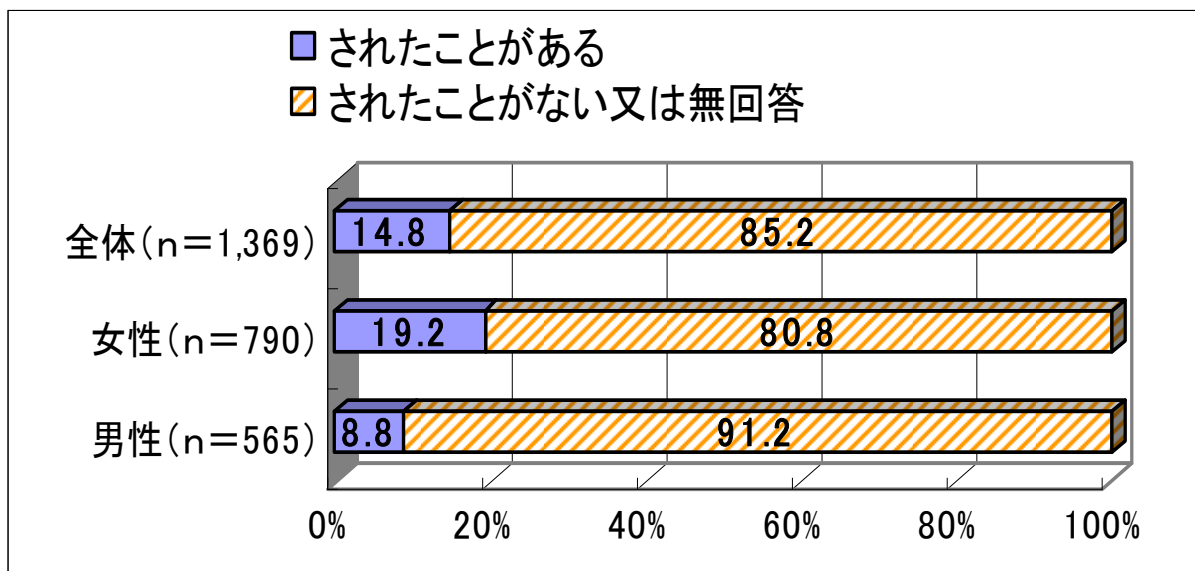
問31 あなたは、この1年間に、配偶者や恋人など親しい関係にある人との間で、次のようなことをしたり、されたりしたことがありますか。(複数回答)

～ 被害体験者は女性に多い ～

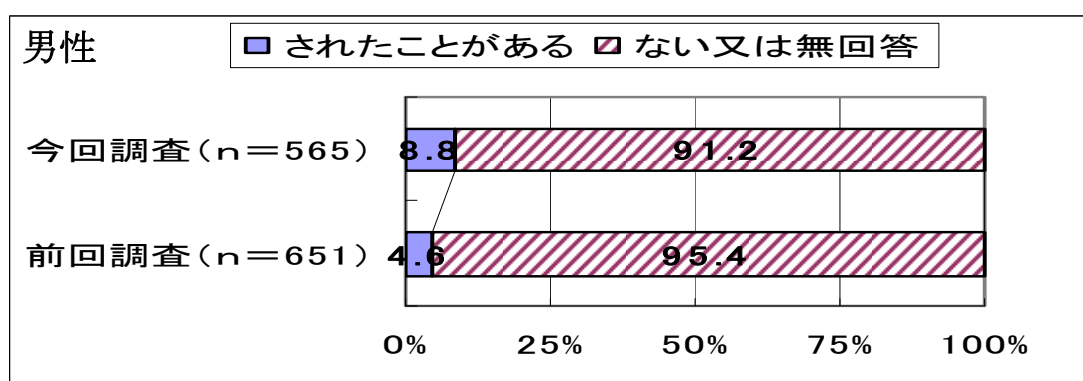
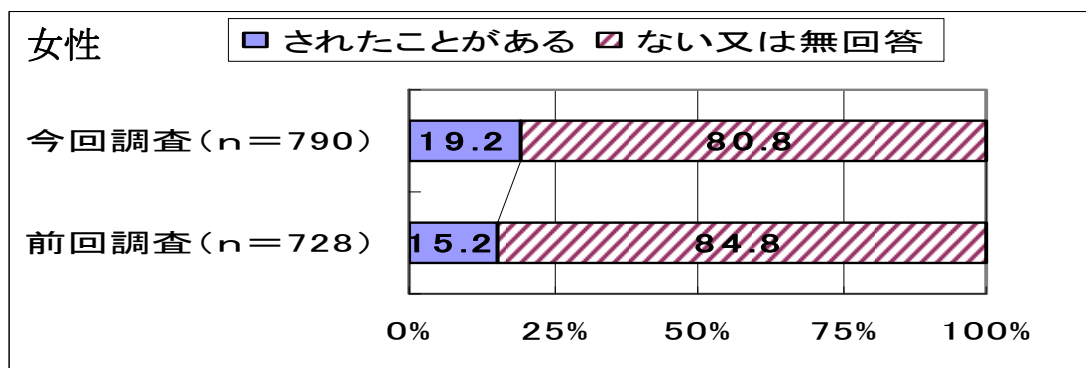
全体でみると 14.8%で「されたことがある」と回答している。被害体験者の男女の割合は、女性 19.2%に対し、男性 8.8%となっており、女性が被害の対象となる割合が高くなっている。

前回調査と比べると女性 4.0 ポイント増、男性 4.2 ポイント増と、男女ともに割合が増えている。

性別・項目別でみると、「されたことがある」で最も多い回答は、「大声でどなって威嚇する」、「何を言っても長時間無視し続ける」が上位に挙げられ、全ての項目において女性の方が多くなっている。ただし、「何を言っても長時間無視し続ける」では男性の回答も多くなっている。一方、「したことがある」はいずれも男性が多くなっており、その内容は「大声でどなって威嚇する」「何を言っても長時間無視し続ける」「殴る、蹴る、たたく、突き飛ばす」の順になっている。



《前回調査との比較》



《項目別》

女性 790 人中、男性 565 人中の人数

項目	したことがある		されたことがある	
	女性	男性	女性	男性
a. 殴る、蹴る、たたく、突き飛ばす	8 (1.0%)	23 (4.1%)	23 (2.9%)	9 (1.6%)
b. 命の危険を伴う暴力	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.4%)	2 (0.4%)
c. 大声でどなって威嚇する	13 (1.6%)	73 (12.9%)	98 (12.4%)	17 (3.0%)
d. 家具や食器などを投げたり壊したりしておどす	2 (0.3%)	14 (2.5%)	28 (3.5%)	5 (0.9%)
e. 何を言っても長時間無視し続ける	25 (3.2%)	24 (4.2%)	49 (6.2%)	28 (5.0%)
f. 交友関係や電話・外出・手紙のやりとり、お金の使い道を細かく監視・制限する	2 (0.3%)	5 (0.9%)	26 (3.3%)	7 (1.2%)
g. 生活費等の必要なお金を渡さない	2 (0.3%)	3 (0.5%)	18 (2.3%)	3 (0.5%)
h. 金の使い道を細かく監視・制限する	2 (0.3%)	5 (0.9%)	21 (2.7%)	6 (1.1%)
i. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる。	0 (0.0%)	3 (0.5%)	3 (0.4%)	0 (0.0%)
j. 嫌がるのに性的な行為を強要する	0 (0.0%)	13 (2.3%)	24 (3.0%)	1 (0.2%)

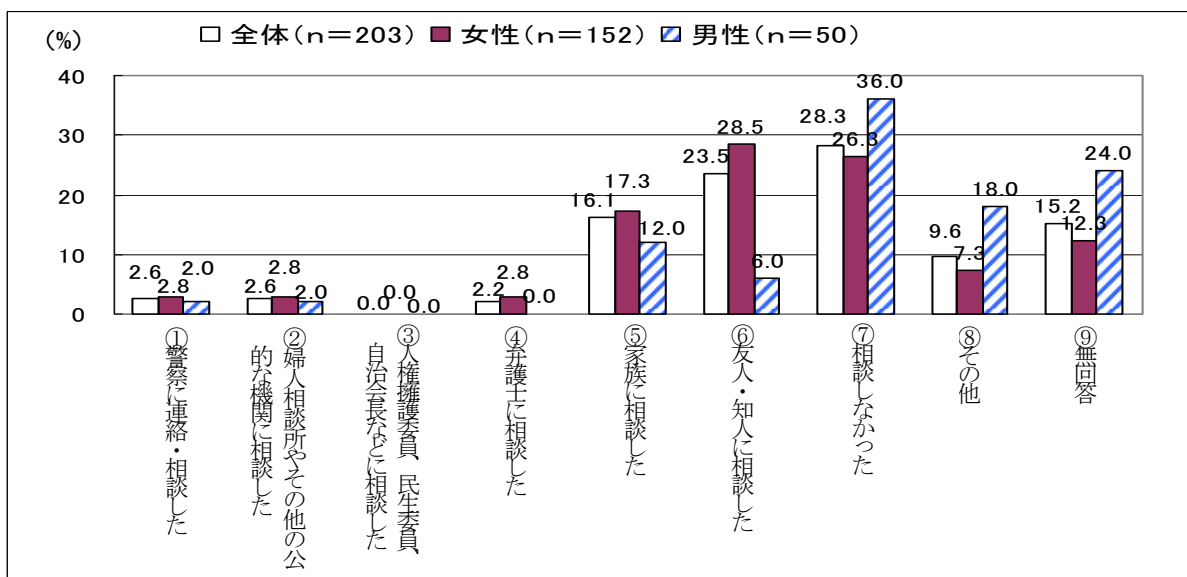
②相談の有無

問32 誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答)

(問31で1つでも「されたことがある」と答え方のみ回答)

～ 女性は「友人・知人に相談」が多く、男性は「相談しなかった」が最も多い ～

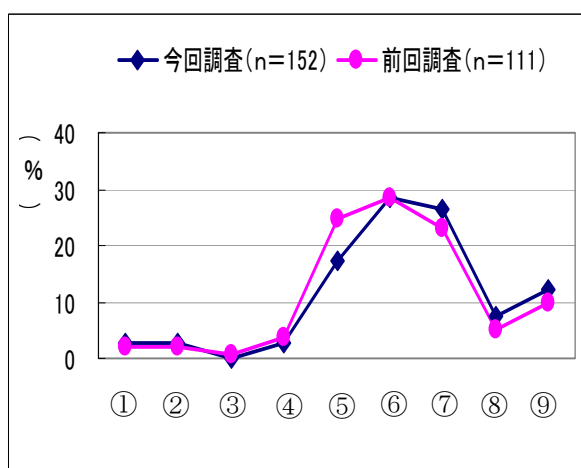
全体でみると、「相談しなかった」との回答が 28.3%で最も多くなっており、特に男性の方が高い割合を示している。また、前回調査と比べても「相談しなかった」割合は増えており、相談体制の見直しや相談窓口の周知が必要と考えられる。相談先については、「友人・知人」が最も多く、次に「家族」の順となっているが、性別でみると女性の方が高い割合を示しており、被害を受けた際の男女の対応は大きく違う結果となっている。



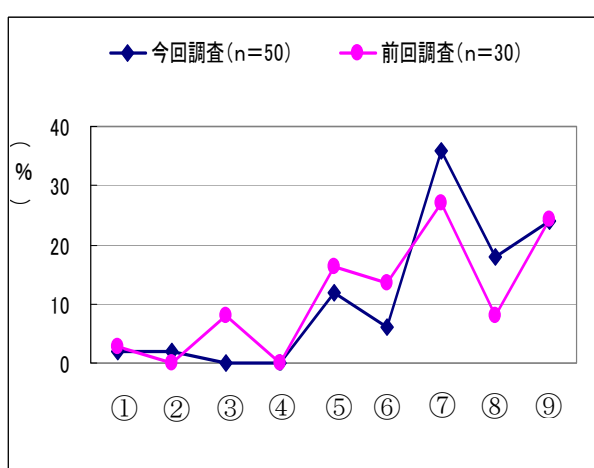
《前回調査との比較》

※①～⑨は上記項目のとおり

女性



男性



③相談した結果

問33 相談した結果、状況はどうになりましたか。(単一回答)

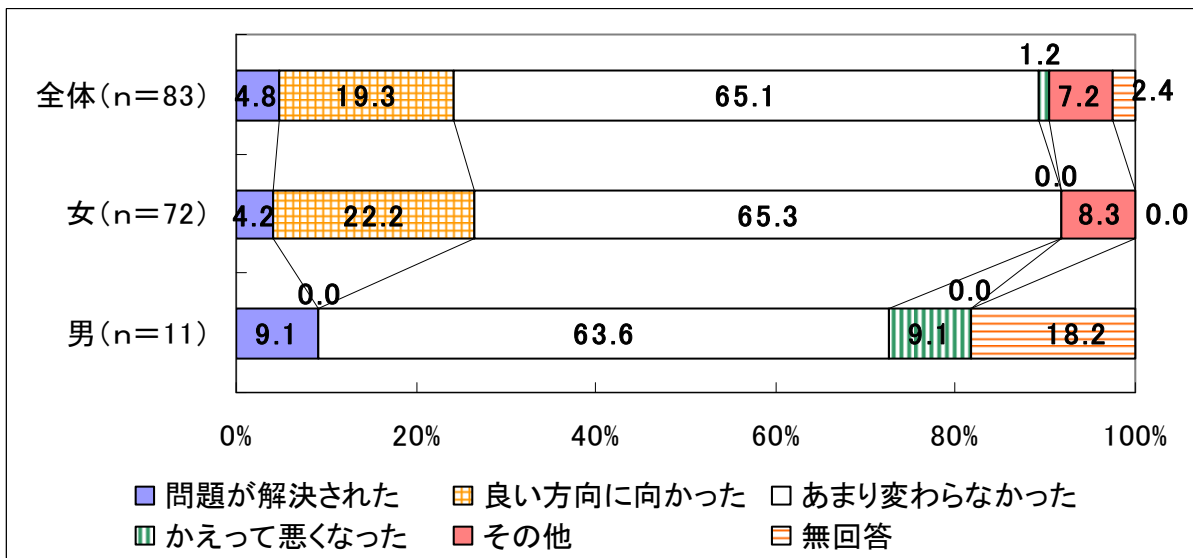
(問32で「1～6.相談した」と答えた方のみ回答)

～ 65.1%が「あまり状況は変わらなかった」と回答 ～

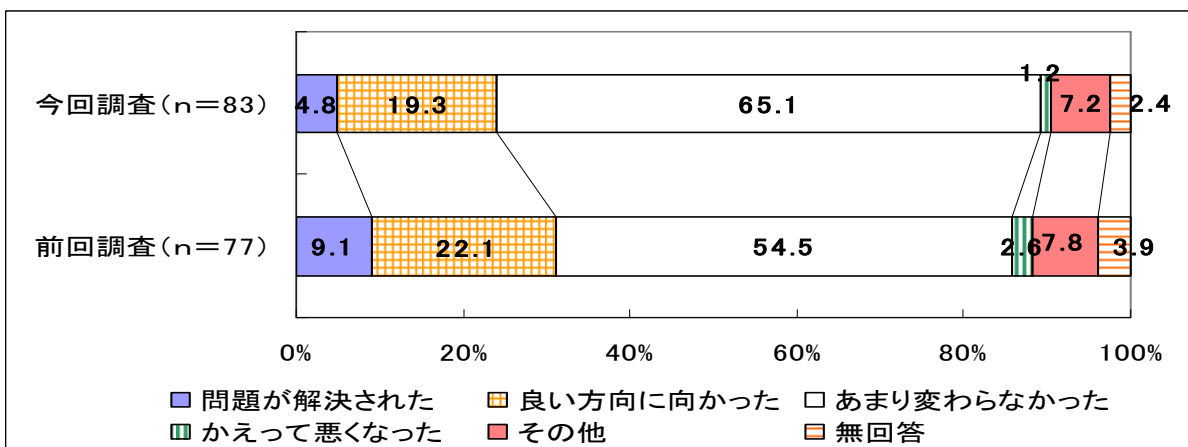
全体でみると、「あまり状況は変わらなかった」が 65.1%で最も高く、次いで「良い方向に向かった」19.3%となっている。

性別でみると、いずれも「あまり状況は変わらなかった」との回答が最も多くなっているが、女性では「問題が解決された」が 4.2%、「良い方向に向かった」22.2%に対し、男性では「問題が解決された」が 9.1%、「かえって悪くなった」が 9.1%となっている。

前回調査と比べると「問題が解決された」、「良い方向に向かった」の割合は減り、「あまり変わらなかった」が増えている。



《前回調査との比較》



(2)職場における性的嫌がらせ

①嫌がらせの実態

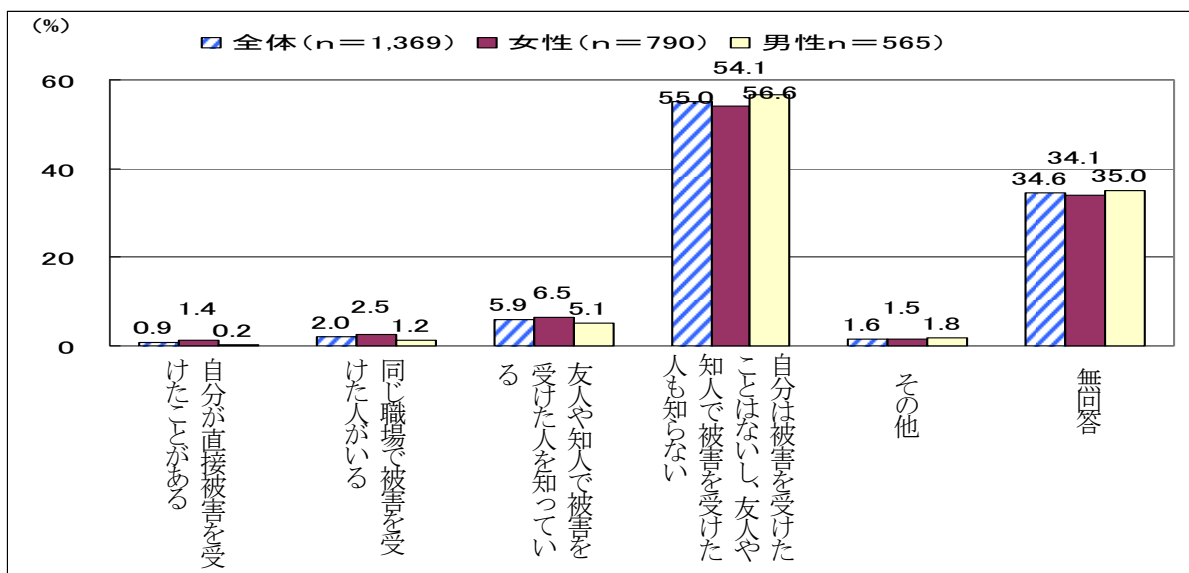
問34 あなたは、この1年間に職場でセクシャル・ハラスメント(性的嫌がらせ)と思われる被害を受けたり、他の人の被害について聞いたことがありますか。(複数回答)

～ 被害体験者は女性の方がやや多くみられる ～

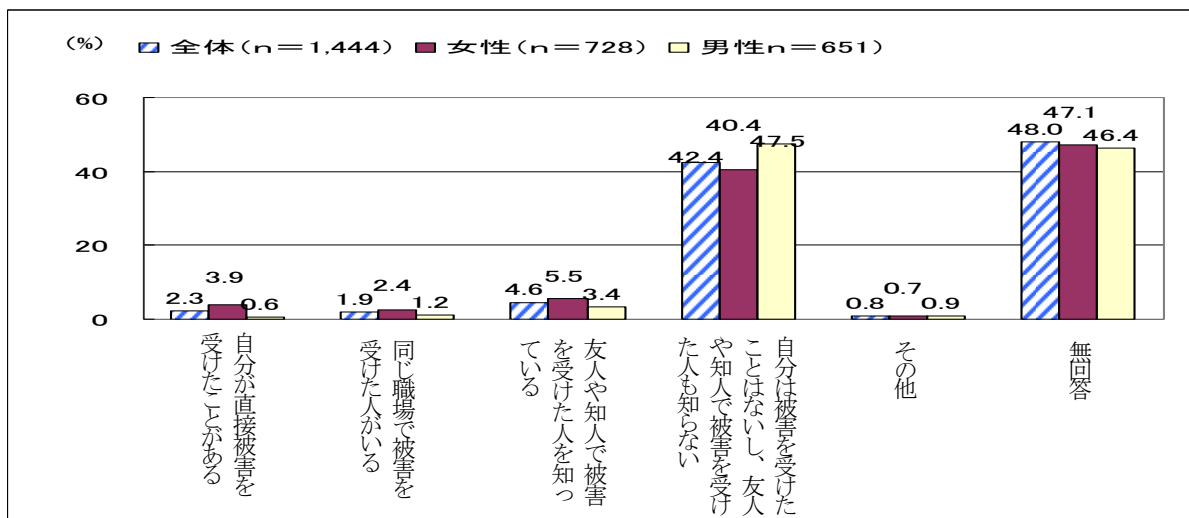
男女とも「自分は被害を受けたことがないし、友人・知人で被害を受けた人も知らない」との回答が5割を超え最も多くなっている。

性別でみると、少ない件数ではあるが「自分が直接被害を受けたことがある」や「同じ職場で被害を受けた人がある」との回答は、女性の方がやや多くなっている。

前回調査と比べると、直接被害を受けた人は若干減少し、被害を知っているが若干増加している。



前回調査



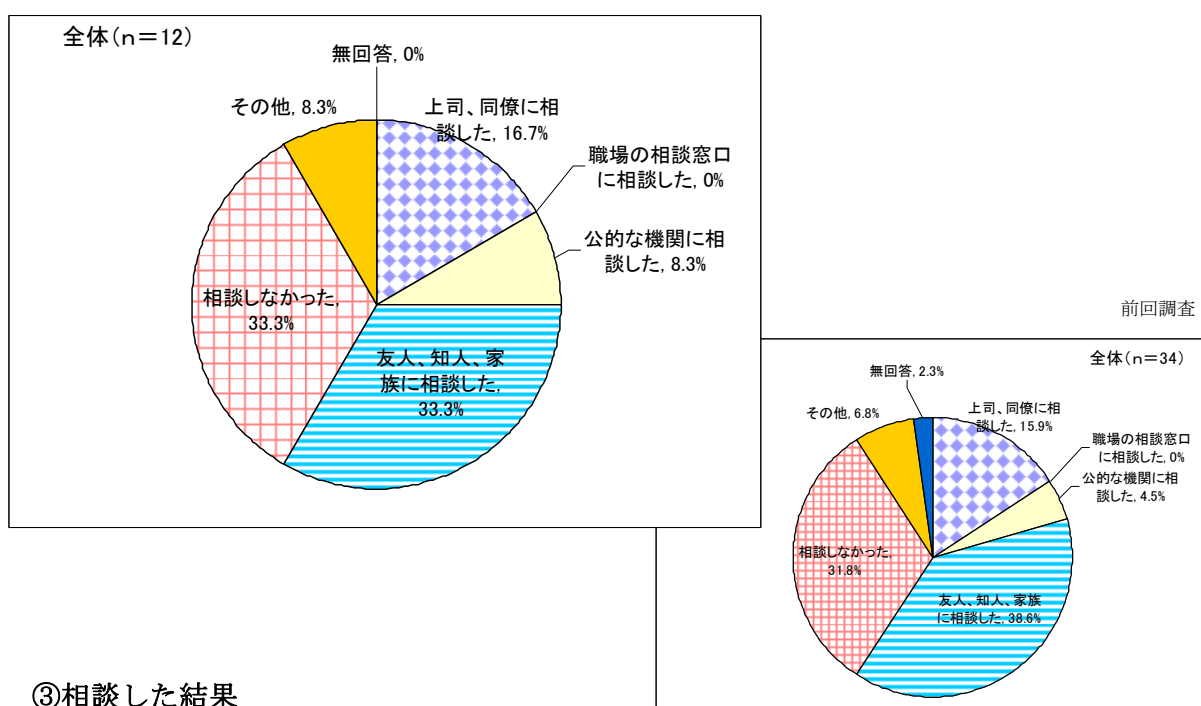
②相談の有無

問35 誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答)

(問34で「1.自分が直接被害を受けたことがある」とお答えの方のみ回答)

～ 全体の6割弱は「相談した」～

全体でみると、6割弱が「相談した」と回答しており、その相談先は「友人・知人・家族に相談した」33.3%が最も多く、次いで「上司、同僚に相談した」16.7%、「公的な機関に相談した」8.3%となっている。前回調査と比べると「公的な機関に相談した」が4.5%から8.3%と約2倍になっている。



③相談した結果

問36 相談した結果、状況はどうになりましたか。(単一回答)

(問35で「1～4.相談した」と答えた方のみ回答)

～ 「あまり変わらなかった」が多い～

※ () は前回調査 回答：件数

	問題が解決された	良い方向に向かった	あまり変わらなかった	かえって悪くなった	その他
全体(n=7)	0(4)	0(8)	5(6)	0(3)	2(1)
女性(n=7)	0(4)	0(7)	5(6)	0(3)	2(0)
男性(n=0)	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)	0(1)

8. 政策決定の場への女性の参画について

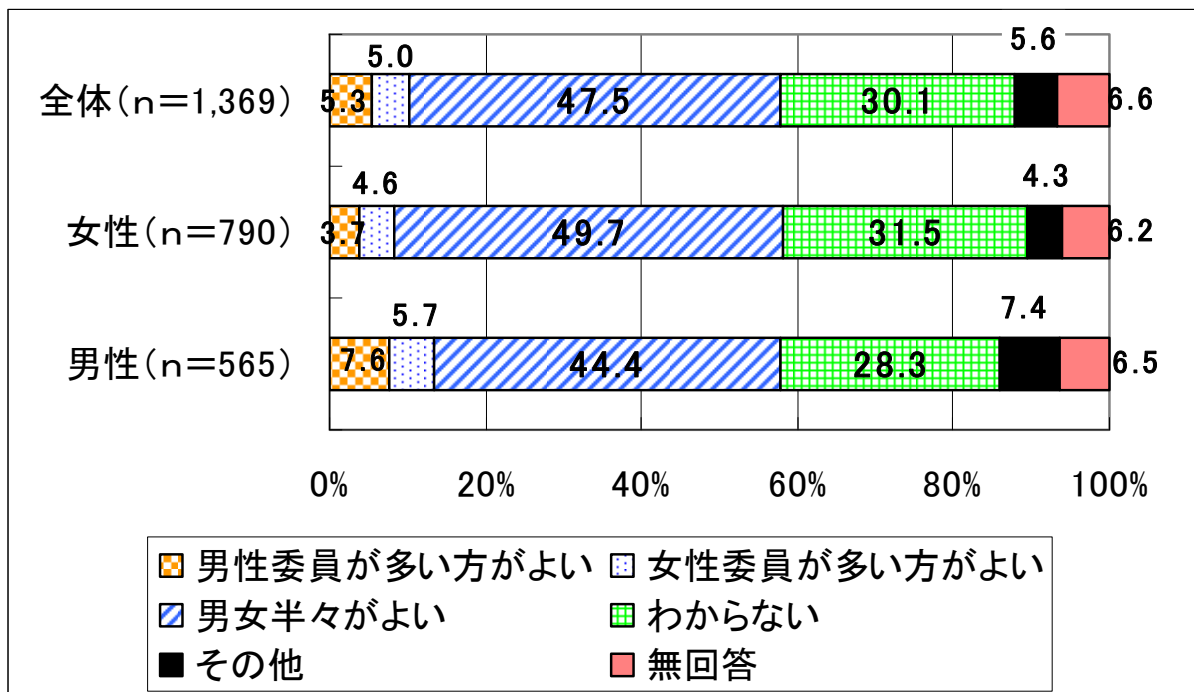
(1) 女性の審議会等への登用状況

問37 まだ女性委員が少ない状況ですが、あなたはどのように思いますか。(単一回答)

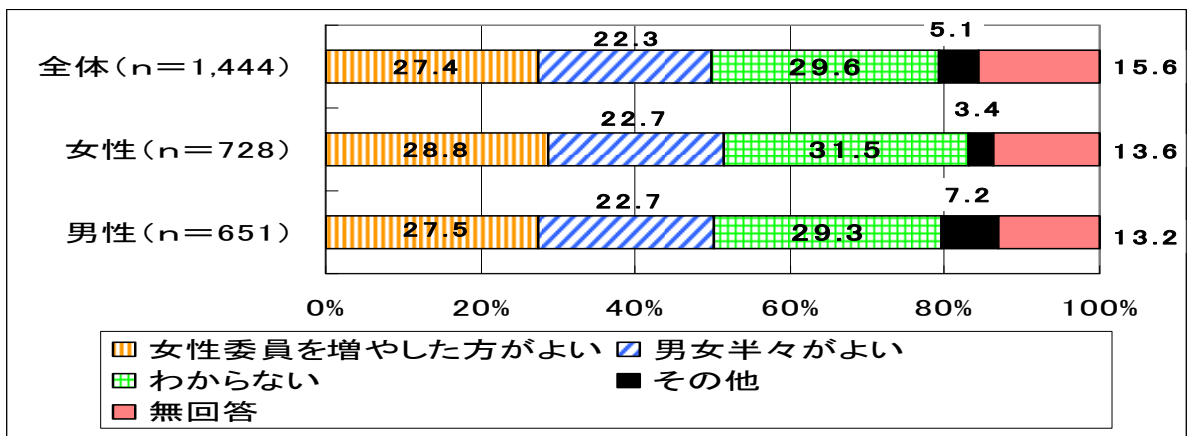
～ 全体の約半数が「男女半々がよい」との回答 ～

全体でみると、「男女半々がよい」(47.5%)との回答が最も多いが、一方では、「わからない」との回答も30.1%となっている。

性別でみると「男女半々がよい」という割合は、男性よりも女性がやや多く回答されている。



前回調査



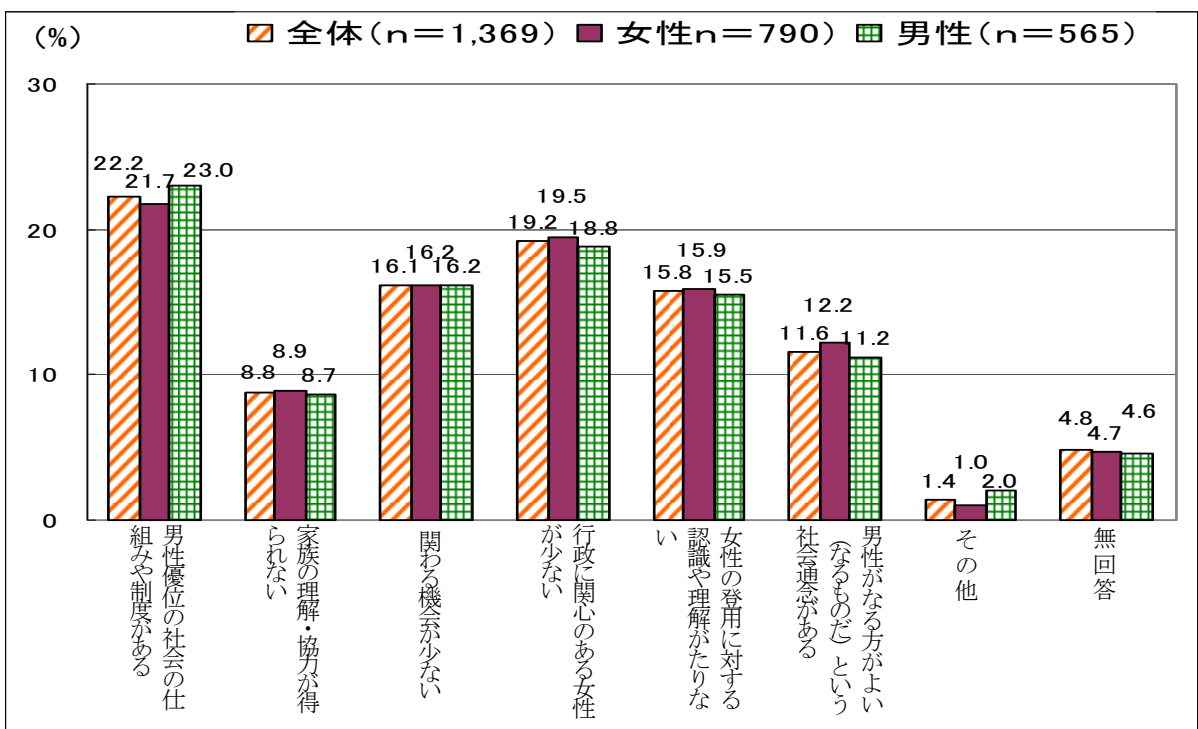
(2)女性委員が少ない理由

問38 審議会等の女性委員が少ない理由はなぜだと思いますか。(2つまで回答)

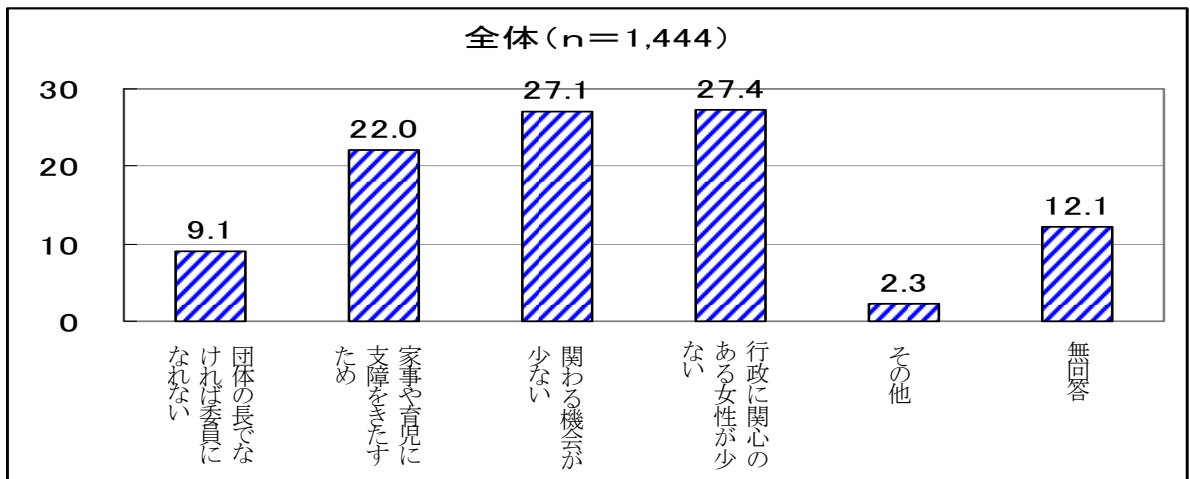
～男女ともに「男性優位の社会の仕組みや制度がある」と考えている～

全体でみると、「男性優位の社会の仕組みや制度がある」が最も多く(22.2%)、次いで「行政に関心のある女性が少ない」(19.2%)、「関わる機会が少ない」(16.1%)、「女性の登用に対する認識や理解がたりない」(15.8%)の順になっている。

性別でみると、男女ともに「男性優位の社会の仕組みや制度がある」が最も多く、同様の認識をもっていることがわかる。



《前回調査》



9. 男女共同参画への要望について

(1) 男女共同参画社会実現に必要な取り組み

問39 男女共同参画社会の実現のため、どのような取り組みが必要だと思いますか。

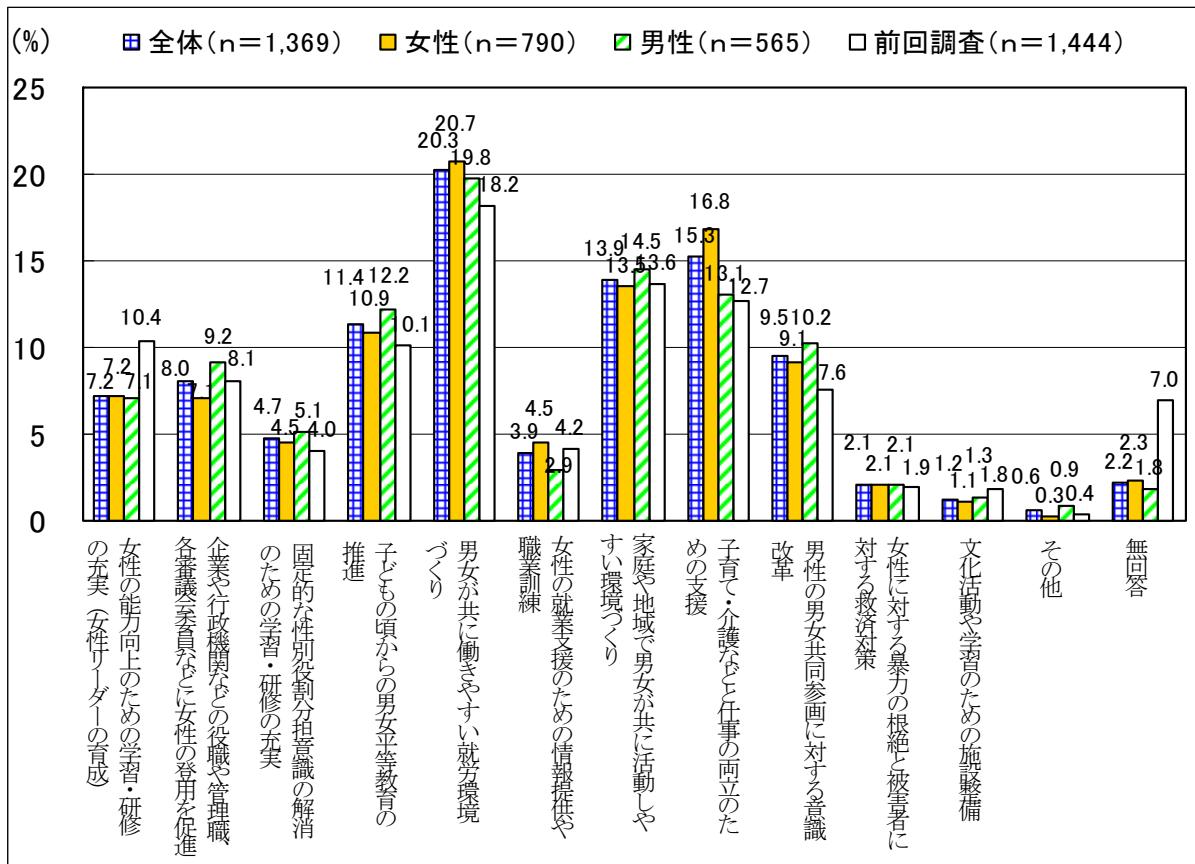
(3つまで回答)

～ 働きやすい就労環境や家庭・地域で活動しやすい環境の整備を望む声が多い ～

全体でみると、「男女が共に働きやすい就労環境づくり」が 20.3%で最も高く、次いで「子育て介護などと仕事の両立のための支援」15.3%、「家庭や地域で男女が共に活動しやすい環境づくり」13.9%などが上位に挙げられている。

性別でみると、男女ともに「男女が共に働きやすい就労環境づくり」(女性 20.7% 男性 19.8%)が最も多くなっているが、次いで、女性は「子育て・介護などと仕事の両立のための支援」(16.8%)、「家庭や地域で男女が共に活動しやすい環境づくり」(13.5%)の順で回答が多いのに対し、男性は「家庭や地域で男女が共に活動しやすい環境づくり」(14.5%)、「子育て・介護などと仕事の両立のための支援」(13.1%)の順となっており、やや男女間で意識の違いがみられる。

前回調査と比べると、「子育て介護などと仕事の両立のための支援」、「男女が共に働きやすい就労環境づくり」、「男性の男女共同参画に対する意識改革」等が増加している。



(2)男女共同参画社会実現に対する意見

問40 男性と女性が、職場・学校・地域・家庭で、それぞれの個性と能力を發揮できる「男女共同参画社会」を実現するために、ご意見・ご要望がありましたら具体的にご記入ください。

様々のご意見・ご要望を書きいただきましたので、下記のとおり掲載いたします。

20歳代 女性	
1	「男女共同参画社会」という言葉を知らない人がたくさんいると思う。言葉や意味を知ってもらう必要があるのではと思った。実際どんな活動をしているのか知りたい。アンケートの結果も知りたいです。
2	お互い尊重しあえればと思う。また、男性優位のような考えをされている人がおり、そのようなことを言うこともあると思うが、理解してもらえよう、言ったその場で、そんなことはないことを話せたらと思います。波風をたてないようににはしたいが、少しずつでも、「男女共同参画社会」という、男性、女性と拘らず、人間同士が理解し合える社会が実現できると良いのではと思う。
3	学校教育では私たちの教育時期から男女平等を教えられてきました。しかし、教育では教わっても、実際社会に出ると現状や現場が平等になっていない事に不満が出るばかりです。教育では十分できているのに社会全般が平等教育を受けるべきだと思います。男性以上に仕事の能力や行動が起こせる女性に社会の波に押しつぶされる現状は昔から変わっていません。役職、管理職や昇格などは絶対男女平等に行われるべきです。企業に労働監督署などからもっと研修や講習会などを設け、指導すべきと思う。この少しでも参考になり、よりよい社会になる事を願って
4	男はこう、女はこうと決め付けるのは悪いと思いますが、男女平等というわりに「女だから出来ない」とか「男がすべき」という女性が周りに数人いるので(自分も含めてですが)、ある程度の差別は必要だと思います。また、ある程度の差別でそれぞれの個性や能力が伸びると思っています。
5	私自身「男女共同参画」という言葉を聞いたのが、ここ2、3年です。両親が少し活動や講演会に参加した事があり、その話を聞かされたのをきっかけに知った感じです。学生の時に学習の中で学ぶことができたらよかったと今になって思います。もっと社会全体に知らせること、学習の中に取り入れることが大事だと思いました。
6	男性と女性がすべて平等になることは難しい。お互いが出来ることをし、意識的に差別をなくすことが必要と思う。それぞれが協力し、その都度どちらがした方が最適なのか考えればいい。
7	職場での対応を変えていく。親が家庭に目を向けて協力的であれば、自然と身についていくもの。休みを増やすのではなく、拘束時間の短縮、手当の充実等、具体的な最低基準を目に見える形で市～国として方針を示すべき。学校においても低学年のうちから社会のあり方を教育してほしい。1人の人間として評価されるべきである。
8	地方は男女共同参画という概念が浸透していない。市民意識の変革を促すとともに、保育士の派遣、育休、介護休暇の取得しやすい社会にする必要がある。
9	これまでの文化は男は仕事、女は家事が定着し、出産できるのは女に限られるということが、良くも悪くも影響している。女性が外に働きに出かけやすい施設の整備、教育費用の軽減を求める。
10	保育園の入園をやすくしてほしい。
11	知らない人も多いのでまずは広く周知する事。女性、男性と妙な区切りで考えるだけでは平等にはならないと思う。

12	結婚して働くためには子どもを預ける場があればよいとおもう(低料金、誰でも受けられる)
13	男性・女性というよりも“一個人”として考えられるようになるのが理想だと思います。
14	”参画”と”参加”の違いを知り、男性・女性がその意味を知る必要があると思う。女性がもっと正しく理解して職場で活躍していただくと願う。
15	子供を持った女性が働きやすい職場づくりをしてほしい。
16	以前に比べれば、「男女共同」の意識は高まった気がする。男性が責任ある仕事を任せられているので助かっている女性もいると思う。完全な平等の世の中は難しいと思う。
17	それぞれの意識の変革。
18	女性が家を守り、男性がお金を稼ぐという考え方はいけないのでしょうか？
19	「男女共同参画」がもっと身近に考えられるようになってほしい。
20	日田市にも核家族は少なくないと思います。経済的に共働きせざるを得ない状況で、育児・仕事が両立できるように、支援などを検討して頂きたいです。
21	女性が働きやすい環境にしてほしい。育児休暇や産休を両立できることを望む。

20歳代 男性	
1	一人ひとりが協力しましょう。
2	家族の話し合いが一番だと思う。女性は男性に比べ、職種の幅が狭い。
3	もっと積極的に広範囲に条例をアピールすることが大事。
4	体の作りや脳の作りから平等ではなく、違いがある。女性だからできること、男性だからできることあると思う。お互い尊重しあい、共に活動できる社会であることを望む。
5	男だから、女だからとかを無くし、平等に協力しあう。育児も男性、女性に関わらず夫婦で協力する。
6	平等や共同が必ずしも半分ということではなく、それぞれの特性や良い部分を出し合って、協力していくことが、男女共同参画社会の形成への近道かもしれない。
7	男性に向いている仕事、女性に向いている仕事がある気がする。大事なことは各個人が同様な仕事をしたいかだと思う。まだ女性の立場は低く、女性自身が身を引いているところがあるのではないかな。意識改革が必要。
8	小さい頃からの教育で男女平等教育を行う。登用(幹部職)などを女性に対しても積極的に行う。女性も家庭(育児)と両立できるような社会の体制づくり(雰囲気づくり)。
9	女性が活躍できる場所を「職場・学校」などで市が協力してサポートし、女性が参加しやすい環境をつくる。
10	女性が家事・育児をするという概念をなくし、男性や家族が少しでもそれに理解し、協力することが必要。

11	男女共同参画社会を実現する為には、地域社会の問題解決も重要だと思いますが、日本全体が健全となって初めて実現すると思います。女性の社会進出は大変喜ばしいと思うのですが、進出が進むにつれ、晩婚化が進み、それが少子化や高齢化を推し進めます。この少子化や高齢化への不安が、女性の社会進出に対する圧力になっているのだと考えます。男女共同参画社会を実現する為には、ただ強引に推し進めるのではなく、社会全体の不安を軽減し、将来が明るい社会を作ることができれば、真の男女平等は実現すると思います。そのためには、現在民主党が行
12	社会の認識、固定概念が変われば良くなると思う。

30歳代 女性	
1	このアンケートがすでに男女の性別にこだわり過ぎているように感じますが？
2	女性が働きやすくしてくれたらと思う。子供が小さいので就職したくてもなかなか時間帯や子供が病気で休まなくてはいけない時があるので、申し訳ない気持ちがある為、なかなか仕事を見つけることができない。私の知っているお母さんたちも何回も面接に行っているけど、ダメだったらしく、子供がいると仕事を見つけるのが難しいです。
3	積極的に女性が参加できる環境づくりの工夫がどんなイベントにも必要だと思います。(特に意識改革的なイベントなど)分かりやすく、親しみやすい環境のイベントが参加しやすいと思います。
4	お互いに思いやりを持つ社会にもっていかないと、制度だけでは難しいと思う。また、給与面など、情報開示や公的な調査なりを実施しないと会社は好き勝手します。上司となる年齢50歳以上の方々が一番男女差別について激しいわけですから、そのような方々に研修なり行ってください。また、女性もそれなりに”女”としての役割を忘れないようにしてほしい。
5	色々な世代を無作為に選んで(50人～100人)日田市の未来と現在の生活の不安要素などを、討論してもらって今後の日田市のために何をどんな活動が地域の活動力になるのかわかると思う。男女共同参画社会に向けて少子高齢化で高齢者を外に活動させて。地域で子供を育てていく。そして、若者を高校卒業後、大学を卒業しても日田にUターンさせる魅力作り。日田だからできる都市⇄田舎の農業留学生制度など、田舎だから出来る事を全面に出して、都会の人が憧れる田舎を目指したらどうか。
6	男女問わず介護や子育て、家事と仕事の両立ができる環境づくりが大切であると考え。女性が安心して働ける環境をつくる。※例えば保育園等の充実や介護の充実(支援)
7	何でも女性を登用しよう等の考えには賛成できない。性別が違うので、それぞれ能力等あると思う。生まれ育った環境で男女の意識が決まると思うので、私自身男性を立てるという環境の中で育っているので、その考えは根本から変えるのは無理である。それぞれの性の個性等を生かしていけばいいのであり、女性が女性という意識を無理に押し付けられても理解できない事も多くある。日田市が今後男女共同参画社会を築き上げるのであれば、子供の教育、生まれた時からの意識を変えないと無理だと思う。
8	男性だからとか女性だからと分けたり、決めつけるのではなく、個人が、得意な分野を担当するような柔軟な体制ができればよいと思います。今からは性別というより個別の能力が問われる時代と思うので、個人がそれぞれの能力を発揮できるような体制、社会になれば、自ずと男女共同参画社会になってくる気がします。
9	女性が社会に参加していくためには、夫や家族の協力や保育園の確保、出産後の働く場所などいろいろな問題があると思います。社会全体での協力、地域の協力など色々改善してほしいです。

10	子供がいるとフルタイムで働けなかったり、地域活動への参加も難しいので、子育て支援の施設充実が望ましい。
11	男女は人間として平等であるべきだが、同質ではないのである程度の役割分担は仕方ないと思う。
12	家庭で個人の意識を高めるだけでなく、社会全体の取り組みが必要だと思う。学校、地域で学習できるよう、行政でも、取り組みを続けてほしい。
13	子育て、仕事の共立がやりやすいように、時間的・状況対応など、直接各職場に市から発信、確認できないか。会社への働きかけ、実際の調査などで会社側の意識も変わっていくのでは。
14	子育て支援の充実。育児休暇を確実にとれる。育児休暇明けの仕事時間の多様さや充実。
15	大人の意識の持ち方、大人が自覚して変えてゆくことが必要。年齢に合わせて男女共同参画社会のあり方、生き方について、考える機会を与えた方がよい。
16	賃金があがらないと、家庭、心の余裕が生まれにくい。夫の理解、協力が必要。
17	男女という前に一人の人間として家族を大事にし、自分の役割を行うことが大事。
18	社会や企業など女性がいるという大切さを理解してほしい。育児や介護、家事も男性がしてもおかしくない。男性も積極的に動いてほしい。
19	子どもを産み、育てるために保育のサービスの見直しを。お金を配るのではなくサービスの向上を。
20	男性が権力を持ち過ぎるからセクハラ、パワハラがおきている。女性の意見がもっと反映される政策で国を変える、きっかけを日田市からつくってほしい。
21	子育て中の女性がもっと働きやすい環境づくりが大切。男女共同参画で活動するのは子育てを経験した人がするべきです。経験がないと子育て中の人の気持ちは分かってもらえない。
22	女性が働きやすい条件の職場が増える事が望ましい。家庭に入っているだけでは男女が一緒に進めていく社会は生れないと思う。
23	自分に責任を持つことが重要。それぞれの役割の中で責任というものを幼い頃から伝えていければよいと思う。
24	男女は体の違いもあり、考え方も違うと思うので、全て同じようにはできない。男女というより、人としての心の教育、モラルが大事。
25	もう少しいろんな場で耳にできるように訴えていけば、市民も意識するようになると思います。
26	全体の保育園の定員を増やし、女性にとって働きやすい、整った保育環境にしてほしい。
27	男性が家事についてもっと理解してくれない事にはわかってくれない。女性がもっと働きやすくしてほしい。女性を優先してくれるとうれしい。
28	少子化を言う前に、小さい子供がいても安心して働ける社会を作るべき。
29	子育てしながら仕事をしていますが、保育園も病気の際は預からず、預け先がなく困っています。病後児保育もあるが、かなり制限があり利用できない社会からのフォローがほしい。
30	個々の意識や理解によるものが大きい。各家庭での環境や学校教育が大切と思う。
31	地域性があり、難しい。若い世代よりも60代以上の活躍が目立つので、幅広い年齢の活躍を期待する。みんながやわらかい頭をもつべき。古きよき手本を残しつつ、新しい考えも取り入れて。

32	給料を男女平等にしてほしい。
33	「男女共同参画社会」を実現するためには、お互いが協力し合うのはもちろん、その為には社会全体が理解し協力してそういう環境づくりをする必要があると思う。しかし現状は難しいと思う。なぜなら自分自身も含め、「男女共同参画社会」について、1人1人がどれほど知っているか、関心を持っているか、基本的に浸透していないように思える。特に20代の若い人たち、又30代以上であっても、どう考えているのか、今後より良い生活をするにはどうしたらいいか、もっと積極的になるべきである。情報をもっと提供し、1人1人が理解し行動しなければ
34	比較的若い世代には、男女で分担して仕事や家事をしていくことに対して抵抗なくなっていると。しかし、年配の方々の中にはやはり固定的な考え方をされる方が多く、職場etcでも“やはり男が高学年の担任を～”という話をききます。年配の方々の意識をかえるのは、むずかしいと思いますが、もう少しかわっていただけるといいなあ～とったりします。
35	固定的な性別役割分担意識は解消された方が良くと思うが、性別による機能(能力・本能)の違いがあるとも思うので、その点も考慮しながら実現を目指す事が必要であると思う。すべてが本当に表面的に平等になるのでは無理が生じると思います。女性・男性と2つの性があるということは、それぞれの特徴を生かし、調和して生活をしていける事が大切なわけで、その点を無視しては、本当の意味での男女平等にはならないのではないかと思います。
36	男女共同参画といわれてから、女性は大変になったと思います。家庭の事だったのに、仕事と家庭、男性は仕事のまま。量が増えたのは女性だけです。仕事の短縮や在宅などの体制を整えるのと、人の手を増やしてほしいです。補助金をくれるよりもいいと思います。杉並区や朝倉市にいい制度があると知りました。そういったことを参考にすると、いいアイデアが出るのではないのでしょうか。
37	平等というより協力ですよね。女性しか子供を産めないし、子育てはたいへんだけれど楽しいですよ。でも、家事と学校行事の協力があればと思います。主婦は家の事、子どもの事、地域の事、仕事とたいへんです。
38	男女平等は理想であるが、体力・体型等に違いがあり、男性と女性が同じように仕事をするのは無理がある。又、結婚すれば妊娠・出産は女性がする。今の法律では、女性にとって思いやりがあるとは言にくい。誰かが犠牲になるような社会は、間違っていると思う。
39	男女それぞれにしかできないことが絶対にあるから、男女平等は永遠に無理だと思う。ただ、役所などの事務的仕事の場合は、女性も役職につけるようになっていないとおかしい。市議など女性になるには、家族のかんりの協力がなければ無理だと思う。
40	すぐに休む事が出来ない職場もあるので、奥さんが休めないなら旦那さんが休めるといった環境づくりが必要だと思います。
41	子育てや介護しながら働く女性をもっと増やしていくことで職場に変化が出ると思うし、社会も変化していくと思う。女性は職場に何をいわれても休みを取らざるをえないこともあるが、男性は休みが取りにくい。企業や官公庁は積極的に男性の育児・介護参加に協力すべき。
42	男、女より個人を優先する時代になってきていると思います。ただ、男性だから、女性だから出来る事は多少なりとあると思います。個人が能力を伸ばせる環境作りが必要かと。

30歳代 男性

1	職により、育休、産休などの制度に差があるように思う。まずは、その部分の見直しが必要であり、国、県、市からの呼びかけが大切だと思う。
2	アンケートに答えるのは良いのですが、何か粗品でもくれるともっといいと思います。こんなことはどんどんするべきです。

3	社会で男が育児休暇をとることは先ずない。休暇がとれる環境(社会的、仕事の)が整っていない。私は建設業で働いていますが、日田では給料が少なく、共働きでないと生活できない。また、少人数の会社、自営だと休めない状況がある。前回もこのアンケートをしたが、表面的には変わっていない。日田市的ではなく、全国的に変えないと何も変わらない。
4	法の整備をすると悪用する者が出てくる。まずは、提案している方から変える必要があるのでは。
5	若年層に対しての教育をしっかりしていく。
6	男女という性の違いでいろいろな差別があるのはおかしいことだと思います。男性にも女性にもすばらしい人はいます。すべての人が能力を発揮できる世の中になればと思います。
7	男性も家のことをするため育児等に休暇を取れやすくするムードを作ることが大切。
8	子供のころからの教育が必要。以前に比べれば、女性の社会進出も増えている。
9	女性はどうしても育児・介護・家庭等の事情で十分に働けない場合が多い。家族の協力、育児・介護を支援する仕組みづくりが必要。
10	「男尊女卑」の意識が日本人には根強く残っている気がします。男女平等に近付けるためには、社会全体からの強い意識改革がまだまだ足りないのではと考えます。とても長い時間が必要だとは思いますが、実現の為に頑張ってください。
11	小学生以下の子供を預かる施設を充実させることによって、女性の社会参画がしやすくなると思う。
12	「男女共同参画社会」になるとどうなるのか、どういうメリットがあるのか、現状のままで何がダメなのか。以上の事がわからないから進まないのではと思います。また、保育園に入れない、入っても料金が安いといったことが、女性の社会進出の足枷になっていると思います。
13	女性が働ける職場が少なすぎる。
14	行政の積極的な経済的支援があれば、男女平等に働く機会や意欲が出てくると思う。

40歳代 女性

1	女性は働きたいと思っても子供が小さい内は、まだまだ条件の揃う職場が見付からず働けない人がたくさんいます。まずは、子供が病気になった時に看てもらえる場所があれば、それだけで、働ける人は増えるのではないかと思います。
2	男性上位の考え方をなくし、もっと女性もたくさんの場所に参加出来るようにする。もっと女性の意見も聞いて欲しい。
3	女性に介護育児全部任されてしまっている。PTAも女性が行くものと決められていることが多い。男性も参加しようという環境や教育をしていかないと改善はできないと思う。
4	男女共同参画社会はとても大切なことだと思う。しかし、世の中には、心の性と体の性が一致しない方や男、女と決め付けられないこともたくさんあるようです。男だから女だからと分けてかんがえなくてもよいことまで分けて考える傾向にあるような気がします。その人が男だから女だからという見方をするのではなく、一人の人として、見られるような社会になっていかなければならないと思います。
5	以前に比べたら女性が社会に参加したり発言したりする機会が多くなったように思うが、あまり男が女がと考えるより、人間として考えた方がいいと思う

6	子供の頃から男女平等のあり方の教育をすべきと思う。
7	7年程前に主人の実家である日田に引越してきましたが、その時男女の意識を感じました。地域性なのでしょうか。
8	女性側の意識も変えないといけないと思います。「女性だから」を使って甘えているところも沢山あると思う。女性は女性ならではの良いポイントを生かせる場所が沢山あると良いのではないのでしょうか？女性消防団の人と話をしましたか？まだまだ、年配の方の中には、「女に何が出来るか」という人がいるようで意識改革が必要かと思う。
9	「男女共同参画社会」という言葉や考え方は一部の人間にしか浸透していないと思う。この考え方を広め、世の中を変えようと思うなら、もっと市政で働きかける必要があると思われる。
10	出産・子育て(3歳くらいまで)はやはり女性中心で考えるべき。子供3人産んだとして、3歳くらいまで家庭に入ると、10年の職場ブランクがあり、再就職が難しい。小学生くらいになると、病気になると休まないといけない。やはり職場の理解と病気でも預けられる所が必要か。
11	地域行事等をみると男尊女卑の傾向が強く、特にそういう幅の年齢層が見受けられる。偏見や無知は根強く残っているもの事実で、それを無くすためには、個人を超えた単位での勉強や文化、啓蒙活動、知的水準の高い市政を期待する。
12	公務員と違い民間では正社員として働く事も難しい。賃金が上がり経済的に安定することが必要。育児、介護など行政としての支援がなければ地域、職場で積極的な活動はありえない。官民格差の解消こそ重要
13	家事、介護は嫁がやるという固定観念がある限り男女平等は難しい。
14	男女共同参画社会というのが良く理解できていない。
15	男性は年齢が上がる程、男尊女卑の考えを持っている。表面上は隠していても、仕事上の大事な所でそれを垣間見せる。女性は若年高齢を問わず、男女平等の願いをもっている。上記のことより、意識改革や学習が必要なのは、年齢の高い男性であり、それは生活においても、仕事においても、社会においてもそうである。
16	職場・学校・地域・家庭でそれぞれ個性と能力を発揮すると、仲間はずれにされたり、潰されたりする。今の国の考えをかえない限り、よくなるない。
17	(小学校の教員をしている方)小さい頃から不必要な男女区別をしないよう声かけ、指導をしているが、現実には周りの影響で子供の意識を変えることはなかなか難しい。これからの日本を作る子供たちには正しい知識をもってほしい。
18	日田は昔ながらのしきたりや男性上位が根強い。
19	女性は仕事、家事とやるが多すぎる、社会全体が変わるべき。
20	男性の意識改革の推進。
21	職場においては、女性が出産しても、また再雇用できるよう、また、育児をしながらでも働けるよう、勤務時間の短縮、有給休暇を考えてほしい。家庭においては、常に助け合い、話し合い、共に協力すべき。
22	若い世代(20~30代)は、男だから女だからという性の差別はそれほどないと思うが、年齢があがるにつれ、男はこうあるべき、女はこうあるべきだという意識が強いと思う。その世代の人たちが、社会や会社のトップやリーダーにいれば、うまくいかないのではないのでしょうか？高齢の方が皆そうだとはいりませんが。
23	上に立つ人の女性に対する接し方が悪い。人によって話し方を変える。もう少し女性が意見を言える職場ならば、社会に貢献できる女性が増えると思う。

24	男の人にできて女の人にできない事、またその反対もあります。その上での平等だと思うし、たがいに思いやることで、相手の負担を軽くしてあげる事だと思います。
25	能力のある女性が意見の言える場を増やし、環境作りの場、発表の場を設定して、男女の共同参画意識の向上を目指してほしい。地域では男が話し合い、女がお茶出しになってしまうので、自治会長ほか、活動ごとのリーダーの意識を変えてほしい。
26	”男性””女性”の性差と”共同””平等”の違いをしっかりと学習しなければいけない。何でも同じでなく、母親・父親の役割がある。日本の文化として、大切にすることはあっても良いと思う。
27	男性と女性の賃金格差をなくす。
28	賃金や待遇で格差がある。役職の年配の男性の意識改革の研修が必要。
29	やれる事をやれる人ができる社会に！
30	男女共同参画は家庭や学校教育の中で培われているものですが、一般社会ができていなければいけないです。参画社会を進める政治家が頭の固い男ばかりでは理念のみで中身が伴わないと思う。
31	まだまだ男主体である。学校や家庭でも男性が参加せず女性が休みを取ることが多い。もっと協力できる環境を。
32	力仕事は男、家事は女今の社会では古いと思うがあります。まずは、考え方を変えないといけない。
33	土地柄の保守的な考えが根深く、もっと開放的な考えを持った方がよい。
34	現実には、日々の生活に追われ、「社会参画」ということまで、ほとんどの人達が意識したり、考えたりしていないことでしょう。「社会参画」は大事なことだとは思いますが、ですから、その意識をもつためには、まだまだ情報や環境を整える必要があるように思います。
35	男女それぞれ、別の個性があり特性があるので、あまり声高に平等平等というのは抵抗があります。それぞれの役割がはたせればよいのではと思います。
36	男であれ、女であれ、老人であれ、病人であれ、同じ人間である意識が必要。
37	職につくためパソコンの必要性が多くなってきました。資格をとる為にお金がかかります。でも、支出が多くなると生活の方も苦しくなるのであらかじめしてしまいます。ちょうど子どもが、0, 1, 2才ぐらの時、市報などでパソコン講習会の案内がよくのっていました。子育ても(母乳育児)、大戸と交代できず、行きたいけど行けない状態で、小学生になって時間があき、講習会とかないかなと思いつつ市報とかみるけど、なかなかありません(無料がよい)。時期をのがすと、だめだなと思いました。常時、募集などがあれば、(あそこに行けば、職につくための
38	「男女共同参画」という言葉さえまだ聞いたことがない人がいるのでは。もっとなにか、皆にわかりやすく、理解できるように市報等に載せてもらいたい。
39	若い人達の意識の向上。
40	育児中の社会の環境づくり。
41	男女の違いを認めた上での平等を考えてほしい。

40歳代 男性

1	男女の差別と区別を履き違えないようにする事が必要。社会生活を行う上で差別はいらないが区別すべき事はあるので、その点についての一般の理解がまだ低いように思います。
2	今の時代、生活を維持するのが精一杯の現状です。暇と金に余裕のある方が、上記の事を行政と共に考えていただけると助かります。市民の大半が苦しい生活をしていると思います。他人の痛みはなかなか解りづらい、行政が少しでも助けてあげられたら良いですね。
3	男女が平等である事は基本的に賛成ですが、昔からあるいい意味での習慣や、家族のあり方についてはなくしてはならないと思います。必要以上に女性が平等を唱えることは、いかがなものかと思ひます。肉体的に勝る男性の方が女性を守る立場にあると思ひます。
4	全体的に日田市は女性の登用が少ないと思う。公務員はある程度進んでいると思うが、企業、地域は、まだまだ男性が主になっていることが多い。地域の風土や企業の体質を変えていかなければ、日田市における男女共同参画社会の実現は難しいと感じる。
5	男女を平等に教育して女性は男性と同じ立場になろうとして幸せにはならないと思う。男性も女性も幸せにしたいと思う社会にならなければDVなどなくなるでしょう。女性と男性は同じではありません。それぞれの教育が必要だと思います。時代にもっと学ぶべきだと思います。
6	日田市の人口を増やすため、活動力を増やすこと。型店を出店して活性化を図った方がよい。少子化対策のため、市が婚活の場の提供を実施した方がよい。
7	男女はそもそも別の生き物なので、考え方や価値観が違うから、全く「男女共同」とはいかない。日本は大昔から培われた文化もあり、アメリカや欧州に見習ってすぐ、男女平等とはいかない。
8	気持ち次第だと思う。
9	在宅勤務・時間短縮労働等が必要。
10	女性は、女性の進出しやすい場にすすめればよい。
11	夫の方が給料が高いので安い妻の方が仕事を休むことが多くなる。家庭の収入などの状況をどうにかしてくれるなら参加するが家庭の事情があるので男女平等社会と言われても考えつかない。
12	生活の中で女性に係る負担が大きいのでまず軽減させることが必要。そのため、法制度や企業では考え方を見直すことが重要。
13	お互いに協力し合って得意なところで支え合うと良いと思う
14	男女それぞれの役割や、能力をきちんと行かせる手立てや考え方が必要と思う。
15	体面上、平等であることを示すためだけに女性登用率の目標を設定するのではなく、純粋に女性の意見を反映する目的をしっかりと掲げていただきたい。核家族化の進行を抑えることも、他の大きな社会問題の解決と同時に女性の社旗進出を促す大きな助けとなる。
16	男性女性ともに役割がある。平等とかありえない。女性の素晴らしいところをもっと伸ばすようにしてほしい。
17	男女が平等に生活していく為の政策や社会システムを根本から変えていく必要がある。
18	母子家庭には母子手当があるのに父子家庭にはなぜないのか？母親は子供が具合が悪い時は職場でもすぐ帰る事ができるのに父親はできない！ものすごく男性に不利の様にあるのですがこれでいいのだろうかと思う！

19	男女共同参画社会が望ましいとは思いません。
20	男女共に良識が必要。良識を持って男女共にに高めあうことが必要。
21	男女共同参画社会はよいことだが、女性が小さいことにこだわりすぎている。

50歳代 女性	
1	男性も介護が大変なことを学ぶべきだと思うし、もっと子育てに関心をもつべきだと思う。女性任せにせず、もっと女性の仕事は外で働くばかりか家庭での仕事もあるのだから、いたわりが必要だと思う。
2	職場で女性が認められる事は大変です。男性の何倍も頑張らなくてはなりません。もっと男女平等な職場になれば男性が女性に対する態度が変わるのでは。
3	日本は昔から男は仕事、女は家事と風習があり、なかなか外に出て活動するというのが、後ろめたい所があり、地域に対してわからないことが多いと思います。これからは男女共に色んなことに参加し、地域のことも覚え協力をするということが社会のため、職場でも良い仕事ができると思います。
4	実際に介護をしてみてわかった事は、どんなに話をしてみても自分に関わらないと理解してくれません。(夫が単身赴任の時)義母と2人だからこそ義父を介護できましたが、もし一人であればできなかった事です。女性が当然やるべきという観念は変わらないようです。より、社会的啓発運動を望みます。
5	家庭での親の姿を見せることが、子供の生活する上での考え方が良くなると思います。私は物心ついた時から、両親と祖母が、朝、夕喧嘩する家庭だったので、それも昔は女の地位が低いためだと思う。それゆえに、大人になっても、女2人と男1人ですが、仲がいいとは言えません。
6	男女平等とよく言われますが、根本的に男と女は違います。平等であってほしいけど、男女の違いというもの認め合い、お互い助け合って、初めて平等と言えるのではないのでしょうか。全て男女は同じにはならないのです。男にない所、女にない所をお互い補って行ってこそ、平等になれると思います。例えば、何年か前から学校では男の子にも、さん付けで先生は呼ぶみたいですが、型にばかりとらわれ、もっと大事なことを見失っているように思います。男女共、思いやりを持って、お互い認め合えるような社会になればいいなと思います。
7	affirmative action (アメリカなどで)のような対女性政策を積極的にとらない限り、固定観念や通年の破壊は難しい。講演会や学習会等では、論理的に男女は平等とわかっている前提があり、効果が少ないと思う。より、新鮮で刺激的な目に見える策が必要。例えば議会の議員数を男女半々に必ずするとか。結局、どうしても男女を平等に参画させていきたいという強い信念と覚悟も根拠がなければ実現しないと思う。
8	私の年代からすると、今の若い世代の人たちの方が、家事や育児に男性の参加は増えてきていると思う。これは教育が変化しているからと思う。それでも、実際、出産から育児などは女性の方に時間の比率が多いと思うし、止むを得ないかなと思う。休職しても職場復帰しやすい環境づくりがあれば、一時的にも子育てに力を入れられると思うので、そういった取り組みをさらに進めていただきたいと思う。
9	私は公務員ですので、男女差別を感じることはありません。それまでに職場で学習会等で学習してきた成果だと思っています。私の身の回り、会社勤務の方は女性差別を感じると思っていました。私たち公務員だけでなく、その他の職種の方も男女差別がなくなるように、その様な社会になって欲しいと心から願っています。そのためには学習会等で市民が勉強できる機会を与えてほしいと思います。

10	男性の仕事、女性の仕事と未だに考え方が変わっていない。若い男女はかなり上手に協力をしているようになってきていると思う。50歳を過ぎた方は教育の上で男は仕事、女は家と育てられているから考えを変えるのは難しい。女の人仕事をしていても責任がなく、協力して行くよりも、足のひっぱりあいのような所があると思う。考え方を考えるべきと思う。
11	研修は世代別の代表が出席し、年齢層を広げたものはどうでしょうか？
12	男女の問題は家事は女性がすべきものとの考えが、何処から残されているように思う。これを解決するためには市民への学習会を開催したり、啓発をする機会を持つことが大事ではないかと思う。
13	女性は男性よりも能力を発揮しにくい環境におかれている。最近「ポジティブアクション」に取り組む企業が増え、これまでの慣習や性別による役割分担意識をなくし、女性も男性も固定観念にとらわれず、互いに切磋琢磨していこうという試みがなされている。日田の企業でもこれに取り組むことにより、企業のメリットも多くなり、少しでも社会が良い方向に変わっていくと思う。
14	男女共同参画社会の勉強会には女性だけの参加が多く、男性の参加が少ない。夫婦などの参加や話し合いがあると良い。
15	男女共同参画社会という言葉をもっと身近な物に一部ではなく、広めてほしい。
16	育児休暇等制度を定めるだけでなく、取得しやすい環境を整える必要がある。女性の就労環境を見直して欲しい
17	社会全体で育児・介護をするシステムが良い。
18	社会では女性の地位も高くなり、その能力を発揮できるようになったが、家庭では、仕事をもつ女性にとって、家事・育児・町内の出来事など、重い負担になっている。
19	情報が入ってこないのではなかなか参加できない。
20	家庭一人一人いろんな事があり、その人の身になってほしい。
21	男女共同も良いが、男らしい実行力のある男性を望む。
22	家庭においては、出来る人がすると皆が思えばよい。
23	今の学校では男女共同の教育を受け、自然と身につけているのだろうと思う。男女共同参画の活動は自治体ごとに行われ、本当に素敵な国になりつつあると思う。
24	社会全体の性別役割分担が改善されることを願っています。
25	職場の上司からのセクハラがある。問題化すると仕事をやめさせられる可能性があると言えない。本当は、そういう態度を改めてもらい、働きやすい職場づくりをお願いしたい。
26	お母さんが働ける社会を作ってもらいたい(子供を預ける場所、再就職)
27	男女共同参画社会を良く分からない人が多いような気がします。学習、研修の充実をしたほうがよい。
28	女性の場合社会が認めても家庭での応援がまだ薄いと思う
29	男女がお互いに認め合い、理解してあげる事だと思います。
30	育児・仕事・行事・家事・介護と女性の負担が多いです。働いている時間よりも、そのほかの時間のほうが忙しくて、自分の健康も守れず、自分の時間もありません。せめて、土曜日休みがほしいですね。
31	介護の問題を例にとれば、福祉の充実で、女性の社会への参加も増えるのではないかと。

32	40代中頃より上の方の意識を変えることが必要。男女に関係なく、能力のある人をリーダーにすればいいのであって学習会やセミナーより登用を促進することが大切。
33	まだまだ男性の力には及ばない男女共同なんて考えられない。
34	全員の意識を高めるではなく、「0」から作らないと知っている人のみでは駄目。
35	老人ホームで働いていますが、家族の理解もありとても働きやすい環境です。
36	男というだけで全体的に給料に差がありすぎと思う。このアンケートで女性に日差しが当たると良いです。国と男性は弱者に強いです。
37	男女平等を身近な人々が思い、育てていく。
38	男性・女性も自分の仕事と役割を努力すること。家庭において子供の時から男女の差別なく育てること。
39	市民に分かるように計画を立ててください。
40	各地域の公民館等で、型にはまらず学習、研修を行うことが必要。
41	「男女共同参画社会」の「男女」という言葉に違和感がある。地域をみると男性が活躍している場が多い。
42	夫婦別姓でも働ける環境づくりを希望。
43	問39の1にあるように女性の能力向上のための学習、研修などあったらいいかなと思います。でも現実には男女共同参画社会はむずかしいですね。
44	女性は基本的には平等教育を受けてもいるし知的能力も十分あると思います。個々の能力を認め合えるような教育の更なる充実と環境作りをお願いします。
45	特に必要と感じる事がなく、男女間の共同、平等等は、DV等では大切とは思いますが、各家庭の役割を課たす。性が違っても役割はそれぞれにある事を認識すべきだと思います。
46	アンケート依頼が来て初めて男女共同参画の事を知りました。行政としてもっと市民に意識をもたせる機会、アピールが必要だと思います。ごく一部の人の活動ではないでしょうか。一般の人は、そんな事は知るよしもないと思います。私もこの機会にいろいろ気をつけて、市報や新聞等で勉強したいです。
47	職場では対等にできても、家庭まではできないと思う。

50歳代 男性

1	男女の立場や本質的など、綿密な計画を持ち参画社会にマニュアルを作り、実現する。具体的にハンディー等見極めて参画対照とする。男女の優位性を見極める。
2	育児介護の支援施設の充実
3	時間がかかるかもしれないが、やはり子供の頃からの男女平等教育の推進が必要だと思う。
4	行政が目指すべきことは、制度をよくすることであってコンセンサスの形成を行政主導で行うことは危険です。
5	もっと女性の人が家庭から解放される社会へ
6	未婚の人を結婚させて子供(人口)を増す機会を作ったらいいいと思います。結婚相手の紹介等行政サイドでの取り組みをしないと人口減は避けられません。仕事場の確保をしないと人口は減少するばかりです。対策をお願いします。

7	最低時間給の全国統一(国に対して)。就業希望時の年齢不問。
8	男性中心の社会で、男女が当然に働くようにならなければ、女性の能力発揮は厳しいと思う。
9	職場(製材所)では、男性は力がある仕事、女性は男性の補助する仕事と分けている様にみれますが、その人にあった職場であればいいのではないのでしょうか。地域的にはどうしても、年上の方が意見が強い。昔からそうだったと考える方も多く見られる。私の地区は男性も女性もよく意見を出し合っています。小さいころからの慣れではないのでしょうか。
10	女性は頑張っていると思う。私の職場は独身が多い。何故結婚しないかと考えると、①経済的不安②出会いの場が少ない、ように思われます。
11	社会全体が男女平等であることは、個人的には理解しているものと思いますが、自由と平等の履き違えが多くみられるている現状ではないのでしょうか。確かに平等の精神は学校教育を受けて理解しているが、今は権利の主張を大きくする方が増していると思います。声をあげる人はその裏に義務が生じるという事を理解していない人が多くいるという点が気になります。教育において権利を主体とした教えでなく、先に義務を教えた方が将来的に豊かになると思います。先は権利より義務を！
12	情報提供、内容の説明の充実を図る。
13	私は基本的に「男女共同参画社会」には反対です。世の中には男だからできること、あるいは女性にしか出来ないことが多々あると思う。それらをお互いが尊重しあって、お互いの役割を務め果たしていくことが重要です。料理などは、女性にしかできないことであり、また、育ち盛りの子供にとっては食育という重要な問題にも関わってくる。「男女が共同だ」という物差しを作ってしまうことは、絶対におかしいと思う。大事なことは、男女がお互いを尊重しあうことだと思う。
14	「男女共同参画」とは何対する共同参画でしょうか。憲法でも男女平等になっており、制度上は男女平等になっている。
15	子供の頃からの意識改革が必要。性別役割分担でなく、個人個々の役割分担で行うことが大事。
16	男女には身体的に差があることは当然ですが、学校教育の場において、差別と区別を履き違えているように思う。平等=いっしょではなく、男の良い所、女の良い所を伸ばす教育を望む。
17	「男女共同参画社会」についてまだ、認識が少ないのでは。
18	元来、男と女は身体的役割が違い、生理的区別がある。古来からの男女の固定観念を捨て、共に能力、人格を尊重しあう、思いやり精神を確立することが大事。
19	女性をちやほやする人間がいることが問題。女性自身が甘えている。子供のころからの教育が重要。給料・昇進等で、出産・育児の関係で同評価することは困難。能力を発揮できる職場の意識改革が必要。
20	男中心に流れてきた社会だったが「女性参画」を意識する事によって「男女共同参画社会」の方向へ行くのではないだろうか。あまり「男」だから「女」だからを意識せず、関心のあることに参画すればいいと思う。
21	就労環境づくり。学習研修の充実。
22	ある程度の役割分担は必要。女性にしか出来ないこと、男性にしかできないこと、それぞれ適正に応じてやっていけば良い。
23	女性は自分の事に時間を使う人が多いと思う。ボランティアなど取り組む姿勢を学校教育に取り入れる必要があると思う。

24	子どもの時から男女の特性を踏まえた上での「男女平等教育」が必要。「男女共同参画社会」は経済の安定があってからこそ実現するものとする。
25	男性、女性それぞれ互いの仕事をし、特に女性は出産、育児とあり、それらをやっこそ、共同参画が出来ると思う。
26	民間企業では賃金が公務員に比べ約半額並びに2/3となっているので、公務員の方々には実情が分からないと思われる。男女共同という前に市民は経済的に厳しい。ボーナスカットは当たり前となっているので、男女共同参画を考えるよりも、とりあえず越年をどうするかで頭を悩ませている。
27	女性が役割分担意識をすることはもともとだが男性がそれを受け入れる意識を持たないと無理では。役人の意識改革をするべきでは。
28	基本的に市内の賃金が安いので、生活に不安が生じ、活動に参加できにくい。
29	男女共同の前に、やることあるのでは。
30	仕事と家事の両方をこなすことは大変なこと。女性に感謝する気持ちを忘れてしまっています。
31	夫婦や両親の協力などみんなの理解があって、「男女共同参画社会」の認識が必要。
32	男性女性の性の特性に柔軟に対応した教育も必要。相手を思いやる教育。
33	行政の企画は、調査、計画段階、変更な段階で情報提示して、一般の意見を聞き、反映することが共同参画だと思う。
34	核家族が多くなり、年齢差のある人との関わりが少なくなっている現実。幼少の頃から、地域家庭の中で育んでいくコミュニティーが不足していると感じる。日本独特の文化を大切にしつつ、女性の地位、役割の分担などができるといいと思う。
35	基本的に、女性は子供を産み、力も弱い。男性は逆の事が多い。その為、役割分担もケース・バイ・ケースであり、無理やり平等扱いする必要はないのではないかと夫婦で話す事が多いです！
36	意見を出し合って話し合う。
60歳代 女性	
1	男女共に自分に責任を持つ意識。家庭内での子供の教育。ゆとりのある生活が出来る環境。
2	同じ仕事でも男の方が賃金など高い。老人には昔のしきたりがあり、男の方が何でもさせる。
3	部落での集会でも男性の発言だけで、女は無視される。田舎暮らしを進めても地域の人を受け入れない。話し相手がなく、参画社会に溶け込めない。
4	仕事の内容で男女の区別をする傾向があり、男女共同という意識が少ない。
5	男女共同参画社会はよいことだと思います。

6	私は56歳で離婚しました。理由はDVでした。30数年間、夫のいろいろな暴力を受け、近くに嫁いだため、別れることも容易でなく、家を飛び出すことになり、友人の家にお世話になり、裁判所において、調停を立て、離婚成立、仕事もなく、家もなく、大変などん底を経験しました。数年前(女性団体のサークルで活動していたので)DV法のことを学ぶことがあり、私の受けていることがDVであることに覚め、自分の人生を考えて、遅れはしたけど、自分らしく、人生を送ろうと思いい、夫から別れなくてはと必死に……。友人、知人のおかげで、また、
7	女性が社会参加できる場を多く増やすことだと思う。学習や研修の充実も確かに必要とは思いますが、その時ばかりのことでおわらないように、次の段階に進める方向に考えてほしい。今の現状は、若い人たちは、女性の方がしっかりしていて、男性の方が頼りにない人が多いように思う。
8	私たち世代(60代)でも理解できる研修や学習があればと思う。こういうアンケートがくれば答えますが、ないと考えることもありません。
9	新しい時代は当然そういう傾向にいくと思う。共働きの子供の環境をまず、整えてから行うべき。特に学童保育が充実されることを望む。都会と地方で男女共同参画の意識の差がかなりあるように感じる。
10	色んな意見や要望は多くあるけど、これに立ち向かって行動を起こすことはとても出来ない。周りが常に参加する気持ちと改革の志で行動すべきである。
11	個人的は意見ですが、能力のある人はそれぞれの分野で活躍するのは多いに良いことですが、まず、第一に健康な子供を出産し、育てることが、女性の役割ではないでしょうか。そのためには高齢出産は避け、ゆとりを持って子育てできる社会にならなければならない。今の若者はもっと遅くなくてはいけない。女が強くなりすぎました。女はもっと家族の健康に気配りすべきで、健康にはまず、バランスのとれた食事が第1です。今の社会はあまりにも情報がありすぎて悪い方向に進んでいる。もっと安らげる社会にならないでしょうか。
12	アンケートを書く内に、市が進めている「日田市男女共同参画推進条例」の意味が理解できました。私は家庭を持ち、子育てをしながら仕事をしてきました。結婚してずっと現役で働いていた私にとって、こんな制度がもっと早くにあり、主人や義理の父母に協力してもらえたらどんなに良かったかと考えます。田舎ではとても男性に子育てや食事の用意など協力してもらえない体制ではありません。私の仕事は3交代の夜勤もあり、育児・炊事・洗濯・学校行事すべて一人でこなしてきました。休日には農業さえも手伝う過酷な日々でした。女性が男性と同様に社会
13	これからの学校教育やこども会、町内のイベント等で活動しやすい環境づくりを少しずつ時間をかけて作って行けたらいいのではないだろうか。
14	地域では、その人の意見と思ってくれると良いのですが、あんな事言っただけで地域の人に言いわす人が高齢の人には多い。今までの慣習もあり、難しい課題だと思います。
15	男女共に子供の頃の教育により、やさしさと感謝の気持ちを持たせる。
16	介護は地域ぐるみで。若い力を取り入れて楽しいものに。

17	男性の意識改革をしない限り進歩はない。
18	女性の地位が向上していない。女性が子育て食事の用意、全て家を守っていかなければならない。母親に自由がない。 いつでも母は母であって女性ではない。
19	学校など母親だけでる家庭が多い。父親がもっと積極的に出れる場所、時間があればと思う。
20	女性が働いていると、朝・夕に忙しく、新聞等詳しく読むことは難しい。
21	家庭教育が出来ていないから、完全な男女共同参画社会は不可能。
22	夫婦共働きだと子育ては大変。給料が少ないと養育費もかかる。
23	小さい子どもがいると子どもだけの留守番ができない。安心して出られるよう考えてもらえたらと思う。
24	女性だから男性だからでなく各個人の特性を考え適材適所に配置し、みんなが平等に評価してやれば(専業主婦も含めて)理想と思う。
25	男性には男しかできない、女性には女しかできない仕事があり、それを平等にさせる事は困難である。
26	幼少の頃から「男女共同」の環境で育まれていけば、お互い尊重し、自然と個性や能力が伸ばせるのではと思う。
27	各地域での講演会等ときどき必要なのでは。
28	皆さんの前で意見を発表することは大変難しい。それが嫌で参加される人が少ないと思います。
29	「男女共同参画社会」で女性の参加は賛成だが、それに見合うだけの実力と人間的に充実した人ではと思う。
30	特別に「男女共同参画」を掲げる意義に疑問を感じる。男女がお互いを尊重しあうマナーや道徳・思いやりを幼少期から教えることが大切と考える。
31	社会的環境づくりからだと思う。
32	働く場所が少なく、これから先子供たちがどうなるか不安である。
33	公教育の場で取り上げられていますが、問題はそんな教育を受けられなかった年代の方々への啓発と思う。
34	家族の協力社会の支援が必要。
35	男性は労力があり、女性は労力が少ないですが、細部に目が届く。20、30年前より、男女共同参画になっている。
36	全体的にまだ知られていないので、PRした方がよい
37	細かいことは女性の方が気がつく。女性が意見をいっても取り上げない。
38	女性が仕事をする場合、夫が家事も手伝うことが大事。夫婦がよく話し合う。
39	女性が自立することがとても大切なことだと思います。起業したい人が居たら応援して欲しい。そこへ行かれた人が直接見て感じて、話を聞いて、納得するのが意識を変える一番の効果で確実に説得力があると思います。
40	男女共同参画社会実現のために個人としても自由、多様に生きられる社会が前提ではないでしょうか。他県、他市町村を複数みてきたので、日田市において女性が細かく仕事に役立ち、男女協力した姿はみごとであると思われませんが、この点に欠けていると思われれます。

41	「男女共同参画社会」=私たちの年齢になりますと、回りを見ても意識改革「ウヘン」難しそうと思える男性が多いかな。でも年齢と共に協力が必要となってきます。おしつけではなく、お互いを認めながらの協力かなと思います。子供達には、人を思いやる心=相手の立場になって考える事で男女平等にも、いじめの問題にしてもと思いますが、果たして自分自身は？自分を考える良い機会になりました。
42	私の家庭は息子夫婦と孫私達夫婦と主人の母で同居してます 母は介護が必要なだから介護老人ホームに入ってます 私達農業自営だから息子の嫁も働き出してます よく息子が手伝いします いまの世の中はそんなにしてないと役割分たん見たいです 自分今の世の中はこんなではだめネと思ってます 私達の若い頃が1番大変だったです
43	男女共同参画に関する情報が少ない様な気がする。選ばれている方々は、どういう基準にそった方がなられているのでしょうか。個性とか能力を発揮するには、親が子供の小さい頃から、人を尊敬する様な子育てをするべき。そして、子どもを温かい気持ちで育てるべき。個性・能力というのは、親の育て方に左右される。
44	みなさんが頑張って出来る事からの出発。小さな事からの集まりでも人のわを造って大きなわになる様な、枠にとられず楽しみながらの学習会。
45	「男だから」「女だから」ではなく、人間としていかに生きるかを、男女ともに認識できる社会の実現を望みます。
46	生活の為、働きに行っている方が多いので、若い人材がいません。
47	男は仕事、女は家庭で結構。
48	穏やかに仲良く生きられる社会であれと思う。

60歳代 男性

1	日本国において、女性だからという差別はない。むしろ女性の方が強く有利の世の中になっている。将来ますますこの傾向は顕著になっていくであろう。もう十分に男女共同参画となっている。よってこのような企画は不要で、全くの無駄としか言いようがない。税金の浪費である。廃止すべきである。市単独で計画するような問題ではない。
2	業務が深夜等になる場合、女性に気を使う等の事例もあるが、平等は良いことと思うが、それぞれの特性を認め合うことの方が先で、男性、女性と区別することの方がおかしい。
3	一般社会では公務員や銀行員等男女についての給与など平等な職場もあるが大半の職場においては、男女の賃金格差があるのは、周知の事実であると思う。一刻も早く法律の整備、行政の指導等実現すべきであると思う。法律は建前になっており、違反に対して罰則がないのが最もこの問題を遅らせている理由と思う。
4	私の職場にも多数の女性社員が入社していますが、仕事を一緒にして感じることは仕事に対する自立心が少なく男性に頼る傾向が感じられます。それで女性が共同参画するにあたり、意識改革の必要性と能力向上の研修、働きやすい環境づくり、支援の必要性を感じます。それには男性一人ひとりの暖かく、やさしくご指導と女性を育てていくことの大切さと思う。
5	「男女共同参画社会」を実現するためには、経済的なことも大切であり、企業を誘致するあるいは雇用促進を図り、雇用拡大をすることが大事と思う。
6	近年の女性は決して弱くない。むしろ男性の方を逞しく、頼りがいのある人間に育てる方が良い。

7	今の若い人たちの結婚について、昔みたいに世話をする人が少なくなっている。親戚、近所の人たちも無関心の人が多い。男も女ももう少し周りや相手の気持ち大切に思う気持ちが必要。若い人は特に常識がない人が多い。
8	男しか出来ないこと、女しかできないことがある。あまり、両方が相手へ物事を押し付けたり、意見だけを言うだけでは、平等ではない。また、女性も自分は女だからと遠慮したり、甘えたりして、前に出たがらない風潮があり、男性も女のくせにという風潮がある。
9	若い世代に活気ある世の中にしてもらいたい。
10	人種差別と同じで男と女で踏み込めない部分がある。
11	男性は仕事、女性は家事・育児とそれぞれ分担して生活することが幸せではないか。
12	男女共同参画には、まず生活にゆとりが出来ることが大事。
13	女性も多いに社会で活躍してもらいたい。家族・社会の理解が必要。女性は細かいところに気づくのでより充実できると思う。
14	企業、行政機関などの男女共同参画がどのように進展しているか定期的に公表したらよいと思う
15	女性をもっと意識改革し勉強し堂々と話ができるよう努力すべき。
16	男らしさ女らしさを失わず社会全体が無理なく対等になることが望ましい。そのための学習・研修で男女ともに意識改革や環境づくりが必要。
17	能力のある者を登用する。管理職の意識改革が大切。
18	地域によって「男女共同参画」の関心がうすい。年齢に応じて研修意識改革が必要。
19	50過ぎの働く場がない。
20	女性が働きながら子育てできる体制を支援する(保育園・介護の充実)、同時に男性も子育てに従事する社会体制を構築する。
21	特別なことをする必要はない。日本は昔から男女が共同して家や地域を支えて来た。女性を男の奴隷とする考えは文化的にない。制度は時代に合わせて変えれば良いが、文化的なものにまで行政が口をはさむ必要はない。但し、家庭内暴力等があれば、これは防がなくてはならない。しかし、元々こういうことをするのは、低劣な人であって、ジェンダーフリーとかとは関係のない話である。
22	非常に難しいが、問39の様な研修の充実
23	女性方も色々と学習や基本の勉強するべきと思う。よくわからないで意見を言うと人格をうたがう。
24	高齢者向けの生涯学習の充実を図ってほしい。
25	男性優位の考え方や仕組みがまだ多いが、女性も自分達の為にもっと活動・参画するべき。
26	男女平等は、男女の行動、義務と責任の遂行と思う。

70歳代 女性	
1	各町内や職場で「男女共同参画」についての学習会をし、法的(国連、国、市条例等)学習会から事例提起まで多岐に渡って学習、啓蒙をして、広く実現を図っていくことが必要。遅れているこの分野の実情を踏まえ意識変革の手だてをとるべきだと考える。
2	私の場合、高齢者なので、今の若い人達のように割り切れぬものもあります。男女平等といえども、女性は女性としての、男性男性としての基本だけは有っていいと思います。男女が互いに理解しあつての男女共同参画であつて欲しいと思います。
3	私の様な年齢の者に若い人の考えはよく判りませんが、まわりの女性達は多くが古い考えで、女性自身の意識の改革が大いに必要ではないかと思ひます。
4	日田はまだまだ男性優位の社会だと思います。
5	個人的な理由ですが、私は老後の方を考えなければなりません。若い方をお願いします。
6	日本は昔から男性社会ですから、今後は都市も地方も女性が平等に活動できる社会になるよう願ひたい。
7	共同参画と離れると思ひますが、女性は結婚後、出産、子育て、子育てが終わつたら親の介護が始まることとなります。その中にご理解をいたひいて外で働く時間を多くとれる事を望みたくひです。
8	社会全体が「共同参画」について、程遠いように感じる。
9	女性リーダー育成のためにもパソコン・インターネットの研修の充実が必要。
10	私達老人はどうしても自分自身の目の前を見つめますので、社会全体の事が無関心になつてしまひます。特に主人の介護に追われて多忙な毎日の中で精一杯生きています。
11	職場・職種によって変わると思ひるので、対等というのは難しいのでは。

70歳代 男性	
1	女性の能力向上のための学習、研修を充実することや企業、行政機関などの管理職、各審議会委員などに女性の登用を促進することだと思ひう。
2	行政に携わる者がいつも多くの人の声を聞いて欲しいです
3	70代男性です。年寄りに該当する項目が無いです。この位しか協力できません。担当の方に頑張つてください。市民の一人として応援します。
4	女性は自分は女だからという考え方をなくしていくことが大事。男性は、女性も男性能力的には全く平等と考える。男性も女性も互いに偏見をなくすることが最も大切ではないかと常々考えています。
5	幼児時代から男性優位の教育、しつけ、慣習が残つていふと思ひう。大人の意識改革、男性の意識改革が必要。
6	子供の頃から学校や地域での学習がよいと思ひう。
7	男女共同いふことばをつねに人々にうえつけて、家庭にPRすること、人々に意識を持つてもらふこと
8	女性の出産・育児のハンデを職場や地域でカバーできる環境作り
9	個々の意識改革が大切。キメ細かな情報活動を。

10	男しかできないこと、女しかできない事があるので、お互いが話し合い理解しあうこと。男女共同週間に限らず、年中そうであることを望む。
11	男尊女卑の観念を捨て、個々の能力を尊重し、男女の差別なく助長すべきである。
12	私共の年令で女性の方でこの問題に正面から考える人ととても出来ないと云う人、昭和30年以後生まれた人、私みたいに戦前生まれでは認識のずれがあり、年令的に参画するのも大変と思います。行政の指導ではなく、自己啓発することが一番だと思います。
13	核家族化と夫婦共働きで、子供に人間としての大切な事を教える事を忘れていると思う。

■ 男女共同参画意識調査 ■

今回のアンケート調査は日田市内に住む20歳以上の男女の中から無作為に抽出した3,000名の方々に調査をお願いしております。

本市では、男女が共に性別にとらわれず主体性を持って、あらゆる分野に参画できる社会を実現するため、平成13年3月に日田市男女共同参画基本計画(10年計画)を策定しました。平成22年度がその最終年度にあたることから市民意識調査を実施し、平成23年度以降の第2次基本計画を策定するための参考資料とするものです。

この調査は、家庭生活・職場・社会活動などのさまざまな場面における男女の意識の違いや実態についてお聞きします。

大変多くの質問をさせていただいておりますが、趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

※本アンケート調査でご回答いただきました内容は、すべて統計的に処理いたしますので、あなた様のお名前や情報が外部に公表されたり、商品・サービスの販売・勧誘などでご迷惑をおかけすることは一切ございません。

ご記入にあたって

1. ご記入は、鉛筆、黒か青のボールペン、万年筆などをお願いします。
2. ご記入は、あなたが思われるものの番号に○印をつけてください。
3. 質問によっては、「1つだけ」「3つ」のように、質問文に書いていますので、ご注意ください。
4. また「その他(具体的に)」のように、具体的なご意見を書く場合もありますので、ご記入をお願いします。
5. ご記入が終わった後、お手数ですがご記入もれなどのないよう、再度確認をお願いします。
6. 調査票並びに返信用封筒にあなたの住所、氏名の記入は必要ありません。
7. 調査票は同封しました返信用封筒に入れ、**12月18日(金)まで**にご投函ください。なお、切手は必要ありません。
8. この調査票についてご質問等がございましたら、下記までお問い合わせください。

日田市 総務企画部 企画課 男女共同参画推進・統計係
電話 23-3111(代表) 内線 484・485
22-8227(直通)

問7 「問6」で1とお答えになった方におたずねします。
あなたは共働き（夫婦とも収入の伴う仕事をしている）ですか。

1. 共働きである 2. 共働きでない 3. 夫婦共に働いていない

問8 あなたは地域活動またはサークル活動をしていますか。

1. している 2. していない

問9 あなたは、下記の項目について知っていますか。次の（a）～（i）のそれぞれについて、あてはまる番号に○印をつけてください。

項 目	内容まで 知っている	聞いたこ とはある が内容は 知らない	全く知 らない
a. 男女共同参画	1	2	3
b. 男女共同参画社会基本法	1	2	3
c. 固定的な性別役割分担意識	1	2	3
d. 日田市男女共同参画推進条例	1	2	3
e. 日田市男女共同参画基本計画	1	2	3
f. ジェンダー(社会的・文化的につくられた性別)	1	2	3
g. セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)	1	2	3
h. ドメスティック・バイオレンス(夫婦・恋人間の暴力)	1	2	3
i. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3

男女共同参画社会

男女が互いに人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、性別にとらわれることなく、その個性と能力を十分に発揮できる豊かな社会の事です。

男女の意識についておたずねします。

問10 「男は仕事、女は家庭」と性別によって役割を固定する考え方がありますが、あなたはその考え方をどう思いますか。あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び○印をつけてください。

- | | |
|--------------|----------|
| 1. 賛成 | 2. 反対 |
| 3. どちらともいえない | 4. わからない |

問11 あなたは、次の分野において男女平等がどの程度、実現されていると思いますか。a～hのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近い番号を1つだけ選び○印をつけてください。

項 目	優遇されている 男性の方が非常に	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	平等である	どちらかといえば 女性の方が優遇さ れている	優遇されている 女性の方が非常に	わからない
a. 家庭生活	1	2	3	4	5	6
b. 職 場	1	2	3	4	5	6
c. 地 域	1	2	3	4	5	6
d. 学校教育	1	2	3	4	5	6
e. 政治の場	1	2	3	4	5	6
f. 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
g. 社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
h. 社会全体	1	2	3	4	5	6

家庭生活についておたずねします。

問12 結婚している方（事実婚を含む）におたずねします。

あなたの家庭では、次の役割分担を主に誰がしていますか。あなたのご家庭にあてはまる番号を【回答欄（1）：現状】から、あなたが理想とお考えの番号を【回答欄（2）：理想】から、それぞれ1つずつ選び○印をつけてください。

（a）～（i）のうち、あてはまらない項目については、記入する必要はありません。

項 目	【回答欄（1）：現状】						【回答欄（2）：理想】					
	主に夫（※①）	主に妻（※②）	夫婦で共同	主に父（※③）	主に母（※④）	他の家族	主に夫（※①）	主に妻（※②）	夫婦で共同	主に父（※③）	主に母（※④）	他の家族
a. 家計の管理	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
b. 食料品などの買い物	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
c. 食事のしたく	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
d. 食後の片付け	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
e. 掃除・洗濯	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
f. 育児・子どものしつけ	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
g. PTAへの出席	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
h. 町内行事等への参加	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
i. 高齢者の世話・介護	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6

※①・②は、回答者ご自身のことを示します。

※③・④は、回答者のご両親あるいは義理のご両親を示します。

「男女共同参画週間」

平成11年6月23日施行の「男女共同参画社会基本法」に対する理解を深めるため、毎年6月23日から29日までの1週間を「男女共同参画週間」として、全国で様々な啓発活動が行われています。

問13 男性が女性とともに家事、育児、介護、地域活動等に参加するためには、どのようなことが必要だと思いますか。あなたのお考えに最も近いものを2つまで選び○印をつけてください。

1. 男性が家事等に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
2. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
3. 職場での労働時間短縮や育児・介護休暇等を取りやすくする環境づくり
4. 男性対象の講習会（料理・育児・介護など）の開催
5. 子どもの時からの家庭教育
6. 学校における男女平等教育
7. その他（具体的に

)

仕事についておたずねします。

問14 あなたと仕事の関係は次のどれですか。あてはまるものを1つだけ選び○印をつけてください。

1. 卒業してから継続して働いている
2. 卒業してから働いていたが、結婚・出産・育児のため一時やめ、また働いている
3. 卒業してから働いていたが、その他の事情で一時やめ、また働いている
4. 卒業してから主婦(主夫)をしている
5. 卒業してから働いていたが、結婚・出産・育児のため仕事をやめた
6. 卒業してから働いていたが、その他の事情で仕事をやめた
7. 定年退職により現在働いていない
8. これまで働いたことはない（学生を含む）
9. その他（具体的に

)

問15 「問14」で1～3とお答えになった方におたずねします。
あなたの今の職場では、女性は男性に比べ、仕事の内容や待遇面で差別されていると思いますか。あてはまるものを1つだけ選び○印をつけてください。

1. 差別されていると思う
2. 差別されていないと思う
3. わからない

問16 「問15」で1とお答えになった方におたずねします。
それは具体的にどのようなことですか。あてはまるものを2つまで選び○印をつけてください。

1. 賃金に格差がある
2. 昇進・昇格に差別がある
3. 能力を正當に評価しない
4. 補助的な仕事しかやらせてもらえない
5. 女性を幹部職員に登用しない
6. 結婚したり子どもが生まれたりすると勤め続けにくい雰囲気がある
7. 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある
8. 教育・訓練を受ける機会が少ない
9. その他（具体的に)

問17 「問14」で1～3とお答えになった方におたずねします。
あなたは、仕事と家庭生活の両立がうまくとれていると思いますか。
あてはまるものを1つだけ選び○印をつけてください。

1. とれている
2. だいたいとれている
3. 全くとれていない
4. あまりとれていない
5. わからない

問18 「問14」で4～9とお答えになった方におたずねします。
あなたは、今後のご自身の仕事についてどうお考えですか。あてはまるものを1つだけ選び○印をつけてください。※この問の仕事とは、家事以外の仕事への従事についておたずねします。

1. すぐ働きたい
2. 将来働きたい
3. いまのままでよい
4. わからない
5. その他（具体的に)

問19 仕事と家庭生活の両立のために、どのようなことが必要だと思いますか。あなたの考えに最も近いものを1つだけ選び、○をつけてください。

1. 男女が共に家事・育児・介護などの家庭生活を協力しあう
2. 育児や介護のための支援施設やサービスの充実
3. 男女が共に育児・介護休暇をとりやすい環境づくり
4. 週休二日制や労働時間の短縮など、多様で柔軟な働き方を推進する
5. その他 ()

問20 あなたは、「女性が職業を持つ」ことについて、どのようにお考えですか。
あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び○印をつけてください。

1. 結婚や出産にかかわらず職業を持ち続ける方がよい
2. 結婚するまで職業を持ち、後は持たない方がよい
3. 子どもができるまで職業を持ち、後は持たない方がよい
4. 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
5. 職業を持たない方がよい
6. その他（具体的に _____)

問21 女性が生涯にわたり仕事を続けるためには、どのような支援や改善が必要だと思いますか。あなたのお考えに最も近いものを3つまで選び○印をつけてください。

1. 就職情報の提供・充実
2. 再就職のための技能研修などの充実
3. 子育て後などの再就職・再雇用制度の充実
4. 女性が働くことを妨げている社会全般の意識・慣習の改革
5. 労働条件の改善（昇進・昇格など待遇格差解消など）
6. 企業などにおける育児・介護休業制度などの充実
7. 多様な雇用形態（在宅勤務、時間短縮労働など）
8. 家族の協力
9. 保育・介護・家事の支援施設やサービスの充実
10. その他（具体的に _____)

問22 結婚している方で、農林業・サービス業等の自営業に従事されている方におたずねします。事業経営の方針や取り決め等、誰が決定されていますか。あてはまるものを1つだけ選び○印をつけてください。

- | | | |
|--------|--------|------------|
| 1. 主に夫 | 2. 主に妻 | 3. 夫婦で話し合い |
| 4. 主に父 | 5. 主に母 | 6. その他 |

※1・2は、回答者ご自身のことを示します。

※4・5は、回答者のご両親あるいは義理のご両親を示します。

問23 あなたは、男性の育児・介護休暇取得について、どのように考えますか。
あてはまるものを1つだけ選び○印をつけてください。

1. 男性も育児・介護休暇を積極的に取るべきである
2. 男性も育児・介護休暇を取ることは賛成だが、現実には取りづらいと思う
3. 育児・介護は女性がするべきであり、男性が休暇を取る必要がない
4. その他（具体的に _____)

問24 「問23」で2とお答えになった方におたずねします。
現実に取りづらい理由は何だと思えますか。あてはまるものを2つまで選び
○印をつけてください。

1. 過去に取った男性がない
2. 職場に取りやすい雰囲気がない
3. 仕事が忙しい
4. 取ると仕事上周りの人に迷惑がかかる
5. 取ると人事評価や昇給などに悪い影響がある
6. 取ると経済的に困る
7. 男性が取ることについて、社会全体の認識が十分でない
8. その他（具体的に)

地域活動についておたずねします。

問25 自治会等地域の集まりや作業の中で、女性も男性と共に参加したり、男性と同じように発言することができにくい雰囲気や状況があると思えますか。あてはまるものを1つだけ選び○印をつけてください。

1. できにくい雰囲気や状況があると思う
2. そういうことはないと思う
3. わからない

問26 「問25」で1とお答えになった方におたずねします。
それはどんな雰囲気や状況だと思えますか。あてはまるものを2つまで選び○
印をつけてください。

1. 役員や催し物の企画等の決定は、主に男性がする
2. 主に男性が中心になっている活動と女性が中心になっている活動に分かれている
3. 集会でのお茶だし、調理などは女性だけがするなど役割分担がある
4. 地域の活動で女性が発言することは、でしゃばりと思われがちである
5. 地域活動に自由に参加できるような家族の理解や協力がでない
6. 地域活動の参加について、女性と男性で出不足金に差がある
7. その他（具体的に)

健康についておたずねします。

問27 あなたは、この1年間に健康診断や検診を受けましたか。

1. 受けた

2. 受けなかった

問28 「問27」で2とお答えになった方におたずねします。健康診断や検診を受けなかったのはなぜですか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

1. 健康であるため
2. 仕事が忙しくて受ける暇がない
3. 期日を忘れていた、気がつかなかった
4. 検診の場所が遠い、分からない
5. 現在通院している
6. その他（具体的に _____)

少子・高齢化についておたずねします。

問29 出生率の低下がいられていますが、あなたはなぜだと思いますか。あてはまるものを2つまで選び○印をつけてください。

1. 男女の晩婚化によるもの
2. 教育費などの経済的負担が大きいから
3. 子育てに関する諸制度が充実していないから
4. 夫婦二人の生活を楽しむ人が増えたから
5. 子育てより仕事に生きがいを感じる女性が多くなったから
6. 男性の子育てに対する協力・環境が整っていないから
7. 子育てに自信や関心がもてないから
8. その他（具体的に _____)

問30 高齢者介護は、まだまだ女性が担っていることが多いのが現状です。あなたは、これからの高齢者介護のあり方について、どのようにお考えですか。あなたのお考えに最も近いものを1つだけ選び○印をつけてください。

1. 男性も女性もともに介護した方がよい
2. 女性が介護した方がよい
3. 男性が介護した方がよい
4. 男女に関わらず、実の子どもが介護した方がよい
5. 原則として社会全体で行う方がよい
6. 女性の役割だと決め付けるのは問題があるが、現状ではやむをえない
7. その他（具体的に _____)

女性の人権についておたずねします。

問31 (DVについて) あなたは、この1年間に、配偶者や恋人など親しい関係にある人との間で、次のようなことをしたり、されたりしたことがありますか。次の(a)～(j)のそれぞれについて、あてはまる番号に○印をつけてください。

項 目		したことがある	されたことがある	ない
身体的 暴力	a. 殴る、蹴る、たたく、突き飛ばす	1	2	3
	b. 命の危険を伴う暴力	1	2	3
精神的 暴力	c. 大声でどなって威嚇する	1	2	3
	d. 家具や食器などを投げたり壊したりして おどす	1	2	3
	e. 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3
	f. 交友関係や電話・外出・メール等を細かく 監視する	1	2	3
経済的 暴力	g. 生活費等の必要なお金をわたさない	1	2	3
	h. お金の使い道を細かく監視・制限する	1	2	3
性的 暴力	i. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ 雑誌をみせる	1	2	3
	j. 嫌がるのに性的な行為を強要する	1	2	3

「日田市男女共同参画推進条例」

市では、職場、学校、地域、家庭など日田市におけるあらゆる分野において、男女が対等な構成員として共に参画することができる男女共同参画社会を実現するため「日田市男女共同参画推進条例」が平成21年10月1日から施行されました。(ただし、第3章苦情及び救済の申出の処理、第4章日田市男女共同参画審議会については平成22年1月1日施行)

問32 「問31」で1つでも「されたことがある」とお答えになった方におたずねします。誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

1. 警察に連絡・相談した
2. 婦人相談所（配偶者暴力相談センター）やその他の公的な機関に相談した
3. 人権擁護委員、民生委員、自治会長などに相談した
4. 弁護士に相談した
5. 家族に相談した
6. 友人・知人に相談した
7. 相談しなかった、できなかった（理由は ）
8. その他（具体的に ）

問33 「問32」で1～6とお答えになった方におたずねします。相談した結果、状況はどうなりましたか。あてはまるものを1つだけ選び○印をつけてください。

1. 問題が解決された
2. 良い方向に向かった
3. あまり変わらなかった
4. かえって悪くなった
5. その他（具体的に ）

問34 あなたは、この1年間に職場でセクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせ）と思われる被害を受けたり、他の人の被害について聞いたことがありますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

1. 自分が直接被害を受けたことがある
2. 同じ職場で被害を受けた人がいる
3. 友人や知人で被害を受けた人を知っている
4. 自分は被害を受けたことはないし、友人や知人で被害を受けた人も知らない
5. その他（具体的に ）

女性に対する暴力をなくす運動



配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護を図るため、平成13年10月にDV防止法が制定され、毎年11月12日から25日までの2週間、「女性に対する暴力をなくす運動」を実施しています。

問35 「問34」で1とお答えになった方におたずねします。
誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

1. 上司、同僚に相談した
2. 職場の相談窓口に相談した
3. その他の公的な機関（大分労働局雇用均等室など）に相談した
4. 友人、知人、家族に相談した
5. 相談しなかった、できなかった（理由）
6. その他（具体的に）

問36 「問35」で1～4とお答えになった方におたずねします。
相談した結果、状況はどうになりましたか。あてはまるものを1つだけ選び○印をつけてください。

1. 問題が解決された
2. 良い方向に向かった
3. あまり変わらなかった
4. かえって悪くなった
5. その他（具体的に）

政策決定の場への女性の参画についておたずねします。

問37 本市では、平成22年度までに審議会等の女性登用率30%を目指していますが、平成21年4月1日現在、日田市の審議会等の女性比率は28.0%です。まだまだ女性委員が少ない状況です。このことをあなたはどのように思いますか。あてはまるものを1つだけ選び○印をつけてください。

1. 男性委員が多い方がよい
2. 女性委員が多い方がよい
3. 男女半々がよい
4. わからない
5. その他（具体的に）

問38 審議会等の女性委員が少ない理由はなぜだと思いますか。
あてはまるものを2つまで選び○印をつけてください。

1. 男性優位の社会の仕組みや制度がある
2. 家族の理解・協力が得られない
3. 関わる機会が少ない
4. 行政に関心のある女性が少ない
5. 女性の登用に対する認識や理解がたりない
6. 男性がなる方がよい（なるものだ）という社会通念がある
7. その他（具体的に）

